

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與佐次郎關與

○不敬被告事件(昭和九年(レ)第七九九號
同年九月三日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 堀内常次郎 辯護人 (一)岡田庄吉

【第一審】 徳島地方裁判所 外一名 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

宣誓セシムヘキ證人ヲ宣誓セシメサル豫審訊問調書ノ證據力

○判決要旨

被告人ノ五親等ノ血族タル證人ヲ宣誓セシメスシテ訊問シタル豫
審調書ハ之ヲ罪證ニ供スヘカラサルモノトス

【参照】 刑事訴訟法第九十六條 證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル

場合ハ此ノ限ニ在ラス

同法第八十六條第一項 左ニ掲クル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一 被告人ノ配偶者、四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族又ハ被告人ト此等ノ親族

宣誓セシムヘキ證人ヲ宣誓セシメサル豫審訊問調書ノ證據力

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人常次郎ヲ懲役一年六月ニ被告人米藏ヲ懲役八月ニ處ス各被告人ニ對シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中各九十日ヲ夫々右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人常次郎ハ九歳ノ頃脊髄炎ニ罹リシカ其ノ兩親ニ於テ天理教ニ歸依シタル後忽チ其ノ健康ヲ回復シ得タルヨリ深ク同教ヲ信仰スルニ至リ天理教校ニ入學シテ其ノ教義ヲ研究シ同校ヲ卒業スルヤ天理教分教會所屬ノ天理教教師トナリ爾後累進シテ昭和六年中權大講義ノ地位ヲ得同教會ノ教務ヲ執掌シ同教會部内所在ノ各宣教所等ニ巡教シ居リタルモノ被告人米藏ハ三十四歳ノ頃ヨリ深ク天理教ヲ信仰シ居村淺川村大字淺川所在天理教加島港宣教所所屬ノ御授人衆トナリ次テ天理教校ニ入學シテ其ノ教理ヲ研究シ昭和八年二月同校六箇月ノ課程ヲ修了スルヤ權訓導トナリ家業ノ傍同教教義ノ宣傳病家ニ到リ治癒祈願等ヲ爲シ居タルモノナル處

第一 被告人常次郎ハ昭和六年九月七日右加島港宣教所ニ於テ相被告人及天理教信徒山本キク 増田フジ 片川ブン 追谷ジノ 松本龜吉 山口明一等ニ對シ天理教教義ノ說話ヲ爲スニ當リ昭和十一年一月二十六日ノ天理教五十年祭迄ニハ日本國ハ全部天理教トナリ昭和十二年十月二十六日同教立教百

年祭迄ニハ全世界ハ天理教ニ歸シ一列平等上下ナキ甘露臺ノ世ノ中ヲ出現スヘシ是レ神ノ理想ナリ人間ハ皆神ノ子ニシテ天皇陛下モ吾々モ御互ニ一列ノ兄弟ナルヲ以テ人間カ人間ニ服従スルコトハ道理ニ合ハス天皇カ偉クトモ偉クナクトモ其ノ子孫タルノ故ヲ以テ即位セラルルカ如キハ神慮ニ反スルトコロナリ一列平等ノ世トナレハ天皇ハ困窮セラレ米ノ一升買二升買ヲ爲サレ其ノ末天理教本部ニ助ヲ乞ハルルニ至ルヘシ一高イ山ニモ水カ漬ク一ト教祖ノ御筆先ニアリ山ノ上ニモ山海嘯アルカ如ク天皇ニモ之ト同様ノコトアルヘキハ天理教本部ニハ既ニ判明セル所ナル旨説示シ

(第二事實省略)

第三 被告人米藏ハ(一)昭和七年三月十四、五日頃前記淺川村大字伊勢田六十七番地谷山忠太郎方前庭ニ於テ米田朝五郎外六名ニ對シ(二)同年四月十七、八日頃同村同字通稱シンバリ所在ノ自己所有耕地横手ニ於テ山崎ベ太郎外四名ニ對シ孰レモ雜談ニ交ヘ天理教教義ヲ説明スルニ當リ天理教祖五十年祭カ來レハ日本人ハ皆天理教トナリ立教百年祭カ來レハ世界ノ人ハ皆天理教徒トナリ(但シ右(二)ノ場合ニ於テハ立教百年祭來ラハ世界ノ人ハ皆天理教徒トナル點ヲ除ク)人ハ皆上下ナキ一列ノ神ノ子トナル人間カ人間ニ服従スルカ如キコトナク天皇陛下モ吾々下々モ皆一列トナリ天理教ノ世トナレハ天皇陛下モ困窮セラレ米ノ一升買二升買ヲ爲サレ天理教本部ニ御助ヲ願ヒニ來ラルル様ニナルヘシ其ノコトハ本部ニハヨク判リ居ル故天皇ヲ御入レスル處カ造リアル旨(三)昭和

八年三月頃同村大字淺川字竹ノ内坪根淺藏方前庭ニ於テ西山利太郎等約二十名ニ對シ天理教祖五十年祭迄ニハ我國ハ世界相手ノ戰爭ヲ爲シ結局日本ハ勝ツモ天皇陛下ハ宮城ニ居ラルルコト出來ス逃
出サレテ天理教本部ニ助ヲ乞ヒニ來ラルヘシ神ハ豫メ其ノ事アルヲ知り天理教本部ニハ其ノ際天皇
ヲ御入レ申ス室カ祕密ニ造リアル旨各談話シ

以テ被告人等ハ孰レモ天皇陛下ニ對シ奉リ不敬ノ行爲ヲ爲シタルモノニシテ被告人米藏ノ所爲ハ犯意
繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人常次郎ノ所爲ハ刑法第七十四條第一項ニ被告人米藏ノ所爲ハ同條第一項第五十五
條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期範圍内ニ於テ被告人常次郎ヲ懲役一年六月ニ被告人米藏ヲ懲役八月
ニ夫々處スヘク同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中各九十日ヲ被告人等ノ右本刑ニ夫
々算入スヘキモノトス

第二審判決ハ證人山崎ベ太郎ニ對スル豫審訊問調書中ノ記載ヲ罪證ニ供シタルモノナル處記録ニ依レ
ハ同證人ハ被告人米藏ノ五親等ノ血族ナルニ豫審判事ハ之ヲ刑事訴訟法第八十六條第一號ノ關係ア
ルモノト認メ宣誓セシメシテ訊問シタルモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告辯護人岡田庄作 一松定吉上告趣意書第三點原判決ハ第二事實ノ證據トシテ「證人山崎ベ太郎
ニ對スル豫審訊問調書」ヲ援用シタリ仍テ同豫審調書ヲ閱スルニ「同證人ハ被告人岳山米藏ト刑事訴
訟法第八十六條第一項ノ規定ニ該當スルモノトシテ宣誓ヲ爲サシメシテ訊問シタル旨記載アリ然
ルニ其ノ第一問答ニ依レハ「私ノ父直次郎ハ岳山米藏ノ祖父喜六ノ實弟テアリマス」(記録七七二丁)
ト供述記載シアリテ右證人ト被告人岳山米藏トハ五親等ノ血族關係アルモ刑事訴訟法第八十六條ノ
規定スル四親等内ノ血族ニアラサルナリ同法第九十六條ニハ證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシト規定シ
アリテ同法第二百一條ニ規定スル以外ノ者ニ對シテハ證人トシテ訊問スルニハ必スヤ宣誓ヲ爲サシメ
サルヘカラサルモノナリトス然ルニ右證人ハ被告人米藏トハ四親等内ノ親族ニアラサルニ拘ラス之ニ
宣誓ヲ爲サシメシテ訊問シタルハ違法ニシテ斯カル豫審訊問調書ハ證據ト爲スコトヲ得サルモノト
ス然ラハ原判決ハ斯カル無効ノ豫審調書ヲ採テ本件斷罪ノ資料ニ供シタル違法アルモノニシテ破毀ヲ
免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

所論ノ證人山崎ベ太郎ニ對スル豫審訊問調書中ノ記載ハ原判決ハ判示第三ノ連續犯ノ一部タル(二)
ノ事實ヲ認ムルノ證據トシテ援用シタルモノナルトコロ證人山崎ベ太郎ト被告人岳山米藏トハ五親等
ノ親族關係ニ在リ四親等内ノ親族關係ニアラサルヲ以テ同證人ハ宣誓ヲ爲サシメタル上之ヲ訊問スヘ

宣誓セシムヘキ證人ヲ宣誓セシメサル豫審訊問調書ノ證據力

キモノナルニ同證人ヲ宣誓セシメシテ訊問セルノ違法アリ該豫審訊問調書ハ之ヲ罪證ニ供スルコトヲ得サルモノナルコト洵ニ所論ノ如シ從テ(二)ノ事實ハ之ヲ認ムヘキ證據ナキニ歸スルモ之カ爲ニ爾餘ノ第三ノ事實カ不敬罪ノ連續犯ヲ構成スルコトニ於テ何等ノ差異ナク又之カ爲ニ量刑ニモ影響ヲ與フルコトナキモノト認ムヘク右探證ノ違法ナルカ爲ニ結局原判決ニ影響ヲ及ホササルモノト爲スヘキヲ以テ論旨ハ結局理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事松阪廣政關與

○收賄贈賄被告事件

(昭和九年(レ)第七五五號
同年九月四日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 島 田 茂 辯護人 (二) 鈴木 義 敏 男
【第一審】 長野地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

村會招集手續ノ違法ト村會議決ノ效力

○判決要旨

村會ノ招集手續ニ違法アリトスルモ其ノ議決ハ取消サレサル限り當然無効ニ非ス

【参照】 町村制第四十七條 町村會ハ町村長之ヲ招集ス議員定數ノ三分ノ一以上ヨリ會議ニ付スヘキ事件ヲ示シテ町村會招集ノ請求アルトキハ町村長ハ之ヲ招集スヘシ

町村長ハ會期ヲ定メテ町村會ヲ招集スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ町村長ハ更ニ期限ヲ定メ町村會ノ會期ヲ延長スルコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日前三日目迄ニ之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限リニ在ラス

町村會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ町村長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得會議ニ付スル日前三日目迄ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ

町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

村會招集手續ノ違法ト村會議決ノ效力

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役五月ニ處ス金百圓ヲ追徴ストノ判決ヲ爲シタリ

被告人島田茂ハ昭和七年九月二十四日長野縣埴科郡雨宮縣村ノ村會ノ決議ニ依リ同村ノ工事委員ニ選任セラレ昭和七年度農村救濟工事澤山川通埴科郡森村、倉科村、雨宮縣村三個村共同河川改修工事ニ付其ノ請負人ノ選定ニ關シ該工事監督ノ權能ヲ有スル公務員トナルニ至リタルトコロ

(一) 豫テ右工事ノ請負ヲ爲サンコトヲ欲シ其ノ運動ヲ爲シ居リタル原審相被告人海沼行雄 岩下德治 梶山銀三等ヨリ右海沼行雄ヲ通シテ右岩下德治ヲ該工事ノ請負人ニ選定セラレ度キ旨ノ請託ヲ受ケ昭和七年九月二十八日被告人肩書自宅ニ於テ右海沼行雄ヨリ右請託ノ下ニ其ノ職務ニ關スル賄賂トシテ交付セラレタルノ情ヲ知リナカラ金二百圓ヲ受取リテ收賄シ

(二) 右海沼等三名ノ請託ニ依リ同人等ヲシテ其ノ目的ヲ達成セシメンコトヲ欲シ自己ト同様雨宮縣村ノ工事委員ニシテ該工事ノ請負人選定ノ權限アル原審相被告人飯島與三郎ニ對シ同様ノ請託ヲ爲シ昭和七年十月上旬雨宮縣村大字上口四百十七番地ナル同人方ニ於テ同人ニ對シ右請託ノ趣旨ノ下ニ金百圓ヲ交付シ以テ公務員タル同人ノ右職務ニ關シ賄賂ヲ爲シタルモノニシテ被告人ノ贈收賄ハ犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中贈賄ノ點ハ刑法第九十八條第一項ニ收賄ノ點ハ同法第九十七條第一項前段ニ各該當スルトコロ贈賄收賄ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シテ連續一罪トシ同法第十條ニ依リ重キ收賄罪ノ刑ニ從ヒ被告人ヲ懲役五月ニ處シ被告人カ收受シタル金二百圓中ノ百圓ハ其ノ原物ヲ沒收シ能ハサルヲ以テ同法第九十七條第二項後段ニ依リ其ノ價格ヲ追徴スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人鈴木義男 二關敏上告趣意書第一點原判決ハ被告人茂ヲ瀆職罪ニ問擬シタリ然レトモ同罪ハ公務員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受スルニ因リテ成立スルモノナルヲ以テ被告人茂ヲ同罪ニ問擬スルニハ同被告人ハ官吏公吏又ハ法令ニ依リ公務ニ從事スル議員委員其ノ他ノ職員タルコトヲ要ス原判決ハ第二事實ノ冒頭ニ於テ「被告人島田茂ハ昭和七年九月二十四日雨宮縣村ノ村會ノ議決ニヨリ同村ノ工事委員ニ選任セラレ前記昭和七年度農村救濟工事澤山川通埴科郡森村、倉科村、雨宮縣村三個村共同河川改修工事ニ付其ノ請負人ノ選定ニ關シ該工事監督ノ權能ヲ有スル公務員トナルニ至リタルトコロ」云々ト認定シ被告人茂ハ昭和七年九月二十四日ノ雨宮縣村村會ノ決議ニ依リ選任セラレタル工

事委員ナリトセリ然ルニ本件記録ヲ調査スルニ原院證人窪田早苗ノ證言及記録一七二三丁以下ノ通知書ヲ綜合スルトキハ兩宮縣村ニ於テハ昭和七年九月二十四日午後一時村會議員協議會ヲ開催スルコトトシ之カ通知ヲ同年同月二十二日各村會議員ニ發シ二十四日村役場ニ於テ村會議員協議會ヲ開キ被告人茂等ヲ工事委員ニ選定スヘキ旨ノ協議ヲ爲シタルニ過キサルコトヲ認メ得ヘシ被告人カ村會議員タルノミヲ以テハ決シテ本件ニ於テ瀆職罪ノ主體タリ得サルコトハ村會議員タルノミニテハ請負人ヲ選定スル權限ナキニヨリテ明ナリ工事委員トシテソカ村條例ニ基ク臨時委員ノ一種トシテ村會ニ於テ適法ニ選舉セラレ且請負人選定等ノ權限ヲ委任セラルルニ及ンテ初メテ刑法上ノ公務員トシテ職務關係ヲ生スルノ可能性アルモノナリ然ルニ前掲證據竝證人ノ證言ヲ閱スルニ昭和七年九月二十四日ノ會議ハ村會議員協議會トシテ召集セラレタルモノニシテ村會トシテ召集セラレタルモノニ非サルコトハ明ナリ而シテ協議會ハ飽クマテ協議會ニシテ村會ニアラス二十二日ノ召集狀ハ協議會ノ召集狀ナレハ之ヲ以テ村會開會ノ爲ノ召集狀ト云フヘカラス假リニ村理事者ノ意思ニ於テ之ヲ以テ村會召集狀ニ代用スルノ意思ナリシトスルモ適式ノ召集告知ニアラサルカ故ニ行政裁判所判例ニ徵スルモ斯クノ如クニシテ開會セラレタル會議體ハ有效ニ村會トシテ成立スルヲ得サルモノトス(大正六年六月五日行政裁判所判決參照)假リニ一步ヲ讓リテ慣行上村會ノ召集告知ニ代用シタルモノトスルモ其ノ告知ノ發セラレタルハ九月二十二日ニシテ開會ノ二日前ニ過キス町村制第四十七條ハ村會ノ召集告知ハ必ス

三日前ニ之ヲ爲スヘキコトヲ規定スルカ故ニ之又適法ノ召集ト云フヘカラス町村制第四十七條第三項前段ニ違背シタル町村會ノ議決ノ效力ナキコトハ夙ニ行政裁判所判決例ノ一致スルコロナリ(大正十一年五月二日判決、十一月十四日判決、十二月一日判決、大正十二年十月三十日判決等參照)斯クノ如ク違法ノ會議體ニヨリテ選舉セラレタル被告人ハ刑法上ノ意義ニ於テノ公務員タル資格ヲ獲得シタルモノト云フコトヲ得ス之ヲ瀆職罪ニ問擬シタル原判決ハ違法ナリ被告人カ選舉セラレタルハ協議會ノ席上ニ於テニシテ其ノ後之カ村會ニ引直サレタルハ全ク別件ヲ議スルタメニシテ全然別個ノモノナリシコトハ押收ニ係ル議事録ノ記載ニ徵シ明ナレトモ假リニ百步ヲ讓リテ當日召集後遽カニ村會ニ引直シタルモノナリトスルモ記録上明ナル如ク當日ハ二名ノ村會議員ノ缺席アリテ之等ノモノハ村會ニ引直スコトニ就テ與ラサルノミナラス村會召集ノ適法ナル告知モ亦之ヲ受ケサリシ筋合ナルカ故ニ引直サレタル村會モ亦有效ニ成立シタルモノト云フコトヲ得ス議員ノ一人ニ對シテモ之ヲ適法有效ニ召集セスシテハ村會ハ適法ナル議事能力ヲ獲得セサルコトハ學說ノ一致スルコロニシテ(美濃部達吉公法判例大系上卷一一四頁以下參照)行政裁判所ノ判決例又其ノ議決ノ有效ナラサルコトヲ屢判示スル所ナリ(大正十二年二月二十二日判決、大正六年六月九日判決參照)(美濃部博士曰ク「適法ニ召集セラレナイ村會ノ議決ハ單ニ取消シ得ヘキ行爲タルニ止マラス全然無効ノ行爲テアルト解スルノヲ正當トスル其ノ理由ハ簡單テアル有效ナル召集ヲ受ケナイテ開會シタ村會ハ村會トシテノ權能ヲ行

ヒ得ヘキモノテナイコトハ更ニ争ノ餘地カナイ唯問題ハ村會議員ノ一部ニタケ召集狀ヲ發シテ他ノ一部ニ召集狀ヲ發シナカッタ場合ニ其レカ有效ナル村會ノ召集ト云ヒ得ルヤ否ヤニ在ルケレトモ村會ノ召集ト云ヘハ必ス村會議員ノ全數ヲ召集スルモノテアルコトヲ要シ其ノ一部丈ケヲ召集シタノテハ有效ナル村會ノ召集カアツタモノト見ルコトヲ得ナイノハ明瞭テアラウト思フ若シ其ノ召集ニ洩レタ者カ村會議員中ノ相當ノ數ニ達シテ居タナラハ其ノ召集カ無効テアルコトニ付テ恐ラクハ何人モ異議カナイテアラウ唯此ノ場合ニハ其ノ召集ニ洩レタ者カ僅ニ一人ニ止マツテ居タ爲ニ多少ノ疑ヲ生スルノテアルカ一人ト云ヘトモ村會ノ議事ニ決定的ノ影響ヲ與ヘ得ヘキ可能性ハ存スルノテアツテ之ヲ召集カラ洩ラシタコトハ其ノ召集ヲ無効ナラシムルコトニ於テモツト多數ノ議員ニ召集ノ手續ヲ爲サナカツタ場合ト異ナルヘキ理由ハナイ云々上掲拔萃)「サレハ有效ニ成立セサル村會ニ於テ選舉セラルルモ被告人ハ決シテ適法ナル公務員ノ資格ヲ獲得シタルモノト云フコトヲ得ス假リニ特別ノ異議ナキ場合行政慣例上斯クノ如キ村會ノ開催カ認メラルルトスルモ本件ノ如ク被告人ノ刑事上ノ責任ヲ定ムル前提トシテ考察スル場合ニ漫然違法ノ召集告知竝ニ無効ノ決議ヲ是認スルコトハ許サレサルコトニ屬ス以上何レノ點ヨリ見ルモ被告人ハ適法ニ公務員タル資格ヲ有スルコトナク從テ被告人ノ本件行爲ハ瀆職罪ヲ構成スヘキモノニアラス然ルニ原判決ハ此ノ點ヲ看過シ被告人ヲ同罪ニ問擬處斷シタルハ重大ナル事實誤認竝ニ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

被告カ雨宮縣村會ノ議決ニ依リ工事委員ニ選任セラレタル判示事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リ之ヲ證明スルニ足り記録ニ徴スルモ右事實ノ誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナシ然ラハ原審カ判示事實ヲ認定シテ之ヲ收賄罪ニ問擬シタルハ正當ニシテ所論ノ違法アルコトナシ假リニ村會召集ノ手續ニ所論ノ如キ違法アリトスルモ村會ノ議決カ取消サレサル以上該議決カ當然無効ナリトノ理據存セス從テ該議決ニ依リ工事委員ニ選任セラレタル被告カ公務員タル資格ヲ有セシコト言フ俟タス論旨理由ナシ

(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴碩文關與

○放火被告事件 (昭和九年(レ)第七五九號 棄却)

(昭和九年(レ)第七五九號 同年九月四日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 岡田源太郎 辯護人 下田錦四郎

豫審ニ於ケル證人訊問調査ト身分問查

○ 判示事項

豫審ニ於ケル證人訊問調書ト身分問查

○ 判決要旨

豫審ニ於ケル證人訊問調書ニ刑事訴訟法第二百一條ノ規定ニ該當スルモノナリヤ否ヲ取調ヘタル旨ノ記載アルトキハ同法第八十六條列舉ノ身分關係ヲモ問查シタル趣旨ナリト解スヘキモノトス

【參照】 刑事訴訟法第八十六條 左ニ掲クル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一 被告人ノ配偶者四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族又ハ被告人ト此等ノ親族關係アリタル者

二 被告人ノ後見人、後見監督人又ハ保佐人

三 被告人ヲ後見人、後見監督人又ハ保佐人ト爲ス者

共同被告人ノ一人又ハ數人ニ對シ前項ノ關係アル者ト雖他ノ共同被告人ノミニ關スル事項ニ付テハ證言ヲ拒ムコトヲ得ス

同法第九十五條 證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及第八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ナリヤ否ヲ取調フヘシ

第八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告クヘ

同法第二百一條 證人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スヘシ
四 第八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニシテ證言ヲ拒マサルモノ

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六年ニ處ス但シ原審ニ於ケル未決勾留日數中九十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ吾郷信黨ヨリ同人所有ノ島根縣飯石郡鍋山村大字乙加宮所在木造曾木葺平家建一棟(時價約二百圓)ヲ賃借シ妻ハナ外三人ノ子女ト共ニ之ニ居住シ精米業ノ傍養蠶等ヲ營ミ來リシカ無限責任多根鍋山信用組合其ノ他ニ對シ約八百圓ノ負債ヲ生シ之カ支拂ニ窮シ居リタルモノナルトコロ昭和八年十月十二日午前三時過頃外出先ヨリ微醉シテ歸宅シ自宅養蠶室ニ入り保温用火鉢中ノ炭火ニ木炭ヲ注キ足サントシテ偶族上ノ繭ヲ眺メ縱令此ノ丹精ノ繭ヲ賣却スルモ繭價暴落ノ爲到底負債ノ利息スラ支辨シ難キヲ思ヒ苦慮スル内豫テ同年五月前記家屋ヲ自己所有ノモノトシテ大阪海上火災保險株式會社トノ契約ニヨリ金額一千圓ノ火災保險ニ付シ居レルコトヲ想起シ寧ロ此際失火ノ如ク裝ヒテ竊ニ火ヲ放チ右住宅ヲ燒失セシメテ前記保險金ヲ受取り一面債務辨濟猶豫ノ口實ヲ作ルニ如カスト決意シ前示火鉢ニ殊更火花ノ飛散シ易キ木炭ノ皮約三十匁ヲ注キ込ミ之ヲ蠶棚ヨリ約六寸ノ近距離ニ差置キ以テ

該皮炭ノ燃燒ニ從ヒ火花カ飛散シテ蠶棚ニ引火シ燃エ上ルニ至ル様作爲シ別室ニ入りテ就寢シ因テ一時間ヲ出テスシテ豫期ノ如ク右炭火ヨリ蠶棚ニ飛火セシメテ遂ニ自己及妻子カ現ニ住居ニ使用セル吾郷信黨所有ノ前記家屋一棟ヲ全燒セシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第八條ニ該當スルヲ以テ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六年ニ處シ同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中九十日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ全部被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

而シテ原判決カ證據ニ引用セル證人千葉伴四郎及同吾郷信黨ノ豫審調書ニハ(前略)右證人ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ(中略)豫審判事ハ刑事訴訟法第二百一條ノ規定ニ該當スルモノナリヤ否ヲ取調ヘ之ニ該當セサルコトヲ確メ偽證ノ罪ヲ告ケ宣誓ヲ爲サシメタル旨ノ記載アリ

○主 文

本件ノ上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人下田錦四郎上告趣意書第二點原判決ハ判示事實ヲ認定シ其ノ證據トシテ證人千葉伴四郎及同吾郷信黨ニ對スル豫審判事ノ各訊問調書ヲ採用シタリ依テ是等豫審訊問調書ヲ閱スルニ各其ノ冒頭ニハ

岡田源太郎ニ對スル放火被告事件ニ付(中略)右證人ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ(中略)豫審判事ハ刑事訴訟法第二百一條ノ規定ニ該當スルモノナリヤ否ヲ取調ヘ之ニ該當セサルコトヲ確メ偽證ノ罪ヲ告ケ宣誓ヲ爲サシメタリ(記録二冊四七〇丁及五四六丁)トアリテ是等證人ニ對シ被告人トノ身分關係ヲ問查スルコトナクシテ直ニ證人トシテ訊問シタルモノナリトス然レトモ刑事訴訟法第九十五條ノ規定ニ依レハ證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及第九十六條第一項ニ規定スル關係アル者ナリヤ否ヲ取調フヘシトアルヲ以テ被告人ノ身分關係ノ問查ヲ缺キタル右各豫審訊問調書ハ違法ノモノナリ從テ同豫審訊問調書ノ記載ヲ採ツテ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ採證ノ法則ニ違背シタル不法アリ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

因テ刑事訴訟法ヲ案スルニ豫審ニ於ケル證人訊問手續ハ先ツ其ノ人違ナキヤ否及同法第九十六條第一項即チ證人ト被告人トノ間ニ親族後見人保佐人等ノ關係アリヤ否ヲ取調ヘ若シ其ノ關係アル者ナルトキハ之ニ對シ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告クヘキコト同法第九十五條ニ規定スル所ニシテ又敘上ノ關係アル者ニシテ證言ヲ拒マサル者ニ付テハ宣誓ヲ爲サシメシテ訊問スヘキコト同法第二百一條ノ規定スル所ナリ所論證人千葉伴四郎及同吾郷信黨ノ豫審訊問調書ヲ閱スルニ冒頭ニ刑事訴訟法第二百一條ノ規定ニ該當スルモノナリヤ否ヲ取調ヘ之ニ該當セサルコトヲ確メ偽證ノ罪ヲ告ケ宣誓ヲ爲サシメタル旨ノ記載アルヲ以テ同條第四號ニ所謂第八十六條第一項ノ身分關係ヲモ問查セル趣旨ナリ

ト解スルヲ得ヘシ故ニ右豫審訊問調書ニハ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上
告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與佐次郎關與

○昭和八年警視廳令第四十二號自動車取締令施行細則違反被告事件

(昭和九年(レ)第八一八號
同年九月六日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 濱田伊助 辯護人 (小川崎 崔次
野喜 作)

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

自動車泥除ヲ備フノ意義

○判決要旨

昭和八年警視廳令第四十二號自動車取締令施行細則第十條ニ所謂
備フトハ何時ニテモ之ヲ取付ケ得ヘキ用意ヲ以テ携帯スルノ意味
ナリトス

【參照】 昭和八年警視廳令第四十二號自動車取締令施行細則第十條 自動車ニハ左ノ
各號ニ該當スル泥除ヲ備フヘシ

- 一 面ノ長車輪ノ直徑ノ三分ノ二以上、高十五種以上ノモノタルコト
- 二 路面トノ距離六種以内ニ取付ケ得ヘキモノタルコト
- 三 翻翻又ハ回轉セサルモノタルコト

同第四十三條 自動車ニ依リ汚水、泥土ヲ飛散スルノ虞アル場合ニ於テハ第十條ノ規
定ニ依ル泥除ヲ裝置スヘシ但シ第十條ノ規定ノ適用ヲ受ケサル自動車ニ在リテハ
此ノ限ニ在ラス

同第五十二條 (中略)第十條(泥除)(中略)第四十三條(泥除)(中略)ノ規定ニ違反シタル
者又ハ第三十五條(當該官吏指示)ノ規定ニ基ク命令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科
料ニ處ス其ノ違反行爲ヲ教唆若ハ幫助シタル者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ科料一圓ニ處ス右科料ヲ完納スルコト能
ハサルトキハ被告人ヲ一日間勞役場ニ留置ストノ判決ヲ爲シタリ

自動車泥除ヲ備フノ意義

被告人ハ自動車運轉手ナルトコロ昭和八年十一月二十九日午前十時五十分頃東京市中野區本町通一丁目三十番地先道路ニ於テ規定ノ泥除ヲ備ヘスシテ貨物自動車第一五六三二號ヲ運轉進行シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ昭和八年警視廳令第四十二號自動車取締令施行細則第十條第五十二條ニ該當スルヲ以テ所定刑中科料ヲ選擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ科料一圓ニ處シ右科料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條第二項ニヨリ被告人ヲ一日間勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人小野喜作上告趣意書ハ原審カ本件所爲ヲ以テ昭和八年警視廳令第四十二號自動車取締令施行細則第十條ニ違反セルモノトシ同令細則第五十二條ニ照シテ處斷セシハ法律ノ解釋ヲ誤リタル不法ノモノナリ昭和八年警視廳令第四十二號自動車取締令施行細則第十條ハ昭和八年內務省令自動車取締令第十九條第二項ヨリ流出制定セラレタルモノニシテ同法ニヨルトキハ地方官ハ自動車ニ依リ汚水泥土ヲ飛散スルノ虞アル場合ニ於ケル泥除ノ備付ヲ命スル規定ヲ設クルコトヲ得ト規定セルヲ以テ右規定ノ反面ニ於テ泥土汚水ヲ飛散スルノ虞ナキ場合ニ於ケル泥除ハ之ヲ備付クル必要ナキヲ示シタルコト

ニ歸結ス而シテ泥土汚水ヲ飛散スルノ虞ナキ場合トハ即チ晴天ノ時ヲ示スモノナルコト自カラ明カナリ果シテ然ラハ自動車取締令施行細則第十條ハ本件事案ノ如キ晴天ノ場合ニ於テハ何等適用ナクシテ汚水泥土ヲ飛散スルノ虞アル時ニ於テノミ始メテ其ノ適用ヲ發生スルモノナリ從テ原審カ右第十條ヲ解釋シテ汚水泥土ノ飛散スルノ虞ナキ場合ニ於テモ尙且泥除ヲ備フヘシト判示シタルハ到底不法タルコトヲ免レス而シテ本件事實發生ノ日カ天氣晴朗ニシテ何等汚水泥土ヲ飛散スルノ虞ナカリシコトハ第一審第二審ヲ通シテ本件刑事記録上明カニシテ證明十分ノモノナリ凡ソ法規ハ國民ノ實生活ヲ離レテ存在ノ理由ナク又其ノ解釋ハ社會規律ニ遠サカリテ之ヲナスノ必要ナシ國民ノ實生活ヲ離レタル規ハ獨リ無用ノ長物タルノミナラス時アリテ國民ヲ毒スルコトアリ法規ノ社會規律ニ背キタル解釋ハ管ニ法規ノ基礎觀念ヲ危クスルノミナラス人民手足ヲ措クニ處ナク迷ヲ生スルコト多カラシ吾人ハ晴天傘ヲ携フルノ實生活アルヲ知ラス白晝提燈ヲ携帯スルノ社會規律アルヲ知ラス勳章ハ他日必要ヲ生スル時ニ於テノミ胸間ニ飾リ付ケ得ラルル設備ヲ爲シ置カハ十分ナリ常ニ之ヲポケットニ納メ携帯スルノ必要ナキナリ蓋シ汚水ニ飛散ノ憂ナク泥土ニ跳跟ノ嫌ナキニ泥除ヲ携帯セヨト判示セル原審ハ吾人ノ實驗則ニ反シ社會ノ實生活ニ悖ルコト多シ須ラク不法ノ判示タルコトヲ免レサルモノナリト云ヒ」追加上告趣意書ハ警視廳令第四十二號自動車取締令施行細則第十條ハ自動車ノ構造裝置ノ一部トシテ「泥除」ヲ吊シ得ヘキ裝置ヲナスヘシト解釋スヘキヲ原審ハ自動車運轉者ハ常ニ泥除ヲ携帯スヘシ

自動車泥除ヲ備フノ意義

ト解釋セリ蓋シ誤アルモノト信ス右取締令施行細則全部ヲ通覽スルニ之ヲ八章ニ分チ其ノ第一章ヲ通則トシ第二章ヲ自動車ノ構造裝置第三章ヲ検査等ノ項目ニ分類排列セリ而シテ各章ハ各々其ノ章ノ項目名稱ニ應シテ必要且特有ノ事項ヲ規定セルモノニシテ右第十條ハ實ニ該第二章「構造裝置」ノ部ニ規定セラレタル一正條ナリ故ニ右第十條ハ自動車ノ構造裝置ノ一部ニ關スルモノトシテ解釋スヘキヲ至當ナリト信ス然ルニ原審ハ之ニ背馳シテ「只單ニ自動車運轉者ハ常ニ泥除ヲ携帯スヘシ」トノミ解釋ヲナシテ本件事案ノ判定ヲ爲シタリ然レトモ本條ヲ斯ク解釋セサルヘカヲサルトセハ上告辯護人ハ何故ニ本條ヲ第二章構造裝置ノ部ニ規定セルヤ其ノ理由ヲ發見スル能ハサルモノナリ上告辯護人ハ本章第十條ヲ解釋シテ「自動車ニハ第十條各號ノ要件ヲ具備スル泥除ヲ必要ニ應シ直チニ吊シ得ラル様ノ裝置ヲナシ置クヘシ」ト解釋スルモノナリ而シテ斯ク解釋シテ始メテ第十條カ本令第二章ニ記載規定セラレタルノ有意義ナルヲ知り得ルナリ尤モ右第十條各號ヲ見ルトキハ自動車ノ一部タル構造裝置ニ關スルカ如キ感アレトモ是ハ自動車自體ノ構造裝置ニアラスシテ必要ニ應シテ將ニ取付ケントスル泥除其ノモノノ構造等ノ事項ヲ規定セルニ過キサルナリ之ヲ以テ敢テ原審カ正當ノ解釋ヲ爲シタリトノ原因トナスニ足ラス之ヲ要スルニ上告辯護人ハ本條ハ泥除ノ裝置ヲナシ置クヘシ若シ自動車車體ニ此ノ裝置ナクンハ右細則罰則第五十二條ニヨリテ處罰セラレ又此ノ裝置ヲナセルニ拘ラス右細則第四十三條ノ事項ヲ遵守セサルトキハ又罰則第五十二條ニヨリテ罰セラルルモノナリト解スルモノナリト云

ヒ」辯護人川崎崔次上告趣意書ハ原裁判所ハ其ノ判決ニ於テ被告人ハ昭和八年十一月二十九日午前十一時五十分頃東京市中野區本町通三十番地先道路ニ於テ規定ノ泥除ヲ備ヘスシテ貨物自動車第一五六三二號ヲ運轉進行シタルモノニシテ其ノ所爲ハ昭和八年警視廳令第四十二號自動車取締令施行細則第十條第五十二條ニ該當スルモノト認メテ被告人ヲ科料金一圓ニ處スル旨ヲ言渡サレタリ然レトモ元來自動車取締令施行細則ハ主トシテ交通ノ安全ヲ圖リ危險ノ防止ヲ目的トシテ制定セラレタル法規ナルヲ以テ其ノ條項ハ其ノ立法ノ趣旨ニ則リ之ヲ解釋セサルヘカラス同令施行細則第二章ハ構造裝置ト題シ危險防止ノ爲ニ必要ナル設備ハ各條悉ク裝置スヘシト明記シ(第五條第六條第八條第九條第十一條第十二條等)獨リ第十條ニハ泥除ヲ備フヘシト記スルノミナラス其ノ第二號ニハ路面トノ距離六種以內ニ取付ケ得ヘキモノタルコトト定メ又第十八條ニ依レハ自動自轉車又ハ貨物ヲ運搬スルノ構造ヲ有セスシテ他ノ車輛ヲ牽引スルコトノミヲ目的トスル牽引自動車及「ロードローラー」ノ類ハ各第十條ノ規定ヲ適用セサルコトヲ定ムルニ由テ之ヲ觀レハ第十條ノ規定ハ危險防止ノ爲ニ設ケタル規定ニ非スシテ單ニ汚水泥土ヲ飛散シテ他ニ迷惑ヲ及ボササルコトヲ目的トスル規定タルニ過キス即チ前示法條ニ依ル裝置ハ自動車ノ體ヲ爲シ第十條ノ泥除ハ自動車ノ用ヲ爲スモノトス是ヲ以テ同令施行細則ハ第五章ノ用法ト題スル條文中第四十三條ニ於テ自動車ニ依リ汚水泥土ヲ飛散スルノ虞アル場合ニ於テハ第十條ノ規定ニ依ル泥除ヲ裝置スヘシト規定シ斯ル場合ニ於テ始メテ泥除ハ自動車ノ體ヲ爲スコ

トヲ明示シタリ由是觀之第十條ノ規定ハ第四十三條ノ場合ニ取付ケ得ヘキ所定ノ泥除ノ用意アルコトヲ命シタルモノニシテ必スシモ常ニ如斯長物ヲ不用ノ時即チ汚水泥土ヲ飛散スルノ虞ナキ場合ニ於テモ尙且之ヲ自動車夫レ自體ニ備置クコトヲ命スルモノニ非スト解スルヲ以テ妥當ナリト謂ハサルヘカラス是第十條ハ危險ノ防止ヲ目的トシタルモノニ非サル規定ノ法意ヨリ稽フルモ當然生スル解釋ナリトス況ンヤ前示ノ各法條ニハ裝置ト謂ヒ即チ自動車夫レ自體ニ裝ヒ置クコトヲ命シ第十條ニハ備フト謂ヒ備置クト謂ハス即チ自動車夫レ自體ニ備ヘ置クコトヲ命セサルニ依リテ之ヲ觀ルモ所謂備フヘシトハ自動車夫、自體ニ備ヘ置クノ意義ニ非スシテ自動車ニ取付ケ得ヘキ用意即チ準備ノ意義ニシテ換言スレハ或自動車ニハ之ニ適應スヘキ規定ノ泥除ノ用意即チ準備ヲ要スルノ義タルヤ洵ニ明瞭ナリト謂ハサルヘカラス然リ而シテ被告人ハ原裁判所ニ於テ證據トシテ提出シタル秋口自動車株式會社サトビス部長長谷川歡三ノ證明書ニ依リテ立證スルカ如ク當時規定ノ雨天泥除器(特許キチセ式)ノ用意即チ準備アリタル事實ハ洵ニ明瞭ナリトス果シテ然ラハ被告人ハ當時其ノ用意即チ準備ニ於テ間然スル所ナキニ拘ラス原裁判所ハ被告人ノ所爲ヲ第十條第五十二條ニ問擬セラレタルハ法文ノ解釋適用ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリト思料ス又第十條ハ主トシテ泥除ノ構造條件ヲ定メ其ノ用意ヲ命シタルモノナルヲ以テ本條ハ此ノ條件ニ反スル泥除ヲ用意若クハ裝置シタル場合ニ於テ其ノ適用ヲ見ルモノトス而シテ被告人ハ前述スルカ如ク本條所定ニ適合スル泥除ノ用意アルヲ以テ全然本條ニ問擬スルノ餘地ナ

シ然ラハ被告人ノ所爲ハ第四十三條ニ該當スルヤト云フニ此ノ點ニ付テハ被告人カ原裁判所ニ證據トシテ提出シタル中央氣象臺ノ證明書ニ依リテ立證スルカ如ク當日ハ晴天ニシテ毫モ降雨ノ徵候ナク第四十三條ノ所謂自動車ニ依リ全然汚水泥土ヲ飛散スルノ虞ナキ場合ノ日和ニシテ途上急遽之ヲ裝置スル用意ノ必要ヲ認メサリシモノナルヲ以テ同令施行細則ニ觸ルル所ナキニ拘ラス原裁判所ハ該細則違犯事件トシテ被告人ヲ處罰セラレタルハ違法ノ裁判ナリト思料スト云フニ在レトモ

昭和八年警視廳令第四十二號自動車取締令施行細則第十條ニハ自動車ニハ泥除ヲ備フヘシトアリ第四十三條ニハ自動車ニ依リ汚水泥土ヲ飛散スルノ虞アル場合ニ於テハ第十條ノ規定ニ依ル泥除ヲ裝置スヘシトアリ第五十二條ニハ右各條違反ノ制裁ヲ規定シアルヲ以テ汚水泥土ヲ飛散スル虞アル場合ニハ泥除ヲ裝置スヘキハ勿論其ノ虞ナキ場合ト雖之ヲ備フヘキモノニシテ茲ニ云フ備フトハ何時ニテモ之ヲ取付ケ得ヘキ用意ヲ以テ攜帶スルノ意味ナリトス原判決ノ認定シタル事實ハ被告人ハ自動車運轉手ニシテ昭和八年十一月二十九日東京市中野區本町通一丁目三十番地先道路ニ於テ規定ノ泥除ヲ備ヘスシテ貨物自動車ヲ運轉進行シタルモノナリト云フニアルヲ以テ假令其ノ日ハ汚水泥土ヲ飛散スル虞ナカリシトスルモ泥除ヲ攜帶セサリシモノナルヲ以テ右施行細則第十條ニ違反シ第五十二條ニ該當スルモノトシテ處斷シタル原判決ハ相當ニシテ何等實驗則ニモ反スルコトナク論旨ハ孰レモ理由ナシ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

○詐欺贈賄被告事件 (昭和九年(九)第七六八號 棄却)

(昭和九年九月七日第四刑事部判決)

【被告人】 被告人 安食 金治 辯護人 卜部喜太郎

【第一審】 山形地方裁判所 【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

瀆職罪ト賄賂投票罪トノ想像的競合

○判決要旨

公務員ニ贈賄シテ職務上公選ノ投票ヲ爲サシメタル行爲ハ一個ニシテ一面刑法第九十八條第一項ニ一面舊刑法第二百三十四條ニ

各該當シ刑法第五十四條第一項前段ヲ適用處斷スヘキモノトス

【參照】 刑法第九十八條第一項 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

舊刑法第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

刑法第五十四條第一項 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六月ニ處ス訴訟費用ハ被告人ト第一審相被告人吉田文雄トノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ肩書居村村長在職中

第一 同村助役タリシ原審相被告人吉田文雄ト共謀シ村公金ヲ騙取センコトヲ企テ昭和七年十月同村ニ於ケル同年度救農土木事業ノ一ツナル同村岩花線道路工事ヲ施行スルニ當リ最上郡大藏村居住ノ早坂作治ヨリ該工費用玉石ヲ代金三百十三圓九十六錢ニテ納入セシムル契約ヲ爲シ置キナカラ恰モ該代金ハ五百二十圓ナルカ如ク裝ヒ同月中旬ヨリ翌十月十五日迄ノ間ニ同村役場ニ於テ收入役田中兼吉ニ對シ數回ニ五百二十圓ニ達スル支拂命令ヲ發シ因テ情ヲ知ラサル同人ヲ欺罔シ其ノ頃前記吉

瀆職罪ト賄賂投票罪トノ想像的競合

田文雄ヲシテ早坂作治ノ爲ニ同收入役ヨリ玉石代金名義ノ下ニ金五百二十圓ヲ受取ラシメ其ノ差額二百六圓四錢ヲ騙取シ

第二 偶村長滿期ニ際會シ昭和七年十月十八日同村會ニ於テ村長選舉カ施行セララルルニ至ルヤ自ラ之カ立候補ヲ爲シ該選舉ニ於テ自己ノ得票ヲ有利ナラシムカ爲

(一) 原審相被告人青柳慶佐藏ト共謀シ同村會議員安食儀三郎ニ對シ右選舉會ニ缺席セムコトヲ請託シ其ノ報酬トシテ同人ニ對シ同月中二回ニ古口驛外一個所ニ於テ合計金五十圓ヲ交付シテ贈賄シ

(二) 原審相被告人吉田文雄 芳賀幸吉ト共謀シ同村會議員安食龜藏ニ對シ前同趣旨ノ請託ヲ爲シ其ノ報酬トシテ同月中旬最上郡大藏村折温泉高山旅館ニ於テ同人ニ對シ金三十圓ヲ交付シテ贈賄シ

(三) 原審相被告人山内作右衛門ト共謀シ同村會議員今井紋藏ニ對シ自己ニ投票方ヲ請託シ其ノ報酬トシテ同月十六日居村ニ於ケル紋藏方ニ於テ同人ニ對シ金三十五圓ヲ交付シテ贈賄シ以テ同人ヲ選舉當日自己ニ投票セシメタルモノニシテ

尙被告人ノ犯示贈賄行爲ハ犯意繼續ニ出テタルモノトス
法律ニ照ラスニ被告人判示所爲中詐欺ノ點ハ刑法第二百四十六條第一項第六十條ニ其ノ贈賄ノ點ハ同

法第九十八條第一項第六十條ニ又賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメタル點ハ刑法施行法第二十五條刑法第六十條舊刑法第二百三十四條刑法施行法第十九條第二條第二十條ニ該當スルトコロ判示第二ノ(三)ノ贈賄ト賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメタル所爲トハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ニ該當シ判示第二ノ(一)(二)(三)ノ贈賄ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條第五十五條ヲ適用シ結局重キ贈賄ノ刑ニ從ヒ右贈賄ト詐欺トハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルニ依リ贈賄ニ付懲役刑ヲ選擇シ同法第四十七條第十條ニ則リ重キ詐欺ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處シ訴訟費用ニ付刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ヲ適用シ主文ノ如ク其ノ負擔ヲ定ムヘキモノトス

主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

辯護人ト部喜太郎上告趣意書第四點原判決ハ其ノ法律適用ノ部ニ於テ「判示第二ノ(三)ノ贈賄ト賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメタル所爲トハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ニ該當シ判示第二ノ(一)(二)(三)ノ贈賄ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條第五十五條ヲ適用シ結局重キ贈賄ノ刑ニ從ヒ云々」ト判示シタリ然レトモ判示第二ノ(三)ハ「被告人ハ原審相被告人

山内作右衛門ト共謀シ同村會議員今井紋藏ニ對シ自己ニ投票方ヲ請託シ其ノ報酬トシテ同月十六日居村ニ於ケル紋藏方ニ於テ同人ニ對シ金三十五圓ヲ交付シテ贈賄シ以テ同人ヲシテ選舉當日自己ニ投票セシメト認定シアリテ右ハ賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメタル一罪ニ止マリ其ノ他ニ贈賄罪ヲ構成スヘキモノニアラサルナリ然ルニ原判決ハ此ノ點ヲ看過シ右行爲ハ賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメタル罪ノ外贈賄罪ニモ觸ルルモノナリト判示處斷シタルハ結局擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

刑法ノ賄賂罪ハ公務員又ハ仲裁人カ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受要求又ハ約束スルカ又ハ公務員又ハ仲裁人ニ對シ賄賂ヲ交付提供又ハ約束スルニ因リ成立シ公務執行ノ公正ヲ維持スルコトヲ目的トスルニ反シ舊刑法第二百三十四條ノ賄賂投票罪ハ賄賂ヲ以テ公選投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ公選投票ヲ爲スコトニ因リ成立シ苟モ公選投票權者タル以上ハ公務員タルト否トヲ問フコトナク而モ其ノ目的選舉ノ公正ヲ維持スルコトニ在リテ刑法ノ賄賂罪トハ犯罪構成要素及法益ヲ異ニス故ニ公務員ヲシテ賄賂ヲ以テ公選ノ投票ヲ爲サシメタル行爲ハ一面刑法第九十八條第一項ニ一面舊刑法第二百三十四條ニ各該當シ刑法第五十四條第一項ニ所謂一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ニ該當スルコト明白ナリトス然レハ原判決カ判示事實ヲ認メ被告人ノ行爲ヲ所論判示法條ニ問擬シタルハ正當ニシテ論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事松阪廣政關與

○業務上横領被告事件 (昭和九年(九)第七七三號 棄却)
(同年九月七日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 濱田邦四郎 辯護人 (三輪壽壯 津島純平)
【第一審】 函館地方裁判所 【第二審】 札幌控訴院

○判示事項

刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ事實上ノ主張ニ對スル判斷ト證據調

○判決要旨

刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ事實上ノ主張ニ對スル判斷ト證據調

公判廷ニ於テ證據調ノ手續ヲ履マサル證據ニ依リ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂事實上ノ主張ニ對スル判斷ヲ示スモ違法ニ非ス

【參照】 刑事訴訟法第三百六十條 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ
法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年六月ニ處ス但シ原審ニ於ケル未決勾留日數中百二十日ヲ右本刑ニ算入ス(訴訟費用ノ點ハ省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ函館市ニ於テ藥種商竝實費診療所ヲ經營スル傍ニ昭和三年四月十八日ヨリ昭和五年四月二十一日ニ至ル迄ノ間八千代生命保險株式會社ノ代理店トシテ又昭和五年四月二十一日ヨリ昭和六年四月三十日迄ノ間日華生命保險株式會社ノ代理店トシテ夫々保險契約ノ募集保險料ノ徵收及諸拂金ノ取次等ノ業務ニ從事シ來リタルカ其ノ業績振ハス多額ノ借財ヲ生シ家計困難トナリタルトコロヨリ被告人カ(一)右八千代生命保險株式會社ノタメ取立テ業務上保管シ居リタル保險料其ノ他ノ金員中金五千九百九十五圓二十二錢(二)右日華生命保險株式會社ノタメ取立テ業務上保管シ居リタル保險料其ノ

他ノ金員中二千九百五十一圓三十二錢以上合計金八千九百四十六圓五十四錢ヲ前示各代理店經營期間中犯意ヲ繼續シテ夫々數十回ニ互リ函館市内其ノ他ニ於テ擅ニ自己ノ用途ニ費消シ以テ横領シタルモノナリ

尙被告人及辯護人ハ當公廷ニ於テ被告人カ判示代理店經營中判示會社ノ爲立替支拂ヲ爲シ同會社ニ對シ請求シ得ヘキ金額ト右會社ヨリ現實ニ被告人ニ送付シ來リタル金額トヲ差引計算スルニ於テハ被告人ノ右會社ニ對スル未送金分ハ現存セサルノミナラス却テ金二萬六千圓餘ノ貸分トナル旨辯疏シ之カ計算書ヲ提出スレトモ前顯各證據ト當審證人加藤忠助及明石英太郎ノ各證言竝同證人等ノ提出ニ係ル計算書ニ照シ右辯疏ハ到底之ヲ採用スルニ由ナシ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百五十三條第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年六月ニ處スヘク尙同法第二十一條ニ則リ原審未決勾留日數中百二十日ヲ右本刑ニ算入スヘク訴訟費用中原審證人北山愛敬當審證人明石英太郎同加藤忠助ニ各支給シタル分ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ全部被告人ヲシテ負擔セシム可キモノトス
而シテ原判決ハ被告人及辯護人ノ事實上ノ主張ヲ排斥スルニ原審第二回及第三回公判ニ於テ取調ヘタル證人加藤忠助及明石英太郎ノ各證言ヲ以テセルモ原審ハ第四回公判ニ於テ審理ヲ更新シタルニ拘ラス右第二回公判調書ヲ讀示セス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人三輪壽壯 津島純平上告趣意書第二點原判決ハ其ノ理由ノ末段ニ「尙被告人及辯護人ハ當公廷ニ於テ被告人カ判示代理店經營中判示會社ノ爲立替支拂ヲ爲シ同會社ニ對シ請求シ得ヘキ金額ト右會社ヨリ現實ニ被告人ニ送付シ來リタル金額トヲ差引計算スルニ於テハ被告人ノ右會社ニ對スル未送金分ハ現存セサルノミナラス却テ金二萬六千圓餘ノ貸分トナル旨辯疏シ之カ計算書ヲ提出スレトモ前顯各證據ト當審證人加藤忠助及明石英太郎ノ各證言竝同證人等ノ提出ニ係ル計算書ニ照シ右辯疏ハ到底之ヲ採用スルニ由ナシ」ト說示シ上告人及辯護人ノ前記主張ヲ排斥シタリ即チ原判決ハ原院公判廷ニ於ケル證人明石英太郎ノ供述ヲ採用シテ上告人及辯護人ノ前記主張ヲ排斥シタルモノナリ然ルニ原院公判調書ヲ閱スルニ同證人ヲ訊問シタルハ第二回公判及第三回公判ノ二度ニシテ而モ同證人等ノ提出シタル計算書ニ關シテハ第三回公判ニ於テ訊問シタルモノナリ仍テ同證人ノ證言ヲ證據トシテ採用スルニハ第四回公判(原判決)ノ基本タル公判ニシテ部員ニ變更アリ審理更新ヲ爲シタルモノナリ)ニ於テ第三回公判調書中證人明石英太郎ノ供述記載ヲ被告人ニ讀聞ケ其ノ意見反證ヲ求メサルヘカラサル筋合ナリトス然ルニ第四回公判調書ヲ閱スルニ裁判長ハ更ニ被告人ニ對シ第一、三回公判調書記載ノ各證

據書類(計算書並目錄及表ヲ示ス)ノ要旨ヲ告ケ且押收ノ證據品全部ヲ示シテ各別ニ證據調ヲ爲シタル都度意見ノ有無ヲ問ヒタルニ被告人ハ之迄申立テタル以外ノ意見ナシト答ヘタリ(記錄八一五丁)ト記載アルニ止マリ右第三回公判調書中右證人ノ供述記載ハ之ヲ被告人ニ讀聞ケ其ノ意見反證ヲ求メタル事迹ノ徴スヘキモノ存スルトコロナク結局原判決ハ適法ニ證據調ヲ爲ササル證據ヲ採用シタル違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ

刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タルヘキ事實ハ罪トナルヘキ事實ニ非サルヲ以テ判文上判斷ヲ示スヲ以テ足り特ニ其ノ判斷ノ理由ヲ證據ニ依リ説明スルノ要ナシ從テ此ノ點ニ關シ縱令證據ニ依リ説明シタルモノアリテ其ノ證據ハ所論ノ如ク公判廷ニ於テ證據調ノ手續ヲ履マサルモノアリト雖モ原判決破毀ノ理由トスルニ足ラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事松阪廣政關與

○新聞紙法違反被告事件(昭和九年(九)第八二二三號 棄却)

(同年九月十日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 渡部信之助 辯護人 大原信一

【第一審】 酒田區裁判所 【第二審】 山形地方裁判所

○判示事項

新聞紙ノ記事ト安寧秩序ヲ紊スヘキ事項 安寧秩序ヲ紊スヘキ記事ト法律ノ適用

○判決要旨

- 一 新聞紙ニ掲載シタル事項ニシテ司法裁判所ノ判決力財閥等ノ重歴干渉ニヨリ不公正ニ行ハレタル如キ疑惑ヲ懷カシムルモノハ新聞紙法第四十一條ニ所謂安寧秩序ヲ紊スヘキ事項ニ該當ス【要旨第一】
- 二 新聞紙ニ掲載セル事實ノ内容カ安寧秩序ヲ紊スヘキ事項ニ該當スルヤ否ハ之ヲ客觀的ニ觀察シテ判斷スヘキ法律上ノ問題ニ屬シ事實ノ問題ニ非ス【要旨第二】

【参照】 新聞紙法第四十一條 安寧秩序ヲ紊スヘキ事項ニ掲載

シタルトキハ發行人編輯人ヲ六ヶ月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

刑事訴訟法第四百九條 上告ハ第四百十二條乃至第四百十五條ニ規定スル場合ノ外

法令ノ違反ヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及證據ノ説明並法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ編輯人並發行人ノ各資格ニ於テ各罰金百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ一日二圓ノ割合ヲ以テ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ肩書住居所在地出羽興民新聞社ニ於テ發行スル新聞紙法ノ規定ノ適用ヲ受クヘキ出羽興民新聞ノ編輯人兼發行人ナルトコロ昭和九年二月三日東京地方裁判所ニ於テ神垣裁判長カ宣告シタル橋孝三郎外十六名大川周明外二名ニ對スル爆發物取締罰則違反殺人及殺人未遂殺人幫助被告事件所謂五・一五事件民間側判決ニ付之ヲ苛酷不當ナリトシ同年同月四日同紙第三百十七號紙上ニ

一 「愛國ノ至誠徹ラス越權ノ聲重大化」ト題シ

「政黨財閥者流ノ醜狀ハ舊態依然タリ相倚リ相謀ツテ私利私慾ニ没頭シテ省ミルトコロナキハ吾人ノ寒心ニ堪ヘサルトコロテアル就中 天皇陛下ノ御名ニ於テ行ハルル公明正大ナルヘキ裁判ニ對シテ己カ特權ヲ以テ強壓セル事實カ暴露セルニ至ツテハ吾人ハ云フヘキ言葉ヲ發見スルニ苦シムモノ

新聞紙ノ記事ト安寧秩序ヲ紊スヘキ事項 安寧秩序ヲ紊スヘキ記事ト法律ノ適用

テアル」

一一四六 (一六三)

二 「重刑判那ノ裁判長顔色俄ニ變色内心自ラ愧怖スルモノアツタカ勿惶トシテ公判廷退席」ト題シ
「神垣裁判長ハ内心自ラ愧怖スルモノアルカノ如ク顔色蒼白ヲ呈シ音聲モ亦甚シク震ヘ宣告ヲ經ルヤ裁判長ノ椅子ニ居タタマラヌ如ク勿惶トシテ退席シタ」

三 「神垣裁判長ノ明鏡止水ヲ疑フ」ト題シ

「背後ニ何等政治的陰影ナク明鏡止水裏ノモノタルヤ」

四 「廻轉椅子」ト題シ

「五・一五事件民間側判決下ル將ニ青天ノ霹靂以上ノモノテアリ沙汰ノ限リテアル狂氣ノ沙汰トハ
コノ事ヲ稱スルモノテアル」

「次ニ來ルヘキハ何テアルカヲ既ニ覺悟シナケレハナラナイ斯ル普通刑法ナリトスルナラハ日本ノ
心アル民衆ハ悉ク犯罪者ト成ルテアロウ」

五 「服罪カ否ヤ」ト題シ

「司法部カカクノ如キ非合法的態度ニ出テタルモノハ昨年夏箱根強羅ニ於テ秘密裡ニ開カレタ郷誠
之助 木村久壽彌太 池田成彬等ノ會談ニヨルモノテアルト云ハレテ彼等財界ノ黑幕連カ自己ノ特權
擁護ノ爲被告諸君ノ重刑ヲ希望シ政府當局者ヲ強壓シテ此ノ舉ニ出テシメタルモノテアルト傳ヘラ

レテ居ル事ノ眞疑ハ兎モ角トシテ同事件ニ連座シタ陸海軍側諸氏ノ判決ト比較シテ餘リニモ過酷ナ
ル斷罪ハ法ノ公正ニ對スル我々ノ信念ヲ動搖セシメサルヲ得ナイモノテアル」

旨ノ記事ヲ掲ケテ安寧秩序ヲ紊スヘキ記事ヲ新聞紙ニ掲載シタルモノナリ

證據ヲ按スルニ右ノ事實ハ被告人ノ當公庭ニ於ケル其ノ旨ノ供述及押收ニ係ル昭和九年二月四日附第
三百十七號出羽興民新聞(證第一號)ノ存在ニヨリ之ヲ認メ得ヘク而シテ判示記事ノ内容カ一般讀者
ヲシテ前記五・一五事件民間側判決カ財閥等ノ重壓干渉ニヨリ不公正ニ行ハレタルカ如キ疑惑ヲ懷シ
ムルモノニシテ安寧秩序ヲ紊スヘキ事項ナルコトハ其ノ内容自體ニ徴シ明瞭ナルヲ以テ判示事實ハ總
テ其ノ證明十分ナリトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ編輯人並發行人ノ各資格ニ於テ新聞紙法第四十一條ニ該當スルヲ以
テ其ノ所定刑中各罰金刑ヲ選擇シ所定金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ編輯人並發行人ノ各資格ニ於テ各
罰金百圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ一日二圓ノ割合ヲ以テ
勞役場ニ留置スヘキモノトス

○ 主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

新聞紙ノ記事ト安寧秩序ヲ紊スヘキ事項 安寧秩序ヲ紊スヘキ記事ト法律
ノ通用

一一四七

(一六三)

辯護人大原信一上告趣意書第一點ハ原判決ハ法律ノ適用上重大ナル過誤アルモノト思惟ス原判決ハ被告
 人カ昭和九年二月四日附出羽興民新聞第三百十七號紙上ニ於テ「愛國ノ至誠徹ラス越權ノ聲重大
 化」ト題シ「政黨財閥者流ノ醜狀ハ舊態依然タリ相倚リ相謀ツテ私利私慾ニ没頭シテ省ミルトコロナ
 キハ吾人ノ寒心ニ堪ヘサル所テアル就中 天皇陛下ノ御名ニ於テ行ハルル公明正大ナルヘキ裁判ニ對
 シテ己カ特權ヲ以テ強壓セル事實カ暴露セルニ至ツテハ吾人ハ言フヘキ言葉ヲ發見スルニ苦シムモノ
 テアル」ト「重刑利那ノ裁判長顔色俄カニ變色内心愧怖スルモノアツタカ勿惶トシテ公判廷退席」ト題
 シ「神垣裁判長ハ内心自ラ愧怖スルモノアルカノ如ク顔色蒼白ヲ呈シ音聲モ亦甚シク震ヘ宣告ヲ終ルヤ
 裁判長ノ椅子ニ居タタマラス如ク匆惶トシテ退席シタ」三「神垣裁判長ノ明鏡止水ヲ疑フ」ト題シ「背
 後ニ何等政治的陰影ナク明鏡止水裏ノモノタルヤ」四「廻轉椅子」ト題シ「五・一五事件民間側判決下
 ル將ニ青天ノ霹靂以上ノモノテアリ沙汰ノ限リテアル狂氣ノ沙汰トハコノコトヲ稱スルモノテアル」
 「次ニ來ルヘキハ何テアルカヲ既ニ覺悟シナケレハナラナイ斯ル普通刑法ナリトスルナラハ日本ノ心
 アル民衆ハ悉ク犯罪者トナルテアラウ」五「服罪カ否カ」ト題シ「司法部カ斯クノ如キ非合法的態度
 ニ出テタルモノハ昨年夏箱根強羅ニ於テ祕密裡ニ開カレタ鄉誠之助 木村久壽彌太 池田成彬等ノ會談
 ニヨルモノテアルト云ハレテ彼等財界ノ黑幕連カ自己ノ特權擁護ノ爲被告諸君ノ重刑ヲ希望シ政府當
 局者ヲ強壓シテ此ノ擧ニ出テシメタモノト傳ヘラレテ居ルコトノ眞偽ハ兎モ角トシテモ同事件ニ連座

シタ陸海軍側諸氏ノ判決ト比較シテアマリニモ過酷ナル斷罪ハ法ノ公正ニ對スル我々ノ信念ヲ動搖セ
 シメサルヲ得ナイモノテアル」旨ノ記事ヲ掲ケ以テ安寧秩序ヲ紊スヘキ記事ヲ新聞紙ニ掲載シタルモ
 ノナリ(中略)右ノ事實ハ被告人ノ當公判廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述及押收ニ係ル昭和九年二月四日附
 第三百十七號出羽興民新聞(證第一號)ノ存在ニヨリ之ヲ認メ得ヘク而シテ判示記事ノ内容カ一般讀
 者ヲシテ前記五・一五事件民間側判決カ財閥等ノ重壓干涉ニヨリ不正ニ行ハレタルカ如キ疑惑ヲ懷
 カシムルモノニシテ安寧秩序ヲ紊スヘキ事項ナルコトハ其ノ内容自體ニ徴シ明瞭ナルヲ以テ(中略)
 被告人ノ判示所爲ハ(中略)新聞紙法第四十一條ニ該當ス云々ト爲セリ按スルニ本件記事カ新聞紙法第
 四十一條ニ謂フ所ノ安寧秩序ヲ紊ス事項ニ該當スト爲スニハ第一ニ記載記事ニ付安寧秩序紊亂ノ結果
 發生ノ危險性アルコトヲ要シ次ニ如何ナル事實ヲ以テ安寧秩序紊亂ノ危險性アリト認定スルヤハ社會
 觀念ヲ標準トシテ客觀的ニ之ヲ決スルコトヲ要スヘシ第一ニ本件記事カ同法第四十一條ニ該當スルモ
 ノト斷スルニハ同記事カ安寧秩序ヲ紊スノ虞アルコト即チ原判決カ言フカ如クハ同記事カ讀者ヲシ
 テ司法權ニ對スル疑惑ヲ懷カシムル危險性アルコトヲ要ス固ヨリ同記事ニ依リ讀者カ果シテ現實ニ司
 法權ニ對スル疑惑ヲ懷キタルコト即チ結果ノ發生其ノモノハ之ヲ必要トセストスルモ尠クトモ其ノ結
 果發生ノ危險性ノ存スルコトヲ要スルモノト解スヘキコトハ假令法文ニ明記スルコトナシト雖同法カ
 新聞紙取締ノ目的ノ爲ニ憲法ノ保障セル言論ノ自由ヲ制限シタル法意ニ徴シ疑ナカルヘシ何者若シ結

果發生ノ危險性ナシトセハ之ヲ取締ルノ要ナケレハナリサレハ本件記事ヲ以テ同法第四十一條ニ該當スルモノト爲サンニハ先ツ第一ニ同記事カ讀者ヲシテ司法權ニ對スル疑惑ヲ懷カシムル危險性アルコトヲ要スルモノト云ハサルヘカラス元來同法ハ其ノ第二十三條ニ於テモ亦均シク安寧秩序ヲ紊スト云ヘル言辭ヲ用ヒタリ而シテ共ニ新聞紙ノ記事内容ニ付テノ取締ニ關スルモノナレハ此ノ兩者ハ其ノ意義内容ニ於テ相異ルコトアルヘカラス只其ノ範圍ヲ稍異ニスルノミ即チ第二十三條ニ所謂安寧秩序ハ第四十一條ノ夫レヨリモ廣ク之ト共ニ第四十二條ノ皇室ノ尊嚴冒瀆政體變改及朝憲紊亂ヲモ包含セルモノト解スヘキノミサレハ以下ニ於テハ煩ヲ避ケ右兩條ノ安寧秩序ナル言辭ハ同一ノ意義ヲ有スルモノトシテ論スルコトトセン惟フニ同法第二十三條ニ規定スルコロハ或新聞紙ノ記事カ若シ之ヲ其ノ儘ニ放置セハ社會ニ對シ害惡ヲ生スルノ虞アルヲ以テ之ヲ防遏セントスル事前處分タル性質ヲ有スル行政處分ナリ之ニ反シテ同法第四十一條ニ規定スルコロハ社會ニ害惡ヲ及スヘキ記事ヲ掲載シタル新聞紙ヲ既ニ讀者ニ頒布シタルコトノ反社會的行爲ニ對スル事後處分タル性質ヲ有スル司法處分タリ然リト雖共ニ反社會的の記事ヲ記載セル新聞紙ノ取締ヲ目的トスル處分即チ共ニ新聞紙ノ記事内容ニ關スル取締處分ナリサレハ同法第四十一條ニ該當スヘキ記事ハ既ニ第二十三條ニ於テ行政官廳ノ處分ヲ受ケタルカ又ハ之ヲ受クヘカリシ性質ノモノナルヘク之ヲ逆ニシテ第二十三條ニ該當スヘキ記事ハ更ニ第四十一條ニ於テ司法處分ヲ受クルカ又ハ之ヲ受クヘキ性質ノモノナリ是レ斯ノ如キ行爲ハ所謂

安寧秩序ヲ紊スノ虞アルモノナレハナリ故ニ假令或新聞紙カ一部頒布セラレタル後第二十三條ニ依リテ行政處分ヲ受ケタル爲幸ニ害惡發生ノ危險性カ中絶セラレタリトスルモ既ニ其ノ記事ハ實害發生ノ危險性アルモノナレハ重ネテ第四十一條ニ依リ司法處分ヲ受クルカ又ハ之ヲ受クヘキ性質ノモノナリ然レトモ其ノ行政處分カ行政官廳ノ誤リタル判斷ニ基キテ行ハレタルモノナリトセハ其ノ記事ヲ掲載シタル新聞紙ヲ其ノママ放置シタリトスルモ社會ニ對シ何等害惡ヲ及ホスノ虞ナキカ故ニ固ヨリ更ニ第四十一條ニ依リ司法處分ヲ受クヘキモノニ非サルナリ之ニ反シ若シ或記事カ第二十三條ニ依リ行政處分ヲ受ケサリシトキハ如何ト云フニ此ノ場合行政處分ヲ受ケサルコトカ正當ナリトセハ決シテ更ニ第四十一條ニ依リ司法處分ヲ受クヘキモノニ非ス蓋シ其ノ記事ハ社會ニ對シ害惡ヲ及ホス危險性ナキモノナレハナリ然レトモ其ノ行政處分ヲ受ケサルコトカ行政官廳ノ誤リタル判斷ニ出テタルカ或ハ行政官廳カ其ノ記事ノ存在ヲ認識セサリシカ爲ニシテ本來ナレハ當然行政處分ヲ受クヘカリシ性質ノモノナルトキハ第四十一條ニ依リテ司法處分ヲ受ケサルヘカサル性質ノモノナリ茲ニ於テ考フルニ或新聞紙カ偶全ク頒布セラレサル前ニ於テ第二十三條ニ依ル行政處分ヲ受ケタルトキハ格別若シ或新聞紙カ偶事前ニ行政處分ヲ受ケサルトキハ其ノ行政處分ヲ受ケサルコトカ正當ナリトセハ其ノ記事ニ依リ社會ニ對シ害惡ヲ及ホスコトナク之ニ反シテ其ノ行政處分ヲ受ケサルコトカ行政官廳ノ誤リタル判斷ニ出テタルカ又ハ行政官廳カ其ノ記事ノ存在ヲ認識セサリシカ爲ナルトキハ其ノ記事ニ依リ現實ニ

害悪ヲ生スルカ或ハ何等カノ障礙ニ依リ偶然ニ實害ヲ發生セサルカ其ノ一ナラスンハアラスサレハ本件記事ハ第二十三條ニ依ル行政處分ヲ受ケサルコト公判調書記載ノ如クナルカ故ニ若シ之ヲ受ケサルコトカ正當ナリトセハ本件記事ハ社會ニ對シテ何等實害ヲ及ホスコトナク若シ之ヲ受ケサルコトカ不當ナルカ或ハ行政官廳ノ不認識ノ爲ナリトセハ同記事ニ依リ讀者カ司法權ニ對シテ疑惑ヲ懷クノ結果ヲ發生スルカ然ラスンハ當然コレヲ懷クヘカリシニ何等カノ障礙ニ依リ偶然之ヲ懷カサリシカ其ノ一ナルコトヲ要ス然ルニ本件記事ニ付テハ此ノ記事ニ依ツテ讀者ニ對シ司法權ノ公正ヲ疑ハシメタル事實全然之ヲ認定シ得サルコト後ニ論述スルカ如シ第二ニ本件記事カ同法第四十一條ニ該當スルヤ否ヤハ固ヨリ司法機關ノ認定スルトコロナリト雖之ヲ認定スルニ當リテハ司法機關ノ自由ナル主觀的判斷ニ依ラスシテ社會觀念ニ基ク客觀的標準ニ依ラサルヘカラス此ノ點ニ付テハ夙ニ大正十一年四月四日御院判例カ「言論カ安寧秩序ヲ害スルヤ否ヤハ主トシテ其ノ當時ニ於ケル社會觀念ヲ標準トシテ客觀的ニ之ヲ決スヘキモノニシテ其ノ判斷ハ社會狀態ノ推移ニ依リ自ラ異ラサルヲ得サルモノナリ」ト明示セラレタル所ニシテ且又學說上ニ於テモ爭ナキトコロナレハ多ク論スルノ要ナカランモ同條ノ規定ハ單ニ「安寧秩序ヲ紊ス事項」ナル極メテ抽象的ナル言辭ヲ用ヒ何等其ノ具體的限界ヲ示ササルカ故ニ之カ認定機關タル裁判所ハ特ニ右ニ述ヘタル社會觀念ニ基ク客觀的標準ト云ヘル點ニ留意シ決シテ專斷的ナル主觀的自由裁量ニ流レサル様勉メサルヘカラス曩ニ同條ニ所謂安寧秩序紊亂ト同義ヲ有ス

ル同法第二十三條ノ改正案トシテ第五十議會ニ提出セラレタルモノカ「目的及方法ヲ指示シテ直接暴動ヲ煽動スル事項ヲ掲ケタルトキ」ト云ヘル具體的限界ヲ示サントシタルコト及ヒ均シク安寧秩序ナル言辭ヲ用ヒタル出版法第十九條ノ改正案トシテ第五十一第五十二議會ニ提出セラレタルモノカ「社會ノ不安ヲ惹起シ治安維持上重大ナル影響ヲ及ホスヘキ虛偽又ハ誇大ノ事項」ト云ヘル具體的限界ヲ示サントシタルコトハ何レモ認定機關ノ專斷ヲ防止セントスルノ企圖ニ出テタルモノナリ以上述ヘタルカ如クナルヲ以テ本件記事カ同法第四十一條ニ該當スルモノト爲サンニハ同記事カ社會觀念上讀者ヲシテ司法權ニ對スル疑惑ヲ生セシムルノ危險性アリト客觀的ニ認メラルルコトヲ要スルモノト云ハサルヘカラス然ルニ本件記事ハ社會觀念上讀者ニ對シ司法權ノ公正ヲ疑ハシムルモノト客觀的ニ認定シ得サルコト後述ノ如シ翻ツテ本件事案カ果シテ新聞紙法第四十一條ニ該當スルヤ否ヤ之ヲ檢討セン惟フニ前記本件記事ハ之ヲ二個ノ要點ニ分ツコトヲ得ヘシ(イ)政黨財閥ニ對スル攻撃(ロ)所謂五・一五事件民間側裁判ニ對スル攻撃即チ是レナリ而シテ右(イ)ノ記事ニ付テハ論スルノ要ナシ何者斯クノ如キ政黨財閥ニ對スル攻撃ノ記事ハ新聞紙法第四十一條ニ該當セサルコト現在ノ社會通念上明々白々ニシテ一點ノ疑ナク且ツ原審判決モ亦此ノ點ニ付テハ何等問フトコロナキモノト解スルカ如クンハナリサレハ本件事案カ同法第四十一條ニ該當スルヤ否ヤハ一ニ右(ロ)ノ記事ニ係ルモノト云フヘキカ故ニ以下此ノ點ニ付キ論述セン曩ニ五・一五事件ノ民間側判決下ルヤ國民齊シク驚異ノ眼ヲ矐リ到

ルトコロ怪訝ノ聲ヲ聞カサルハナカリキ元來五・一五事件ニ於テ民間側被告ノ爲ストコロハ一トシテ軍部側被告ノ從タラサルナシ然ルニ何事ソ其ノ科ストコロノ刑軍部ニカルク民間ニ重シ同一犯罪ニ於テ被告カ軍籍ニ在ルト否トニ依リ其ノ裁キヲ受クルトコロヲ異ニシ其ノ科セラルルトコロノ罪名刑期ヲ異ニス其ノ前者ノ相違ハ我カ現在ノ法制上已ムヲ得サルトコロナレトモ其ノ後者ノ相違ハ如何或ハ見解ノ如何ニ依リ贊否兩論立ツヘシトスルモ國民コレヲ見テ如何ノ感ヲ爲スカ假令軍部被告ト民間被告ト其ノ裁判機關異ルト云ヘトモ固ヨリ共ニ國家機關タリ齊シク 天皇ノ御名ニ於テ司法權ヲ行使スルトコロタリ世人民間被告ニ對スル苛酷ナル判決ヲ見テ謂ヘラク被告軍籍ニ在ルト否トニ依リ其ノ刑或ハ輕ク或ハ重キハ何ノ故ソヤ司法權ノ獨立果シテ信シ得ヘキカト是レ當時國民ノヒトシク思ヒ惑ヒシトコロナリ由是觀之司法權ニ對スル疑惑ハ當時ノ思潮タリ社會ノ通念タリ假令其ノ當否ハ如何ニモセヨ兎ニ角其ノ疑惑ヲ懷キシコトハ疑ナキ事實ナリ此ノコトハ原審公判廷ニ於ケル「五・一五事件民間側ノ判決アツタ日酒田市民ハ何シナ感想ヲ持ツタカ」ト云ヘル裁判長ノ問ニ對シ「其ノ最モ顯著ナ一例トシテハ當時酒田ニ居ツタ朝日新聞ノ吉田通信員カ五・一五事件ノ民間側判決ニ對シ酒田市民ハ名判決タト言ツテ居ルトノ記事ヲ書イタノテアリマス其處テ酒田市民ハ俄然其ノ吉田通信員ノ排斥運動ヲ起シ次テ朝日新聞ノ不買同盟ニナリ目下酒田ニ於テハ朝日新聞ハ廢滅ノ狀態テアリマス又吉田通信員モ上諏訪ニ轉任ニナリマシタ」トノ供述「朝日新聞ヲ排斥シタコトハ主ニ酒田カ」ナル問ニ對

シ「初メハ酒田丈テシタカ次ハ大川ノ出身地ノ西荒瀬村其ノ後石川縣等テス」トノ供述及辯護人ハ參考トシテ昭和九年二月四日附報知新聞ノ朝刊一通及新聞切抜三枚ヲ提出シタリ裁判長ハ部員ト共ニ右新聞ヲ閱覽シ且檢事ニ示シタリ辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ得テ問「コノ報知新聞ニ「強いが故に軽く弱いが故に重い」ト云フ見出カアルカ」コノ記事モ參考トシテ書イタカ」此ノ時裁判長ハ辯護人提出ノ報知新聞ヲ被告人ニ示シタリ答「左様テアリマス其ノ新聞モ參考トシマシタ即チ軍部ニハ大キイ背景カアリ民間ニハ大キナ背景カナイト云フ意味テアリマシテ五・一五事件ハ軍部カ主テ民間ハ從ノ關係ニアツタノテアリマス報知新聞ニハコノ位ノ記事カアツテモ發行禁止ニナツテ居リマセヌカラ私カ發行シタ新聞ハ大シタコトハナイノテアリマス勿論違反等ニハナラナイト思ヒマス」問「其ノ新聞(報知新聞)ニ貼ツテアル「世の矛盾を告ぐ」云々トアルノハ時事新聞ノ記事カ」答「左様テアリマス其ノ時事新聞ニヨツテ先程申上ケル通りノ感想ヲ書キマシタ問「ドンナ感想カ」答「軍部カ輕ク民間カ重イノテ全國民カ啞然トシタト云フコトテス」トノ公判調書記載ノ事實ニ依リ明瞭ナリト云フヘシサレハ本件記事ハ單ニ一般社會ノ思潮ヲ其ノ儘ニ寫シテ以テ紙面ニ映シタルノミ即チ社會事實ノ記述ニ過キス斯ノ如ク司法權ニ對スル疑惑カ本件新聞紙ノ讀者ヲ有スル地方ニ於テ既ニ一般社會思潮タリシコト右原審公判調書ニ依リ明ナルカ故ニ假令此ノ事實ヲ紙面ニ映シテ一般ノ讀者ニ讀マシムルモ讀者ハ單ナル事實ノ記述トシテ見ルニ過キス之ニ依リテ司法權ニ對スル疑惑ヲ懷キ得ルノ理ナキコト論理

新聞紙ノ記事ト安寧秩序ヲ紊スヘキ事項 安寧秩序ヲ紊スヘキ記事ト法律ノ適用

上當然ナリ且又本件新聞紙ハ過去ニ於テ幾度カ新聞紙法第二十三條ノ處分ヲ受ケ來レトモ本件記事ヲ掲載シタル第三百十七號ハ獨リ同法ノ行政處分ヲ受クルノ厄ニ遇ハサリキ既述ノ如ク若シ此ノ行政處分ヲ受ケサリシコトカ行政官廳ノ誤リタル判斷ニ出テタルカ若クハ行政官廳カ本件記事ヲ認識セサリシ爲ナリトセハ本件記事ニ依リ讀者カ司法權ニ對シ疑惑ヲ懷クニ至リタルカ或ハ何等カノ障礙ニヨリ偶然之ヲ懷カサリシカ其ノ一ナラスンハアラス然ルニ右ニ述ヘタルカ如ク司法權ニ對スル疑惑ハ既ニ發生シ居リ本件記事ニ依リ何等影響ヲ受ケサルコト明カニシテ且其ノ疑惑發生ヲ妨ケタル障礙モ亦之アリタルコトナシ若シ之アリトセハ公判調書ニ其ノ旨記載アルヘキ理ナルニ何等ノ記載ナキヲ以テ見レハ之ナカリシコト明カナリ故ニ本件記事ニ對シ同法第二十三條ニ依ル行政處分ノナカリシコトハ正當ナリト斷スヘキコト之亦論理上疑ナク從ツテ本件記事ハ同法第四十一條ニ所謂安寧秩序紊亂ノ結果發生ノ危險性全クナシト論結セサルヘカラス尙ホ又右述ノ如ク本件記事ハ社會思潮ノ描寫ニ過キス且結果發生ノ危險性全ク之ナキモノナレハ同記事ハ社會觀念ヲ標準トシテ客觀的ニ之ヲ見ルトキ安寧秩序紊亂ニ該ラサルコト論ヲ俟タス以上縷々陳述シタルトコロニヨリ本件事案ハ新聞法第四十一條ニ該當スルコトナキハ明白ニシテ且其ノ他之ヲ律スヘキ法條ナキカ故ニ當然無罪ト爲スヘキモノナルニ原審判決カ事茲ニ出テスシテ其ノ主觀的判斷ニ依リ擅ニ本件事案ヲ同法第四十一條ニ問擬シタルハ法律ノ適用上重大ナル過誤アルモノニシテ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニアレトモ

【要旨第一】

本件新聞紙ニ掲載セル記事ノ内容ハ原判示ノ如クニシテ之ヲ客觀的ニ觀察スルニ一般讀者ヲシテ所謂五・一五事件民間側ニ對スル判決カ財閥等ノ重壓干涉ニヨリ不公正ニ行ハレタル如キ疑惑ヲ懷カシムルモノニシテ安寧秩序ヲ紊スヘキ事項ニ該當スルコト勿論ナルカ故ニ新聞紙法第二十三條ノ規定ニヨル處分アリタリヤ否ニ關ラス新聞紙法第四十一條ニ問擬スヘキモノナレハ原判決ニハ所論ノ如キ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アルコトナシ論旨理由ナシ

同第二點ハ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリ即チ原判決ハ第一點引用ノ本件記事ヲ以テ一般讀者ヲシテ所謂五・一五事件民間側判決カ財閥等ノ重壓干涉ニヨリ不公正ニ行ハレタルカ如キ疑惑ヲ懷カシムルモノト認定シタレトモ是重大ナル事實ノ誤認ナリ何者既ニ第一點ニ於テ詳述シタルカ如ク右ノ疑惑ハ本件記事ノ發生前ニ存在シタルモノニシテ同記事ニ依リテ初メテ其ノ疑惑ヲ生シタルモノニ非サルコト第一點ニ於テ引用シタル原審公判調書記載ノ事實ニ依リ明瞭ナレハナリ原判決ノ如ク本件記事ヲ以テ讀者ヲシテ司法權ニ對シ疑惑ヲ懷カシムルモノト爲スハ宛モ屍ニ殺害ヲ加フト云フニ等シク結局原判決ハ全ク不能ノ事實ヲ認定シタルモノニシテ此ノ點ニ於テモ亦刑事訴訟法第四百十四條ニ依リ上告理由アルモノト云ハサルヘカラスト云フニアレトモ

本件新聞紙ニ掲載セル記事ノ内容カ原判示ノ如クナルコト本件新聞紙ノ記事ニ徴シ明白ニシテ絲毫ノ誤認アルコトナシ而シテ新聞紙ニ掲載セル記事ノ内容カ安寧秩序ヲ紊スヘキ事項ニ該ルヤ否ハ之ヲ客

【要旨第二】

新聞紙ノ記事ト安寧秩序ヲ紊スヘキ事項 安寧秩序ヲ紊スヘキ記事ト法律ノ適用

觀的ニ觀察シテ判斷スヘキ法律上ノ問題ニシテ事實ノ問題ニ非ス論旨ハ既ニ此ノ點ニ於テ誤レリ而モ本件記事ノ内容ハ安寧秩序ヲ紊スヘキ事項ニ該當スルコト論旨第一點ニ對シ説明セルトコロノ如シ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與佐次郎關與

○業務上過失傷害自動車取締令違反被告事件

(昭和九年(九)第八三一號
同年九月十日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 山川 甚造 辯護人 前田 力

【第一審】 姫路區裁判所 【第二審】 神戸地方裁判所

○判示事項

貨物自動車運轉手ノ注意義務

○判決要旨

貨物自動車ノ運轉手ハ道路ノ關係上車體ノ動搖激甚ナル場合等ノ事情ニ應シ積載貨物ノ施繩ノ弛緩又ハ其ノ擦切ノ虞ナキヤ否ヲ確メ積荷ノ轉落ニ因リ通行人ニ危害ヲ及ホスコトナキ様相當ノ注意ヲ爲スヘキ業務上ノ義務アルモノトス

【參照】 刑法第二百一十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ折算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ乙種自動車運轉手ニシテ兵庫縣飾磨郡谷内村八重畑谷内貨物自動車合資會社ニ雇ハレ自動車運轉ノ業務ニ從事シ居ルモノナルトコロ

第一 昭和八年十二月十三日午前十時半頃同郡御國野村御着運送店奧本軍治方ヨリシボレI型積載量一噸積貨物自動車兵第三八七八號ニ牛皮約八百キロ及正月花用梅樹一把約四、五貫ノモノ十一把ヲ積載シ大阪ニ向ヒ舊國道ヲ運轉進行中印南郡別所村別所ニ至ル迄ノ道路ハ路面ノ凹凸甚シク從テ車

貨物自動車運轉手ノ注意義務

體ノ動搖激シカリシ爲スル場合ニ於テ貨物自動車運轉手タル者ハ須ク積荷ノ荷造状態ニ注意ヲ拂ヒ施繩ノ弛緩又ハ其ノ擦切ノ虞ナキヤヲ確メ以テ車體ノ振動或ハ施繩ノ弛緩擦切等ノ事由ニ因リ積荷ノ轉落シ通行人ニ危害ヲ及ホスコトナキ様相當ノ注意ヲ爲スヘキ業務上ノ義務アルニ拘ラス一時停車シ僅カニ運轉臺ヨリ積荷ヲ振返ヘリ一瞥シタルニ過キスシテ施繩ノ弛緩摩擦ノ程度ヲ確メス漫然荷造ニ異狀ナシト輕信シテ其ノ儘運轉ヲ續ケタル爲同日正午頃同所四百四十四番地後藤喜之助方前ニ差蒐リタル際施繩ノ擦切ノ爲前記積載シアリタル梅樹一把カ折柄同所ニ居合セタル同人妻後藤シカノ左手首ニ轉落シ因テ同人ヲシテ其ノ撓骨部ニ全治二箇月ヲ要スル骨折ヲ蒙ラシメ

第二 判示第一ノ如ク事故ヲ惹起シ警察官吏アラサリシ爲被害者ニ法定事項ヲ通知シ其ノ儘運轉ヲ繼續シタルニ拘ラス遲滯ナク所轄警察官吏ニ申告セサリシモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ所爲ハ刑法第二百一十一條ニ同第二ノ所爲ハ自動車取締令第七十條第八十條ニ各該當スルトコロ以上ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ孰レモ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ同法第四十八條第二項ニ則リ各罪ニ付定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ金一圓ヲ一日ニ折算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人前田力上告趣意書ハ一、本件犯罪事實ハ昭和八年十二月十三日午前十時半飾磨郡御國野村御着運送店奥本軍治方ヨリシボレ一型積載量一噸積貨物自動車兵第三七八號ニ牛皮約八百キロ及正月用梅樹一把約四、五貫ノモノ十一把ヲ積載シテ大阪ニ向ヒ舊國道運轉進行中印南郡別所村ニ至ル迄ノ道路ハ路面ノ凹凸甚タシク從テ車體ノ動搖激シカリシ爲スル場合ニ於テ貨物自動車運轉手タル者ハ須ク積荷ノ荷造状態ニ注意ヲ拂ヒ施繩ノ弛緩又ハ其ノ擦切ノ慮ナキカヲ確メ以テ車體ノ振動或ハ施繩ノ弛緩擦切等ノ事由ニヨリ積荷ノ轉落シ通行人ニ危害ヲ及ホスコトナキ様相當ノ注意ヲ爲スヘキ業務上ノ義務アルニ拘ラス一時停車シ僅カニ運轉臺ヨリ積荷ヲ振返ヘリ一瞥シタルニ過キスシテ施繩ノ弛緩摩擦ノ程度ヲ確メス漫然荷造リニ異狀ナシト輕信シテ其ノ儘運轉ヲ續ケタル爲施繩ノ擦切ノ爲積荷ノ梅樹一把カ轉落シ被害者ニ負傷セシメタルモノナリト云フニ在リ二、然レトモ自動車運轉手ノ業務上ノ注意義務トシテ前方注視義務アルコト多言ヲ要セス明ナリコノ義務ハ客用自動車タルト貨物自動車タルトニ區別ナシ貨物自動車ノ運轉手カ自動車進行中積荷ノ轉落スルヤ否ニツキ常ニ注意セサルヘカラサル特別義務アリヤ否原審控訴裁判所ハ之ヲ積極ニ解シ施繩ノ弛緩擦切等ノ爲ニ積荷ノ轉落セサル様運

轉中常ニ注意スヘキ義務アリト雖貨物自動車進行中ノ運轉手ノ責任ヲ積荷ニ迄及ホスニ於テハ前方注視ノ義務ト矛盾スルモノニシテ殊ニ客用自動車ノ構造ト貨物自動車ノ構造トハ異リ貨物自動車ノ方ハ運轉手臺ヨリ後方ヲ振見テモ積荷ハ見ヘサルモノニシテ道路ノ凹凸又ハ急カーブ等少ナクトモ車體ニ動搖ノアル場合ハ一々停車シテ施繩ノ弛緩擦切等ノ慮ナキヤ否ニツキ其ノ運轉手カ常ニ注意セサルヘカラサル特別義務ヲ負ハシムルハ妥當ヲ缺ク解釋ナルノミナラス前方注視ノ義務ト相容レサルモノナリ船長又ハ機關手ノ積貨ニ對スル責任貨物電車ノ積荷ニ對スル運轉手ノ責任鐵道貨車ノ積荷ニ對スル機關手ノ責任等ヨリ比較セハ右ノ如キ貨物自動車進行中積荷ニ對スル責任ヲ負擔セシムル事ヲ得サルヤ明ナリ殊ニ本件ハ出發ニ際シテハ充分ナル注意ヲ爲シ而モ施繩ノ程度ハ貨物ヲ少ナクトモ大阪迄運搬セントスル其ノ道中施繩ノ弛緩擦切ナキ程度ノ豫定ヲ以テ爲シタル荷造ニシテ多少路面ニ凹凸アルニシテモ荷造ニシテ弛緩カナク唯擦切シタルモノナレハソレヲ詳細ニ調ヘテ發見スルコト絶對出來ス凹凸ノ爲動搖アリタル爲施繩ニ緩ミカ來スカ否ヲ一應見テ進行スルノカ普通テ施繩カ擦切スルノ慮アルヤ否ニツキ調ヘルコトハ到底出來得サルコトニシテ擦切スル個所ニ施繩ヲ爲シタル荷造者ノ責任ニシテ運轉手ニ斯ル義務ヲ負擔セシムルコトハ獨リ上告人ノ驚異ノミナラス全日本ノ貨物自動車ノ運轉手ニ多大ノ影響アル問題ナリ殊ニ本件自動車ニハ荷主及助手カ乗合シ居タルモノナリ三、凡ソ貨物自動車ノ助手ハ客用自動車ノ助手ト異リ積荷ノ揚下荷造進行中ノ積荷ノ脱落ナキヤ否ニツキ注意スルカ

其ノ本來ノ職務ニシテ鐵道貨物列車ノ車掌貨物電車ノ車掌ト同様ニシテ積貨ニツキ脱落破損紛失等ニ因ル荷主ニ對スル損害ノ責任ハ車掌又ハ助手ニ於テ責任ヲ有シ居ルコト實際生活上ノ事例ナリ例ハ貨物列車ノ進行中積荷カ轉落シ爲ニ其ノ積荷ニ當リテ通行者ニ負傷セシメタル時ニ機關手ニ刑事上ノ責任ヲ負ハシムルカ妥當ナリヤ或ハ車掌ニ刑事上ノ責任ヲ負ハシムルヤ否車掌ヲシテ責任ヲ負ハシムルコト當然ナリ民事上ノ責任亦然リ殊ニ本件ハ發送當時荷造ニ手落ノアリタルモノニシテ其ノ荷造ノ手落ナリヤ否手落ナリトセハ荷造ノ責任者ハ何人ナリヤ否ヲ調ヘス上告人ニ責任ヲ負ハシムルハ不當ニシテ全ク施繩ノ擦切ハ不可抗力ニシテ何等上告人ノ業務上ノ過失ニ基クモノニ非スト思料ス故ニ原判決ヲ取消シ更ニ無罪ノ御判決ヲ仰キ候右申告趣意書刑事訴訟法第四百二十二條ニ依リ差出候也ト云フニアレトモ

貨物自動車ノ運轉手ハ貨物ヲ積載セル自動車ヲ運轉スルニ當リテハ其ノ積荷ノ高幅施繩等積方カ適當ナリヤ否ニ付注意スヘキハ勿論運轉中ニアリテハ道路ノ關係上車體ノ動搖激甚ナル場合等ノ事情ニ應シ施繩ノ弛緩又ハ其ノ擦切ノ虞ナキヤ否ヲ確メ以テ積荷ノ轉落ニ因リ通行人ニ危害ヲ及スコトナキ様相當ノ注意ヲ爲スヘキ業務上ノ義務アルモノニシテ助手又ハ荷主カ其ノ自動車ニ同乗シ居ル場合ト雖該業務上ノ注意義務ニ消長ヲ來ササルモノトス蓋シ助手ノ如キハ運轉手ノ指揮命令ノ下ニ之ヲ手助スルニ過キササルモノト謂フヘク荷主ノ如キハ運轉其ノモノニ直接關係ナキモノナレハナリ又敍上ノ注意

義務ハ前方注視ノ義務ト相容レサルモノニ非ス原判示ニ依レハ被告人ハ乙種自動車運轉手ニシテ判示貨物自動車合資會社ニ雇ハレ自動車運轉ノ業務ニ從事シ居リタルモノナルトコロ昭和八年十二月十三日午前十時半頃判示運送店奥本軍治方ヨリ判示貨物自動車ニ牛皮約八百キロ及正月花用梅樹一把約四、五貫ノモノ十一把ヲ積載シ大阪ニ向ヒ舊國道ヲ運轉進行中印南郡別所村別所ニ至ル迄ノ道路ハ路面ノ凹凸甚シク從テ車體ノ動搖激シカリシ爲スル場合ニ於テ貨物自動車ノ運轉手タル者ハ積荷ノ状態ニ注意ヲ拂ヒ施繩ノ弛緩又ハ其ノ擦切ノ虞ナキヤヲ確メ以テ車體ノ振動或ハ施繩ノ弛緩擦切等ニ因リ積荷轉落シ通行人ニ危害ヲ及ホスコトナキ様相當ノ注意ヲ爲スヘキ業務上ノ義務アルニ拘ラス一時停車シ僅ニ運轉臺ヨリ積荷ヲ振返リ一瞥シタルニ過キスシテ施繩ノ弛緩摩擦ノ程度ヲ確メス漫然夫等ニ異狀ナシト輕信シ其ノ儘運轉ヲ續ケタル爲同日正午頃同所四百四十四番地後藤喜之助方前ニ差蒐リタル際施繩ノ擦切ノ爲積載シヨリタル前記梅樹一把カ同所ニ居合セタル同人妻後藤しかノ左手首ニ轉落シ因テ判示ノ如キ骨折ヲ蒙ラシメタルモノナレハ被告人ハ業務上過失傷害ノ罪責ヲ免レサルモノトス論旨理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事佐々波與佐次郎關與

○業務上横領公選投票贈賄收賄被告事件 (昭和九年(九)第八三六號 棄却)
(昭和九年九月十三日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 石塚 正衛 辯護人 (市原 統 岩出 芳三 郎)
外二名
 【第一審】 宇都宮地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

賄賂投票罪ノ成立

○判決要旨

苟モ投票ヲ爲サシムル爲金圓ノ供與ヲ爲シ其ノ供與ヲ受ケタル者カ之ニ因リ投票ヲ爲シタルトキハ金圓授受ノ時ニ於テ投票ヲ爲スノ資格ナカリシトスルモ投票ノ當時ニ於テ其ノ資格ヲ具有スルト

賄賂投票罪ノ成立

キハ舊刑法第二百三十四條ニ所謂賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメトアルニ該當ス

【參照】 舊刑法第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人正衛ヲ懲役一年ニ被告人又造同九八郎ヲ各禁錮四月ニ處ス但シ被告人三名ニ對シテハ孰レモ本裁判確定ノ日ヨリ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス訴訟費用中證人鯉沼苑吾ニ支給シタル分ハ被告人正衛ノ負擔トシ其餘ハ被告人三名ノ連帶負擔トストノ判決ヲ爲シタリ

第一(一) 被告人石塚正衛ハ昭和八年四月十九日ノ其ノ居村東大蘆村村會議員改選ニ當リ被告人川田又造同高田九八郎ニ對シ村會議員ニ當選シタル曉ハ自己ヲ村長ニ推薦投票スヘキコトヲ約束シ其ノ賄賂ト爲ス目的ヲ以テ昭和八年四月十四日頃栃木縣上都賀郡鹿沼町料理店鹿沼軒事寄川近方ニ於テ九八郎ニ金五十圓其ノ翌十五日頃同所ニ於テ又造ニ金五十圓ヲ各供與シ右九八郎及又造兩名カ同選舉ニ於テ同村村會議員ニ當選スルヤ兩名ヲシテ同年五月十日同村役場ニ於テ開カレタル同

村村會ノ村長選舉ニ際シ自己ニ投票ヲ爲サシメ

(二) 被告人高田九八郎同川田又造ハ前述ノ如キ約束ノ下ニ被告人正衛ヨリ前示ノ日時場所ニ於テ金五十圓宛ノ賄賂ヲ受ケ同年四月十九日施行ノ同村會議員選舉ニ際シ同村會議員ニ當選スルヤ右約旨ニ基キ右ノ村長選舉ニ當リ被告人正衛ニ各投票ヲ爲シ

第二 被告人正衛ハ同郡鹿沼所在ノ鹿沼古峰ヶ原自動車株式會社ノ常務取締役兼會計主任トシテ右會社所有ノ株券等ノ保管ニ關スル事務ヲ擔任中昭和七年九月頃東京市王子區岩淵町鯉沼苑吾ヨリ金千四百圓ヲ借受クルニ當リ業務上自己ノ保管シ居タル右會社所有ノ昭和自動車株式會社ノ株券五百株ヲ右鯉沼ニ擔保ニ差入レテ横領シ

タルモノニシテ被告人正衛ノ賄賂ヲ以テ公選投票ヲ爲サシメタル各所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノナリ法律ニ照スニ被告人正衛ノ判示第一ノ所爲ハ刑法施行法第二百五條第一號舊刑法第二百三十四條前段刑法第五十五條ニ判示第二ノ所爲ハ刑法第二百五十三條ニ各該當スルトコロ公選賄賂投票ノ罪ノ所定刑中輕禁錮刑ハ刑法施行法第二十五條第二項第十九條第一項第二條ニ依リ其ノ刑名有期禁錮ト變更サレタルニ依リ有期禁錮刑ト爲シ以上ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ依リ重キ業務上横領ノ罪ニ付定メタル刑ニ併合罪ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役一年ニ處シ被告人又造及同九八郎ノ判示各所爲ハ各刑法施行法第二十五條第一號舊刑法第二百三十

四條後段ニ該當スルところ所定刑中輕禁錮刑ハ刑法施行法第二十五條第二項第十九條第一項第二條ニ依リ刑名カ有期禁錮刑ニ變更セラレタルヲ以テ有期禁錮トシ其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告人又造及同九八郎ヲ各禁錮四月ニ處シ尙被告人三名共情狀刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ刑法第二十五條刑法施行法第十四條刑事訴訟法第三百五十八條第二項ニ從ヒ本裁判確定ノ日ヨリ各二年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ證人鯉沼苑吾ニ支給シタル分ハ被告人正衛ノ負擔トシ其ノ餘ハ被告人三名ヲシテ連帶負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人市原統 岩出芳三郎上告趣意書第一點ハ原審判決ハ被告人石塚正衛ニ於テ昭和八年四月十九日施行サルヘキ居村東大蘆村村會議員選舉ニ際シ候補者タル川田又造 高田九八郎カ村會議員ニ當選シタル曉ハ自分ヲ村長ニ推薦投票スヘキコトヲ約束シ其ノ賄賂ト爲ス目的ヲ以テ同年四月十四日九八郎ニ同五日又造ニ各金五十圓宛ヲ供與シタリト認定シ舊刑法第二百三十四條ニ該當スヘキモノトシテ有罪ノ判決ヲ下サレタリ然レトモ同法ニ所謂賄賂ハ其ノ受給者ニ於テ既ニ公務員タル資格ヲ有スヘキヲ犯罪成立ノ要件トスヘキコト一般慣職罪ト何等異ルヘキヲ見ス上告人川田又造ニ高田等ニ於テ

【要旨】

公務員タル資格(村會議員)ヲ獲得シタルハ判決明示ノ如ク昭和八年四月十九日後ニシテ同月十四日ニ於テハ其ノ資格無ク從テ當時選舉費用ノ寄附ノ授受ハ何レモ罪トナラスト思料スト云フニアレトモ舊刑法第二百三十四條ニ賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメタルハ投票ノ爲ノ利益授受ヲ禁スルノ趣旨ナルヲ以テ苟モ投票ヲ爲サシムル爲金圓ノ供與ヲ爲シ其ノ供與ヲ受ケタルモノカ之ニ因リ投票ヲ爲シタルトキハ金圓授受ノ時ニ於テ投票ヲ爲スノ資格ナシトスルモ投票行爲ノ當時ニ於テ其ノ資格ヲ具有スルトキハ該條ニ所謂賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメタル者ニ該當スルモノトス原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ被告人石塚正衛ハ昭和八年四月十九日ノ居村村會議員改選ニ當リ被告人川田又造 高田九八郎ニ對シ村會議員ニ當選シタル曉ハ自己ヲ村長ニ推薦投票シ吳レタキコトヲ約束シ其ノ賄賂ト爲ス目的ヲ以テ同月十四日頃九八郎ニ金五十圓翌十五日頃又造ニ金五十圓ヲ各供與シ右九八郎又造兩名カ同選舉ニ於テ同村村會議員ニ當選スルヤ兩名ヲシテ同年五月十日ニ開カレタル同村村會ノ村長選舉ニ於テ自己ニ投票ヲ爲サシメタリト云フニアルヲ以テ原判決カ舊刑法第二百三十四條ヲ以テ間擬シタルハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事松阪廣政關與

○強姦致傷詐欺被告事件

(昭和九年(れ)第八四五號 棄却)
同年九月十七日第二刑事部判決

【上告人】 被告人 小川彌之祐 辯護人 (自休 益見 早稻田逸郎)

【第一審】 大津地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

證據力ナキ第一審公判調書ノ内容ヲ肯認シタル第二審ニ於ケル被告人ノ供述ノ證據力

○判決要旨

第二審裁判長力第一審公判調書中ニ於ケル被告人ノ供述記載ヲ讀聞ケ訊問シタルニ對シ其ノ通り相違ナキ旨ヲ陳ヘタル第二審公判ニ於ケル被告人ノ供述ハ第一審公判調書力證據力ナキ場合ト雖之

證據力ナキ第一審公判調書ノ内容ヲ肯認シタル第二審ニ於ケル被告人ノ供述ノ證據力

ヲ同趣旨ノ供述トシテ罪證ニ供スルヲ得ルモノトス

【參照】 刑事訴訟法第三百六十條第一項 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定證據ノ説明及法律ノ適用ヲ爲シ尙左記ノ理由ニ依リ被告辯護人ノ主張ヲ排斥シ被告人ヲ懲役六年ニ處ス第二審ニ於ケル未決勾留日數全部ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決(訴訟費用ニ關スル部分省略)ヲ爲シタリ
被告人ハ

第一 小川藤次郎ト共有ニ係ル木因筆畫軸二點ヲ被告人ニ於テ保管シ居タルヲ奇貨トシ藤次郎ヨリ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ昭和四年十一月中石橋金藏ヲシテ東京在住某ノ使者ナルカ如ク裝ハシメ藤次郎方ニ於テ右某カ前記畫軸二點ヲ高價ニテ買受クヘキ意向アリ目下彦根町ニ滞在シ數日中ニ歸京スル豫定ニ付該畫軸ヲ一覽シ度キ旨詐言ヲ構ヘシメ藤次郎カ其ノ翌日頃被告人ノ肩書住居ニ立越シ右畫軸二點ノ引渡ヲ求ムルヤ被告人ハ同人ニ對シ他ヘ金百圓ノ債務ノ擔保トシテ差入レアル旨申欺キ藤次郎ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同人ヨリ即時該品請出料名義ノ下ニ株式會社明治銀行長濱支店渡リ額面金百圓ノ小切手一通ヲ受取り之ヲ騙取シ

第二 昭和七年五月中滋賀縣坂田郡春照村春照尋常高等小學校ノ校舍改築工事ヲ請負タル際見知合トナリタル同校訓導筒井久里子(當時二十三年)カ同年六月六日同郡長濱町長濱尋常高等小學校ニ於テ開催セラレタル衛生講習會ニ出席セルコトヲ知り之ヲ伴トシ同女ヲ同郡六莊村大字平方ナル被告人ノ建築事務所ニ誘致シ之ヲ姦淫セムコトヲ企圖シ同日午前十一時半頃久里子ニ對シ電話ヲ以テ「自分ハ昨夜貴女ノ知己ナル某女教員カ情死ヲ企テ居リタルヲ發見シ自宅ニ連レ歸リ保護ヲ加ヘ居ルヲ以テ何卒貴女ノ手ニヨリ密ニ右女教員ヲ其ノ實家ニ送り遣リ吳レ度ク自分ハ目下右建築事務所ニ於テ設計ニ從事シ居ルヲ以テ同所迄是非立越サレ度キ」旨ノ詐言ヲ弄シ同日午後三時頃久里子ヲ空家ナル前示建築事務所ニ誘致シ表戸ニ施錠シ階上ニ於テ同女ト雜談ヲ交ヘ午後六時頃ニ及フモ話題ノ女教員カ姿ヲ見セサルヨリ久里子ハ出迎ニ赴カントシ階下ニ到リ表戸ノ施錠シアルヲ見初メテ被告人ノ企圖ヲ察知シ救ヲ求メントスルヤ被告人ハ矢庭ニ久里子ノ背後ヨリ衣服ヲ捉ヘ口ヲ押ヘテ「此ノ儘歸ラハ御前ハ勿論親兄弟ヲモ殺シ家ヲ燒キ拂フ」旨申向ケ強ヒテ同女ヲ二階ニ引摺リ上ケ壁際ニ押倒シ聲ヲ揚クレハ殺スソト脅迫シ同女ノ反抗ヲ抑壓シ姦淫ヲ遂ケ因テ其ノ處女膜ニ治療約三週間ヲ要スル裂傷ヲ加ヘタルモノナリ

證據ヲ案スルニ

(第一事實ニ關スル證據説明ハ省略)

證據力ナキ第一審公判調書ノ内容ヲ肯認シタル第二審ニ於ケル被告人ノ供述ノ證據力

判示第二ノ事實ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル判示ノ日時場所ニ於テ判示ノ如キ詐言ヲ用ヒ筒井久里子ヲ誘致シ同女ト情交ヲ遂ケタル旨ノ供述證人筒井久里子ニ對スル豫審第一回訊問調書中致傷ノ點ヲ除キ判示ニ照應スル旨ノ被害顛末ノ供述記載及證人白井喜太郎ニ對スル豫審訊問調書中醫師ナル證人カ昭和七年六月十一日筒井久里子ヲ診察シ判示ノ如キ傷害アルコトヲ認メタル旨ノ供述記載ヲ綜合考査シ之ヲ認ムルニ足ルヲ以テ判示事實ハ全部其ノ證明アリタルモノトス

辯護人ハ被告人カ本件第二犯行當時精神ニ異狀アリタルモノノ如ク主張スレトモ其ノ然ラサルコトハ被告人ニ對スル豫審訊問調書並原審公判調書中ニ被告人ノ右犯行當時ノ顛末ニ付詳細ナル供述記載アルニ徴シ明ナルヲ以テ辯護人ノ右主張ハ之ヲ排斥ス

法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ所爲ハ刑法第二百四十六條第一項ニ第二ノ所爲ハ同法第八十一條ニ該當スルヲ以テ後者ニ付有期懲役刑ヲ選擇シ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條第十四條ニ則リ重キ後者ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六年ニ處シ同法第二十一條ニ依リ當審ニ於ケル未決勾留日數全部ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス
記録ニ依レハ第一審第三回公判調書ニハ裁判長ハ公開禁止ヲ解除スル旨告知シタリトノ記載アリ然ルニ第一審公判調書中ニハ右告知ヲ爲ス以前ニ公開禁止ヲ言渡シタルコトヲ認ムヘキ何等ノ記載ナク又第二審公判調書ニ依レハ第二審裁判長ハ記録七八六丁以下第七九二丁迄第七九三丁以下第八〇四丁迄

ヲ讀聞ケ訊問シタルニ被告人ハ其ノ通り相逢ナキ旨述ヘタル旨ノ記載アリテ右讀聞ノ部分ハ第一審第一回公判調書ノ一部ニシテ被告人カ判示日時場所ニ於テ判示ノ如キ詐言ヲ用ヒ筒井久里子ヲ誘致シ同女ト情交ヲ遂ケタル趣旨ヲ供述シタル部分ナリトス而シテ第二審判決ハ右第二審ニ於ケル被告人ノ供述ヲ前記ノ如ク説示シテ採證シタルモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人早稻田逸郎上告趣意書第一點刑事訴訟法第四百十條ニ依レハ「左ノ場合ニ於テハ常ニ上告理由アルモノトス」ト規定シ其ノ第七號ニ於テ「審判ノ公開ニ關スル規定ニ違反シタルトキ」ト定ム然シテ凡ソ裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開スルヲ原則トシ例外トシテ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得ルニ過キス（憲法第五十九條裁判所構成法第百〇五條百〇六條）然シテ公判期日ニ於テ其ノ公開ヲ禁シタルトキハ其ノ旨及理由ヲ公判調書ニ記載セサル可ラス（刑事訴訟法第六十條第二項四號）然シテ第一審昭和七年九月二十六日ノ第三回公判調書ヲ閱スルニ裁判長ハ「公開禁止ヲ解除スル旨告知シタリ」トノ記載アリテ次テ判決ノ宣告ヲ爲シタル旨ノ記載アルモ同日ノ公判調書ニハ勿論同年九月十四日同二十一日ノ各第一、二回公

證據力ナキ第一審公判調書ノ内容ヲ肯認シタル第二審ニ於ケル被告人ノ供述ノ

判調書ヲ閱スルモ毫モ公開ヲ禁シタル旨及其ノ理由ノ記載アルコトナシ果シテ然ラハ第一審公判ハ公開禁止ノ下ニ行ハレタルヤ否ヤ遂ニ之ヲ知ルニ由ナク結局審判ノ公開ニ關スル規定ニ違背シタル違法アルモノト謂ハサル可ラス然シテ原判決ノ證據説明ニ依レハ判示第二ノ事實(強姦致傷)ニ付被告人ノ當公廷ニ於ケル判示日時場所ニ於テ判示ノ如キ詐言ヲ用ヒ筒井久里子ヲ誘致シ同女ト情交ヲ遂ケタル旨ノ供述ヲ證據ニ引用シタリ依テ此點ニ關スル原審公判調書ヲ閱スルニ裁判長ハ問「其ノ詳細ハ此通リカ」ト質問シ此時記録第七八六丁以下第七九二丁迄及七九三丁以下第八〇四丁迄ノ當該事項ヲ讀聞ケタリ」答「其ノ通り相違アリマセス」トノ供述記載アリ然シテ以上ノ記録ハ何レモ第一審第一回公判調書ナルヲ以テ即チ原判決カ判示第二ノ事實ノ證據トシテ引用舉示スル被告人ノ原審公廷ノ供述ハ此一審公廷ニ於ケル供述ト相俟テ證據ノ内容ヲ爲スモノト謂ハサル可ラス然ルニ右第一審ノ公判ニハ前述ノ如キ審判ノ公開ニ關スル違法アルモノナルヲ以テ此違法ナル公判ニ於テ爲サレタル被告人ノ供述ハ適法ナル證據タルノ價值ナキモノナリト謂ハサル可ラス然シテ以上ノ如キ違法ハ單ニ之ニ止マラスシテ原審辯護人ノ犯行當時精神異狀ナリシトノ主張ヲ排斥スルノ理由トシテ「原審(一審)公判調書中被告人ノ犯行當時ノ顛末ニ付詳細ナル供述記載アルコト」ヲ引用説明シアリ果シテ然ラハ原判決ハ是等ノ點ニ付違法ナル手續ノ下ニ爲サレタル證據ヲ有罪ノ資料ニ供シタル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レスト信スト云フニ在リ

依テ第一審第三回公判調書ヲ査スルニ裁判長ハ公開禁止ヲ解除スル旨告知シタリトノ記載アルカ故ニ第一審ハ右告知ヲ爲ス以前ハ公開ヲ禁止シ居リタルモノト認ムヘシ然ルニ第一審公判調書ヲ調査スルニ右告知以前ニ公開禁止ヲ言渡シタルコトヲ認ムヘキ何等ノ記載ナキニ依リ第一審ハ公開禁止ノ言渡ヲ爲サスシテ公開ヲ禁止シタルモノト認ムルノ外ナク其ノ公判手續ハ違法ニシテ同公判ニ於ケル被告人ノ供述ハ之ヲ證據ト爲スヘカラサルコト洵ニ所論ノ如ク尙又原判決カ罪證ニ供シタル原審公廷ニ於ケル所論ノ被告人ノ供述ハ原審裁判長カ記録第七八六丁以下第七九二丁迄第七九三丁以下第八〇四丁迄(第一審第一回公判調書中原判決ニ判示シタル日時場所ニ於テ判示ノ如キ詐言ヲ用ヒ筒井久里子ヲ誘致シ同女ト情交ヲ遂ケタル趣旨ノ被告人ノ供述記載部分)ヲ讀聞ケタルニ對シ被告人カ其ノ通相違ナキ旨陳述シタルモノナルコト洵ニ所論ノ如シト雖原審ニ於ケル被告人訊問ノ際裁判長ノ讀聞ニ依リ右第一審ニ於ケル被告人供述ノ趣旨ハ原審公廷ニ顯出セラレ被告人ハ其ノ通相違ナキ旨ヲ述ヘ第二審裁判所ハ親ク右被告人ノ陳述ヲ聽取シタルモノナレハ原判決カ被告人ハ第二審公廷ニ於テ前記同趣旨ヲ供述シタリト爲シ之ヲ罪證ニ供シタルハ正當ニシテ右ノ如ク訊問ニ際シ讀聞ニ依リ被告人供述ノ内容ト爲リタル第一審第一回公判調書中ノ記載カ證據力ナキモノナルカ爲ニ所論ノ如ク第二審ニ於ケル該供述ヲ證據ニ供スヘカラサルモノト爲スヘカラス原判決ハ尙右ノ外被告人ノ精神狀態ニ關スル辯護人ノ主張ヲ排斥スルニ當リ第一審公判調書中ノ被告人ノ供述記載ヲ援用シタルコト洵ニ所論ノ如クナ

【要旨】

證據力ナキ第一審公判調書ノ内容ヲ肯認シタル第二審ニ於ケル被告人ノ供述ノ證據力 一一七七 (三三)

ルモ此ノ點ニ付テハ原判決ハ第一審公判調書中ノ記載ノ外被告人ニ對スル豫審訊問調書中ノ記載ヲモ引用シタルモノニシテ右豫審訊問調書中ノ記載ノミニ依ルモ優ニ被告人カ精神ニ異狀ナカリシコトヲ證明スルニ足ルカ故ニ右第一審公判調書中ノ記載カ證據ニ供スヘカラサルモノナルカ爲ニ何等原判決ニ影響ヲ與フルコト無キモノトス仍テ論旨ハ結局理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事柴碩文關與

○詐欺未遂私文書偽造行使被告事件 (昭和九年(レ)第八四八號 棄却)
(同年九月十七日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 今野仁平 辯護人 遠藤庸二郎
【第一審】 仙臺區裁判所 【第二審】 仙臺地方裁判所

○判示事項

配當要求ノ拋棄ト詐欺未遂

○判決要旨

虚偽ノ債權ニ基ク他人名義ノ配當要求申立書竝其ノ他人名義ノ委任狀ヲ偽造シ之ヲ執達吏ニ提出行使シテ競賣賣得金配當要求ノ申立ヲ爲シタルモ差押債權者ヨリ告訴ヲ爲スヘキ模様アルコトヲ聞知シ犯行ノ發覺ヲ怖レ已ムヲ得ス其ノ配當要求ヲ拋棄スルニ至リ配當金騙取ノ目的ヲ遂ケサリシ場合ハ所謂障礙未遂ニシテ中止未遂ニ非ス

【参照】 刑法第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

同法第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

○事實

配當要求ノ拋棄ト詐欺未遂

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定辯護人ノ主張ニ對スル判斷及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ其ノ業務ノ關係上屢々裁判所ニ出入シ訴訟手續強制執行手續等ニ相當精通シ居ルモノナルトコロ昭和八年十月二十八日朝知合ノ仙臺市新坂通二十一番地小野寺マサエヨリ同人ノ母同所小野寺ツノカ豫テ同市五十人町若松繁治ヨリ延滞家賃債權ニ基ク強制執行トシテ有體動産ノ差押ヲ受ケ競賣期日カ其ノ日ニ迫レルコトヲ聞キ之カ對策ヲ諮ラルルヤ即座ニ先取特權アル他人名義ノ虛偽ノ債權ヲ以テ配當要求ヲ申立テ配當名義ニテ賣得金ヲ騙取センコトヲ企テ同日肩書自宅六疊間ニ於テ犯意繼續ノ上行使ノ目的ニテ豫テ印刷ニ付シ所持シ居リタル用紙ヲ使用シ擅ニ仙臺市北鍛冶町六十二番地早坂丈之助ノ代理資格ヲ冒用シ被告人カ同人ノ代理人トシテ同人ノ小野寺ツノニ對スル金九十三圓五十四錢ノ飯米代金債權ニ基キ右強制競賣ニ付配當要求ヲ爲ス旨ノ同日附仙臺區裁判所執達吏菅原久治宛配當要求申立書一通ト右早坂丈之助ノ氏名ヲ冒書シ其ノ名下ニ有合印ヲ捺捺シテ同人作成名義ノ同人カ小野寺ツノニ對スル執行委任申立ノ件ヲ被告人ニ委任スル旨ノ同日附委任狀一通ト順次偽造シ同日小野寺ツノ方ニ於テ之等ヲ一括シ競賣ノ爲臨場シタル執達吏菅原久治代理柴崎利吉ニ對シ眞正ニ成立シタルモノトシテ交付行使シ因テ同人並關係人等ヲ欺罔シ賣得金ノ配當ヲ受ケ之ヲ騙取セントシタルカ其ノ後若松繁治ニ於テ右債權ハ虛構ノモノナリトシテ被告人ニ對スル告訴ヲ爲スヘキ模樣アルコトヲ聞知シ犯行ノ發覺ヲ怖レ已ムヲ得ス昭和九年三月六日附ヲ以テ該配當要求ヲ拋棄スルニ至リ配當金騙取ヲ遂ケサリシモノナリ

辯護人等ハ被告人等カ本件配當要求ヲ拋棄シタルハ所謂自己ノ意思ニ因リテ犯罪ノ完成ヲ止メタル場合ニ該當シ中止犯ヲ以テ論スヘキモノナリト主張スレトモ之カ前段舉示ノ檢事聽取書及原審公判調書ニ於ケル被告人ノ供述記載ニ徵スルトキハ被告人カ本件配當要求ヲ拋棄シタルハ若松繁治ヨリ告訴セラルルニ於テハ其ノ犯行ノ發覺ヲ免レ難ク到底配當金騙取ノ目的ヲ遂クルヲ得サルカ爲已ムナク其ノ拋棄ヲ爲シタルコト明白ナリトス左レハ申立ノ拋棄ヲ爲スニ至リタルハ意外ノ障礙ニ因リタルモノニ外ナラスシテ之ヲ目シテ中止未遂ナリト解スルヲ得サルカ故ニ辯護人等ノ右主張ハ採用セス果シテ然ラハ判示犯罪ハ其ノ證明アリタルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中私文書偽造ノ點ハ刑法第五百九條第一項第五十五條ニ該當シ同行使ノ點ハ同法第六十一條第一項第五百九條第一項ニ該當シ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ偽造委任狀行使罪ノ刑ニ從フヘク詐欺未遂ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第二百五十條ニ該當スルトコロ以上私文書偽造同行使詐欺未遂ハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ最モ重キ詐欺未遂罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人遠藤庸二郎上告趣意書第一點ハ原判決ハ其ノ理由中「辯護人等ハ被告人カ本件配當要求ヲ拋棄シタルハ所謂自己ノ意思ニ因リテ犯罪ノ完成ヲ止メタル場合ニ該當シ中止犯ヲ以テ論スヘキモノナリト主張スレトモ之ヲ前段舉示ノ檢事聽取書及原審公判調書ニ於ケル被告人ノ供述記載ニ徵スルトキハ被告人カ本件配當要求ヲ拋棄シタルハ若松繁治ヨリ告訴セラルルニ於テハ其ノ犯行ノ發覺ヲ免レ難ク到底配當騙取ノ目的ヲ遂クルヲ得サルカ爲己ムナク其ノ拋棄ヲ爲スニ至リタルコト明白ナリトス左スレハ申立ノ拋棄ヲ爲スニ至リタルハ意外ノ障礙ニ因リタルモノニ外ナラスシテ之ヲ目シテ中止未遂ナリト解スルヲ得サルカ故ニ辯護人等ノ右主張ハ採用セス」ト判示シ原審辯護人等ノ右主張ヲ排斥セラレタリ然レトモ刑ノ減免ノ事由タル中止未遂ノ要件トスル所ハ犯人カ犯意ヲ翻シ且自己ノ意思ニ因リ犯罪ノ實行行爲ヲ中止スルカ又ハ其ノ終了後ニ於テハ結果ノ發生ヲ防止スルコトヲ要スルト同時ニ其等ノ事實アルヲ以テ足り其ノ動機遠因ノ如何等ハ之ヲ問ハサルモノナルコトハ學說判例ノ一致スル所ナリ從テ犯人カ衷心ヨリ一旦著手シタル犯行ヲ悔悟シテ自ラ之ヲ中止シ又ハ結果ノ發生ヲ防止シタル場合ナルト將又將來犯行ノ發覺スヘキコトニ付危懼ノ念ヲ起シ自ラ之ヲ遂行スルコトヲ思ヒ止マリタルモノナルトヲ問ハス均シク中止未遂タルヲ失ハサルモノト謂ハサルヘカラス今本件ニ付之ヲ觀ルニ被告人カ本件配當要求ノ拋棄ヲ爲シタルハ若松繁治カ告訴ヲ爲シタルヨリ二十數日以前ノコトニ屬スルヲ以テ假令原判決認定ノ如ク同人ヨリ告訴ヲ爲スヘシトノ噂ヲ聞キ犯行ノ發覺スヘキコトヲ危懼シタルカ爲ナリトスルモ之ヲ目シテ意外ノ障礙ニ因ル犯行ノ中止ト認ムヘキモノニ非ス蓋シ犯罪ニ對シ告訴告發ノ行ハルヘキハ當然ニシテ且普通ノ事柄ナルノミナラス之ニ因リ犯行ノ發覺シタル曉ニ於テ犯人カ其ノ目的ヲ遂クル能ハサルニ至ルヘキコトモ亦自然ノ數ナレハ被害者ノ告訴ニ因リ將來檢察權ノ發動ヲ見ルヘキコトヲ以テ犯罪遂行上ノ意外ノ障礙ト謂フヘカラサルモノナルコト明白疑ヲ容レサル所ナレハナリ惟フニ刑法カ中止未遂ノ罪ニ對シ刑ノ減輕又ハ免除ノ恩典ヲ與フル所以ノモノハ犯人自ラ既遂狀態ノ惹起ヲ止メ又ハ結果ノ發生ヲ防止シ以テ犯罪ニ因ル實害ノ發生ヲ避止セシメントスル刑事政策ニ基キタルモノナルヲ以テ苟クモ犯人カ自己ノ自由ナル意思ニ基キテ犯行ヲ中止シタル場合ニ於テハ其ノ動機ノ如何ヲ問ハス之ヲ中止未遂トシテ論スルヲ以テ刑法ノ精神ニ副フモノト謂ハサルヘカラス然ルニ若シ原判決ノ見解ノ如ク將來犯行ノ發覺スヘキコトヲ懼レ其ノ發覺ノ曉ニ於テハ目的ノ遂行不可能トナルヘキコトヲ慮リテ犯行ヲ中止シタル場合ハ之意外ノ障礙ニ因ル中止ニシテ中止未遂ヲ以テ論スヘキモノニ非ストセンカ犯人カ其ノ理性ノ命スル所ニ從ヒ衷心ヨリ前非ヲ悔悟シテ中止シタル場合ノ外ハ中止未遂ヲ認メサルコトニ歸著シ折角刑法カ採用シタル此ノ刑事政策的規定ノ效用

配當要求ノ拋棄ト詐欺未遂

ノ大半ヲ沒却スルニ至ルヘシ蓋シ刑法ノ示セル規範ニ對シ初メヨリ之ヲ遵守シテ犯行ヲ敢テセサルハ國民トシテ又社會ノ一員トシテ當然ノ義務ニ屬スルト同時ニ人トシテ踏ムヘキ當然ノ道ナリト雖一旦其ノ規範ヲ犯シタル後ニ於テモ未タ既遂ノ狀態ニ至ラス又ハ結果ノ發生ヲ見サル間ニ犯人自身ノ意思ニ基キ犯行ヲ中止シ又ハ結果ノ發生ヲ防止スルハ是亦犯罪著手後ニ於ケル規範ノ遵守ニ外ナラサルヲ以テ其ノ動機カ犯行ノ發覺ニ對スル危惧ニ基クト否トヲ問ハス之カ取扱ヲ未遂罪ト區別シ減輕セル科刑又ハ刑ノ免除ヲ以テ臨ムハ刑事政策ノ當ヲ得タルモノト謂フヘク而テ犯行ノ中止ハ其ノ發覺ニ對スル危惧ノ念ニ基ク場合最モ多キニ居ルヘケレハナリ況ンヤ本件被告人カ當初犯行ニ著手シタル動機ハ記録上明白ナルカ如ク昭和八年十月二十八日朝豫テ知合ノ間柄ナル小野寺マサエカ被告人ヲ訪ネ來リ其ノ日ニ迫レル差押動産ノ競賣ニ付救援方ヲ懇請シタル爲咄嗟ノ間ニ虛偽ノ配當加入ヲ思ヒ立チ以テ同人ノ急場ヲ救ハントシタルモノナルモ配當協議不調ニ歸シタル爲競賣得金ノ配當金ヲ以テ右小野寺マサエノ爲ニ競賣物件ノ買戻シヲ爲スヲ得ス同人ハ他ヨリ金融ヲ得テ差押債權者タル若松繁治カ自ラ競買シテ當日持歸リタル書類入箱以外ノ競賣動産ヲ買戻シタルモノナルヲ以テ結局被告人ノ企圖シタル犯行ハ最早其ノ目的ヲ遂クルノ必要ナキニ至リタルト又咄嗟ノ間ニ他人ノ急場ヲ救ハンカ爲企圖實行シタル犯行ヲ後悔セルトニヨリ若松繁治カ仙臺區裁判所檢事局ヘ告訴ヲ爲シタル昭九年三月三十日(記録冒頭告訴狀御參照)ヨリ二十數日以前ナル同月六日配當要求ノ拋棄ヲ爲シタルモノニシテ

原判決認定ノ如ク若松繁治ヨリノ告訴ヲ惧レ已ムナク拋棄スルニ至リタルモノニ非サルニ於テオヤ然ルニ原判決ハ被告人ノ右配當要求拋棄ヲ以テ意外ノ障礙ニ因リタルモノト斷シ刑法第四十三條但書ヲ適用セスシテ未遂罪ヲ以テ論セラレタルハ畢竟擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀セラレヘキモノト信スト云フニアレトモ

【要旨】

原判示ニ依レハ所論配當要求ノ拋棄ハ差押債權者若松繁治ヨリ告訴セラルルニ於テハ被告人ノ犯行發覺シ到底配當金騙取ノ目的ヲ遂クルヲ得サル爲已ムヲ得ス拋棄スルニ至リタルモノニシテ斯クノ如ク意外ノ障礙ニ因リ已ムヲ得スシテ拋棄シタル場合ニアリテハ任意ニ實行ヲ中止シタルモノト爲スヘキモノニ非ス然ラハ所謂障礙未遂ヲ以テ論シタル原判決ハ正當ニシテ所論ノ如キ擬律錯誤ノ違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴碩文關與

○詐欺業務上横領被告事件

(昭和九年(九)第八〇九號 棄却)
同年九月十八日第四刑事部判決

【被告人】 被告人 善家惣吉 辯護人 丸山仁一

【第一審】 福井區裁判所 【第二審】 福井地方裁判所

○判示事項

假装債權ニ基ク差押動産ヲ更ニ他ニ擔保ニ供シタル場合ト詐欺罪

○判決要旨

實體法上假装ノ債權關係ヲ記載シタル公正證書ヲ債務名義トシテ
動産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ債務者カ右差押ノ事實ヲ祕シ何
等負擔ナキ物件ナルカ如ク装ヒ他ニ擔保ニ供シテ金品ヲ交付セシ
ムルニ於テハ詐欺罪ヲ構成ス

【參照】 刑法第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ
處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役四月ニ處ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔
トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和四年頃ヨリ昭和八年七月頃迄肩書住居ニ於テ人絹織物業ニ從事中

第一 豫テ村上清ヨリ同人所有ノ力織機附屬品共二十四臺ヲ代金八百圓ニテ買受ケ該代金債務ヲ同額
ノ貸金債務ニ改メ右力織機二十四臺ヲ以テ其ノ辨濟ヲ確保センカ爲之ニ對スル他債權者ノ差押ヲ回
避スル目的ヲ以テ被告人ハ清ノ妻スズをニ對シ金八百圓ノ債務ヲスズをハ清ニ對シ金七百圓ノ債務
ヲ各負擔セルモノノ如ク假装シ且被告人ハスズをニ對シ右力織機二十四臺ヲ右假装債務ノ賣渡擔保
ニ供シ其ノ所有權ヲ同人ニ移轉セル如ク外面ヲ作爲シ置キタルトコロ其ノ後被告人ニ於テ清ニ對シ
辨濟ヲ爲ササリシ爲右力織機二十四臺ハ清ヨリスズをニ對スル右假装債權ニ基キスズを名義ヲ以テ
差押ヲ受クルニ至レルニ不拘被告人ハ昭和七年四月福井市佐佳枝下町百十五番地織物商川口兼吉方
ニ於テ同人ニ對シ右事情ヲ祕シ右力織機二十四臺ヲ賣渡擔保トシテ金一千圓ヲ限度トスル人絹原絲
ヲ供給サレ度キ旨申入レ兼吉ヲシテ右力織機二十四臺ハ何等繫累ナキ物件ナリト誤信セシメテ右申
入ニ應セシメタル上同年五月上旬迄ノ間ニ人絹絲約千封度ヲ交付セシメテ騙取シタルモノナリ

假装債權ニ基ク差押動産ヲ更ニ他ニ擔保ニ供シタル場合ト詐欺罪

(第二事實省略)

法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ所爲ハ刑法第二百四十六條第一項ニ同第二ノ所爲ハ同法第二百五十三條ニ各該當スルトコロ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ヲ適用シ其ノ重キ前者ノ罪ノ刑ニ併合加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役四月ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人丸山仁一上告趣意書第一點原審判決ニハ判示第一事實ニ付テハ罪トナラサル事實ヲ以テ被告人ヲ處罰シタリ原審判決ハ被告人ハ力織機二十四臺ヲ村上清ヨリ村上すゞをニ對スル假裝債權ニ基キすゞを名義ヲ以テ差押ヲ受クルニ至レルニ拘ラス被告人ハ昭和七年四月福井市佐佳枝下町百十五番地織物商川口兼吉方ニ於テ同人ニ對シ右事情ヲ祕シ右力織機二十四臺ヲ賣渡擔保トシテ金一千圓ヲ限度トスル人絹原絲ヲ供給サレ度キ旨申入レ兼吉ヲシテ右力織機二十四臺ハ何等繁累ナキ物件ナリト誤信セシメテ右申入ニ應セシメタル上同年五月上旬迄ノ間ニ人絹絲約千封度ヲ交付セシメテ騙取シタリトノ事實ヲ認定シ之ヲ詐欺罪トシ刑法第二百四十六條ヲ適用シタリト雖本件記録ニ因レハ被告人カ川口兼

吉ト本件(證第九號證、證第一號)ノ公正契約ヲ締結シタル事情ハ被告人ニ對スル檢事聽取書(昭和八年十二月二日)ノ如ク「私ト川口トノ直接交渉ニナツテ前陳ノ物件ヲ同人ニ賣渡擔保ニ差入レ同人カラ金一千圓ヲ利子元金百圓ニ付一箇月一圓ノ割合ニテ貸與シテ貰フコト竝ニ金一千圓限度ノ織物ノ原絲ヲ供給シテ貰ヒ之ヲ右機械ヲ織上ケ川口ニ納メテ工賃ヲ以テ右一千圓ノ支拂ヲスルト云フ約束カ出來昨年四月五日福井市北本欽吉公證人ニ頼ンテ右物件ヲ私カラ川口ニ金一千圓ヲ賣渡シタ旨及右物件ヲ私カ川口カラ一箇月十圓ノ賃料ヲ借受ケタ旨竝ニ私カ川口カラ金一千圓ヲ元金一百圓ニ就キ一箇月一圓ノ割合テ借受ケタ旨ノ公正證書ヲ作成シテ貰ツタノテアリマス其ノ外川口カラ私ニ對シ金一千圓限度ノ原絲ヲ供給シ私ニ之ヲ右ノ機械ヲ織ラセ其ノ都度織物ノ工賃ヲ精算シテ支拂フト云フ工賃契約ノ公正證書ヲ作成シテ置イタノテアリマス」トアリ川口兼吉ニ對スル第二回檢事聽取書中「處テ私カラ同人ニ金一千圓限度ノ原絲ヲ供給スルニ就テハ無擔保テハ不安心ナノテ同人ノ力織機ヲ賣渡擔保ニ取り形式上私カ善家カラ金一千圓ヲ力織機ヲ買受ケ私カラ之ヲ同人ニ一箇月十圓ノ賃料ヲ貸貸シタコトニシテ公正證書ヲ作り而モ尙同人ニ原絲ヲ供給シタナリテハ其ノ代金ノ徵收カ困難テアルト思ヒ其ノ原絲ハ右ノ力織機ヲ私ノ注文通り織ツテ製絲ヲ他ヘヤラスニ私ノ方ヘ納メ私ノ方テハ相當ナ工賃ヲ提供スルコトニシテ精算ヲスルコトニ善家ト約束シ之ニ對シテハ織物ノ工賃契約ニ關スル公正證書ヲ作成シタノテアリマス此ノ公正證書ニ依レハ單ニ私所有ノ原絲ヲ善家ニ織ラセテ織賃ヲ與ヘルノテ原絲

假裝債權ニ基ク差押動産ヲ更ニ他ニ擔保ニ供シタル場合ト詐欺罪

ヤ織物ノ所有權ハ初メカラ私ノ方ニ屬シテアル様ニ書イテアリマスカ夫レハ善家カ他へ製絲ヲ賣ツテ終フノヲ防止スル爲ニシタ方法テアリマシテ事實ノ真相ハ今申上ケタ通り價格千圓相當ノ力織機ヲ擔保ニ取ツテ置イテ其ノ價格ノ範圍内テ即チ一千圓限度ノ原絲ヲ賣ツテヤツテ居タノテアリマス。トアリ右ニ依ツテ之ヲ見ルニ右川口ノ供述ニ依レハ川口ハ被告人所有ノ機臺ヲ賣渡擔保トシテ賣買契約ヲ爲シ(證第九號)其ノ機臺ノ所有權ヲ獲得シ尙且被告人カ製織シタル織物全部ヲ川口ニ提供セシメ川口ヨリ被告人ニ對シテハ僅カニ其ノ工賃ノミヲ供給シ其ノ工賃ニ因リテ原絲代ヲ差引クト云フ不合理ノ事實ヲ生シ若シ川口ノ供述ノ如クナランニハ被告人ハ擔保ヲ供シ提供セラレタル原絲ナラハ被告人ノ所有ニ屬スルモノナルヲ以テ被告人ハ高キ原絲ヲ以テ製織シタル織物ヲ安ク川口ニ提供スルノ理由ナク被告人カ供給セラレタ原絲ヲ以テ製織シタル織物ヲ川口ニ提供シタルハ全ク貨織契約(證第八號)ニ基キ爲シタルモノニシテ被告人ノ供述ノ如ク本件ノ證第九號ニ基キテハ金一千圓ヲ借用シ之ニ基キテ債務(村上)をニ負擔スルモノ)ヲ返済シ而シテ其ノ川口ノ好意ニ對シテ被告人ハ川口ヨリ貨織契約(證八號)ニ依リテ貨織ヲ爲シ川口ノ專屬工場トシテ作業ヲ爲サントシタルコト明瞭ナルヲ以テ本件ノ證九號ノ一千圓也ノ公正契約ト證八號ノ貨織契約トハ全ク別物ニシテ其ノ證據トシテハ證第一號ノ金錢消費貸借公正證書ニ因ルモ右消費貸借ノ公正證書作成ノ當時(昭和七年四月五日)金錢ノ授受アルヘキハスナルニ是レカ授受ナキコトヲ見ルモ川口ハ最初一千圓ノ現金ヲ貸與スル意思アリシ

ヲ中途ニテ變更シ只貨織契約ノミノ原絲ヲ供給シタルモノナルコトニ依リテ明カナリ尙被告人カ右原絲ヲ騙取シタリトアレトモ辯護人ヨリノ陳述書記載ノ如ク辯證第一號ニ因レハ被告人カ川口ヨリ供給ヲ受ケタル原絲ハ合計千八百封度ニシテ被告人カ川口ニ提供シタル原絲ハ千三百七十三封度五分外ニ川口方ニ計算未了ノ三百封度尙織物ノ工賃二百二十六圓二十錢ヲ受ケ取ラサルモノアルヲ以テ之ヲ原絲ノ價格ニ換算スレハ二百五十封度ノモノトナリ合計千九百二十三封度五分ナル從ツテ原絲騙取ノ事實ナク尙辯證第一號ニ依レハ其ノ決算尻ニ於テ被告人カ百五十五圓七十五錢ノ借越トナリ居レトモ右計算中ニハ原絲竝ニ織物ノ計算以外ノモノカ掲上セラレ在リ其ノ額八百十三圓三十八錢ノ損害金及貸付金カ記載シ有リ之ヲ貸越殘高ヨリ控除スルトキハ七百四十二圓三十七錢ノ殘トナリ右額カ原絲竝ニ織物ノ計算尻ニシテ右計算尻ヲ生シタルハ川口ニ於テ被告人ノ供給ノ織物カ不良ナリシノ故ヲ以テ自己ノ損害ヲ恐レ其ノ原絲ヲ被告人ノ負擔ト爲シ之ヲ安價ニ見積リ引取り被告人ニ對シテ不當ノ損害ヲ負擔セシメタルモノナリ尙被告人カ村上清ヨリ右機臺カ執行サレタルヲ秘シ賣買契約ヲ爲シタリト云フニ在レトモ右川口ハ辯護人ヨリ原審ニ於テ提供セル證據福井區裁判所執達吏天谷虎三郎役場昭和七年甲第九〇號債權者川口兼吉債務者吉田慎一問ノ有體動產差押事件ニ付右川口ハ福井市松ヶ枝町八十番地富田文太郎ノ爲ニ債權者ヲ詐害スル目的ヲ以テ同人占有ノ物件ヲ吉田慎一ノ物トシテ所謂三者執行ヲ爲シ居ル事實明カニシテ之ニ依ツテ見ルモ川口ハ執行其ノ他ノ事件ニ付テハ相當奸手段ヲトル

假裝債權ニ基ク差押動產ヲ更ニ他ニ擔保ニ供シタル場合ト詐欺罪

人物ナルヲ以テ本件ノ機臺カ村上ニヨリ三者執行ヲ受ケ居ルコトハ之ヲ承知シ居リテ本件ノ公正契約ヲ爲シタルモノニシテ被告人ニ於テハ右川口ヨリ借受ケタル金一千圓也ヲ以テ之ヲ返濟セントシタル事實モ之ヲ熟知シ居リタルモノナルコト明カナリ右ノ事情ハ福井區裁判所昭和八年(ハ)第六八號川口兼吉被告人間ノ物件引渡請求事件ニ於テモ被告人ハ本件ノ證第九號證第一號ノ公正契約ハ金錢ノ授受ナキモノナルヲ以テ無効ノモノナリト主張シタル事實ニ依ツテ見ルモ川口村上清ヨリ執行セラレタル事實ヲ熟知シタルコト明カナリ以上ノ如クナルヲ以テ被告人ニ對スル判決第一ノ事實ハ罪トナラサルコト明瞭ナリト思料スト云フニ在レトモ

【要旨】

實體法上假裝ノ債權關係ヲ記載シタル公正證書ヲ債務名義トシテ動産ノ差押ヲ爲シタルトキト雖手續法上ヨリ之ヲ觀レハ差押ノ效力ヲ生シ差押物ノ占有ハ執達吏ニ移轉スルヲ以テ債務者ハ右差押ノ事實ヲ祕シ何等負擔ナキ物件ナルカ如ク裝ヒ他ニ擔保ニ供シテ金品ヲ交付セシムルニ於テハ詐欺罪ヲ構成スルモノトス原判決カ判示第一ニ於テ確定セル事實ニ依レハ被告人ハ云々村上清ヨリ同人所有ノ力織機附屬品共二十四臺ヲ代金八百圓ニテ買受ケ該代金債務ヲ同額ノ貸金債務ニ改メ右力織機二十四臺ヲ以テ其ノ辨濟ヲ確保センカ爲之ニ對スル他債權者ノ差押ヲ回避スル目的ヲ以テ被告人ハ清ノ妻すゞをニ對シ金八百圓ノ債務ヲすゞをハ清ニ對シ金七百圓ノ債務ヲ各負擔セルモノノ如ク假裝シ且被告人ハすゞをニ對シ右力織機二十四臺ヲ右假裝債務ノ賣渡擔保ニ供シ其ノ所有權ヲ同人ニ移轉セル如ク外面

ヲ作爲シ置キタルトコロ其ノ後被告人ニ於テ清ニ對シ辨濟ヲ爲ササリシ爲右力織機二十四臺ハ清ヨリすゞをニ對スル右假裝債權ニ基キすゞを名義ヲ以テ差押ヲ受クルニ至レルニ不拘被告人ハ云々川口兼吉ニ對シ右事情ヲ祕シ右力織機二十四臺ヲ賣渡擔保トシテ金千圓ヲ限度トスル人絹原絲ヲ供給サレ度旨申入レ兼吉ヲシテ右力織機二十四臺ハ何等繫累ナキ物件ナリト誤信セシメテ右申入ニ應セシメタル上同年五月上旬迄ノ間ニ人絹絲約千封度ヲ交付セシメテ騙取シタリト云フニ在ルヲ以テ詐欺罪ヲ構成スルコト洵ニ明ナリ從テ原判決ハ所論ノ如ク罪トナラサル事實ヲ問擬シタル違法アルモノニ非ズ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事松阪廣政關與

○恐喝詐欺橫領被告事件(昭和九年(九)第八五七號)

(昭和九年九月二十日第二刑事部判決)

破毀自判)

詐欺及恐喝ト連續犯

【上告人】 被告人 藤田慶次郎 辯護人 片山條清
【第一審】 盛岡區裁判所 外名 盛岡地方裁判所
【第二審】 盛岡地方裁判所

○ 判示事項

詐欺及恐喝ト連續犯

○ 判決要旨

詐欺ノ行爲ト恐喝ノ行爲トハ連續犯ト成ルモノニ非ス

【參照】 刑法第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

同法第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

同法第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

同法第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付確定裁判アリタ

ルトキハ止テ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人藤田慶次郎ヲ懲役一年ニ被告人藤原松之助ヲ懲役十月ニ各處ス訴訟費用ハ被告人等ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人等兩名ハ昭和九年一月十四日長内サメヨリ川村強治ニ對シ兩名間ニ生レタル私生子妙子ノ養育料等請求ノ交渉方ヲ委任セラレ之カ代理人トシテ翌十五日岩手縣稗貫郡花卷町強治方ニ於テ同人ト交渉ノ末談金トシテ金百五十圓ヲ受領シ保管中兩名共謀ノ上同日同町及同郡花卷温泉ニ於テ數回ニ擅ニ合計約六十圓ヲ遊興費等ニ費消横領シ次テ翌十六日東北本線花卷・盛岡兩驛間列車中ニ於テ殘金中四十圓ヲ各二十圓宛分配シテ着服横領シ

第二 被告人等兩名ハ川村強治ノ前記私生子問題ノ弱點ニ乘シ同人ヨリ金員ヲ騙取センコトヲ共謀ノ上同年同月二十八日同縣同郡花卷驛附近路上ニ於テ川村強治ニ對シ長内サメカ下宿屋ヲ開業スルニ付之カ費用トシテ同人ノ爲金六十圓ヲ提供セラレ度キ旨虛構ノ事實ヲ申向ケテ其ノ旨誤信セシメ因テ即時同人ヨリ金三十圓ヲ受取り騙取シ

第三 被告人等兩名ハ長内サメカ高橋一郎ト通シ其ノ間正雄ナル當四年ノ私生子アルヲ奇貨トシ一郎ヨリ金圓ヲ恐喝センコトヲ共謀ノ上同問題ニ付サメヨリ何等委任ヲ受ケタルコトナキニ拘ラス同年

詐欺及恐喝ト連續犯

一月三十日新潟縣中魚沼郡十日町大佐旅館ニ於テ當時同町鐵道省信濃川電氣事務所所在動中ノ一郎ニ對シ私生子正雄ノ認知ヲ求メ更ニサメハ目下生活ニ窮迫シ居ル故何分ノ援助アリ度ク若シ之ニ應セサレハ電氣事務所長ニ事情ヲ暴露スヘキ旨申向ケテ暗ニ出金ヲ要求シ之ニ應セサレハ其ノ職業上ノ地位ヲ脅サルルコトアルヘキヲ畏怖セシメ因テ示談金トシテ金三十五圓ヲ交付セシメテ喝取シ

第四 被告人松之助ハ同年二月四日前記花卷町川村強治方ニ於テ同人ニ對シ其ノ意思ナキニ拘ラス小冊子「岩手縣人會」ニ廣告ヲ掲載スヘキ旨申向ケ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ即時廣告料名義ノ下ニ金十圓ヲ受取り騙取シタルモノナリ

而シテ被告人兩名ノ右横領ノ各所爲及恐喝ト詐欺トノ各所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ係ルモノトス法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲中判示第一ノ點ハ各刑法第二百五十二條第一項第六十條ニ判示第二ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第六十條ニ判示第三ノ點ハ同法第二百四十九條第一項第六十條ニ判示第四ノ點ハ同法第二百四十六條第一項ニ各該當スルトコロ被告人兩名ノ横領ノ各所爲及恐喝ト詐欺トノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ニ依リ各一個ノ犯罪トシ後者ニ付テハ重シト認ムル恐喝罪ノ刑ニ從ヒ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ則リ重キ恐喝罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人等ヲ各主文ノ刑ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ依リ被告人等ヲシテ連帶負擔セシムヘキ

モノトス

○主 文

原判決ヲ破毀ス

被告人藤田慶次郎ヲ懲役一年ニ處ス

被告人藤原松之助ヲ懲役十月ニ處ス

訴訟費用ハ被告人兩名ノ連帶負擔トス

○理 由

刑事訴訟法第四百三十七條ニ依リ原判決ニ於ケル法令違反ノ有無ニ付調査スルニ原判決ハ被告人兩名ノ原判示第二ノ詐欺第三ノ恐喝被告人松之助ノ第四ノ詐欺ノ各行爲ヲ孰レモ連續犯ヲ構成スル一罪ナリト解シ各刑法第五十五條第十條ヲ適用處斷シタルトモ詐欺ノ行爲ト恐喝ノ行爲トハ均シク不法ニ財物ヲ領得スル罪ナルモ一ハ欺罔手段ニ因ル相手方ノ錯誤ノ意思狀態ヲ利用スルニ反シ他ハ恐喝手段ニ因ル相手方ノ畏怖ノ意思狀態ヲ利用スルモノニシテ罪質同一ナラス之ヲ同一罪名ニ觸ルルモノト解スルヲ得ス從テ同シク犯罪ヲ爲ス意思ノ發動ニ基クモノトスルモ併合罪ヲ構成スルモノニシテ連續犯ト成ルモノニ非スサレハ原判決カ被告人兩名ノ詐欺及恐喝ノ各行爲ヲ連續犯ヲ構成スルモノトシテ處斷シタルハ失當ニシテ破毀ヲ免レサルモノトス仍テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ依リ原

詐欺及恐喝ト連續犯

【要旨】

判決ノ確定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告人慶次郎 松之助兩名ノ判示第一ノ横領ノ所爲ハ各刑法第
二百五十二條第一項第五十五條第六十條ニ被告人兩名ノ判示第三ノ恐喝ノ所爲ハ各同法第二百四十九
條第一項第六十條ニ被告人慶次郎ノ判示第二ノ詐欺ノ所爲ハ同法第二百四十六條第一項第六十條ニ被
告人松之助ノ判示第二第四ノ詐欺ノ所爲ハ同法第二百四十六條第一項第五十五條第六十條ニ各該當シ
各同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ則リ犯情重キ恐喝罪ノ刑ニ法定ノ
加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人慶次郎ヲ懲役一年ニ被告人松之助ヲ懲役十月ニ處シ訴訟費用
ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第二百三十八條ヲ適用シ被告人兩名ヲシテ連帶シテ之ヲ負擔セシ
ムヘキモノトス

以上ノ理由ナルヲ以テ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

○有價證券虛偽記入行使私文書偽造行使公正證書原本不實記載行使
詐欺被告事件 (昭和九年(九)第八四三號 棄却)
(同年九月二十一日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 松野木 續 辯護人 小林 龜 郎

【第一審】 廣島地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

事業著手ノ事實ナキ假裝會社ノ株金拂込ト詐欺罪

○判決要旨

株式會社ノ設立ニ付既ニ登記ヲ經タルモ其ノ設立力全然假裝ニシ
テ事業著手ノ事實ナキ場合ニ於テ善意ノ株式引受人ヲシテ株金拂
込名義ノ下ニ金圓ヲ交付セシムルトキハ詐欺罪ヲ構成ス

【參照】 刑法第二百四十六條第一項 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ
懲役ニ處ス

商法第二百三十二條第一項 會社ノ事業ニ著手シタル後株主取締役又ハ監査役カ其
設立ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキハ訴ヲ以テノミ其無効ヲ主張スルコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年六月ニ處ス押收物件中證第一號

事業著手ノ事實ナキ假裝會社ノ株金拂込ト詐欺罪

中竝證第二十六號中ノ田平久吉 松野木俊雄名義ノ各株式引受證海村進 淺井賴爲治名義ノ各株式申込證ノ各全部定款検査報告書中ノ各偽造部分證第二、第四、第五、第九號株券中ノ各虛偽記入部分ハ執レモ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ大正十五年頃ヨリ廣島市千田町ニ於テ理化學器械商ヲ營ミ居リシカ資金ニ窮シタル結果同市牛田町石本芳太郎ヨリ昭和五年七月以降昭和六年四月頃迄ノ間ニ數回ニ合計金七千圓ヲ借入レシモ尙資金不足シテ營業意ノ如クナラサルヨリ

第一 昭和六年五月初頃高橋正作 青木雅澄等ヲ勸誘シ 同人等ト共ニ理化學器械器具博物學模型標本ノ製作販賣竝修繕等ヲ目的トスル資本金四萬圓一株金額二十圓ノ關西器械標本株式會社ノ設立ヲ企テタルモ石本芳太郎ニ於テ五百株(株金一萬圓)ノ引受ヲ申出テタル外現實ニ出資ヲ爲サントスル者ナク到底同會社成立ノ見込立タサリシカ既ニ會社ヲ設立スヘキ旨公表シ居リシ關係上世間體ヲ慮リ茲ニ右會社ノ成立ヲ假裝センコトヲ企テ

(一) 前記千田町ノ被告人方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ(イ)昭和六年五月上旬頃擅ニ同會社ノ發起人トシテ田平久吉 松野木俊雄ノ各署名ヲ冒用シ且其ノ名下ニ夫々有合印ヲ押捺シテ右兩名ト被告人等トノ共同作成名義ノ定款ヲ(ロ)同月十五日頃擅ニ田平久吉 松野木俊雄ノ署名ヲ冒用シ前同様其ノ名下ニ各有合印ヲ押捺シ前者ノ名義ニテ百株後者ノ名義ニテ二百五十株ノ各株式引受

證ヲ(ハ)同日頃擅ニ海村進 淺井賴爲治ノ署名ヲ冒用シ且其ノ名下ニ夫々有合印ヲ押捺シ前者ノ名義ニテ百株後者ノ名義ニテ五十株ノ各株式申込證ヲ(ニ)同月三十一日頃擅ニ淺井賴爲治ノ署名ヲ冒用シ其ノ名下ニ有合印ヲ押捺シテ同人ト岩崎七郎トノ共同作成名義ノ同會社ノ検査報告書ヲ各二通宛順次偽造シ尙被告人名義ノ假裝株式引受證ヲモ添付シテ恰モ全株ノ引受及拂込アリテ同會社カ成立シタルカノ如ク外形ヲ裝ヒタル上被告人自ラ代表取締役トシテ同年六月十二日廣島市三川町司法代書人安長秀之助ヲ介シ同會社ノ設立登記申請書ニ右偽造ニ係ル定款株式申込證同引受證及検査報告書(證第一號中及證第二十六號中ノモノ)ヲ添ヘ一括シテ廣島區裁判所ニ提出行使シ登記官吏ニ對シ同會社カ前記ノ如キ資本ニシテ各株ノ拂込完了シ創立總會ノ終結ニヨリ成立シタルニヨリ設立登記アリ度キ旨虛偽ノ申立ヲ爲シ因テ同官吏ヲシテ商業登記簿原本ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメ即時之ヲ同裁判所ニ備付ケシメテ行使シ

(二) (イ) 次テ同年六月頃行使ノ目的ヲ以テ同會社カ前記ノ如ク假裝ニシテ株金ノ拂込ナキニ拘ラス高橋正作ト諮リ同人ノ手ニ依リ廣島市鐵砲町太陽印刷所ニ於テ取締役社長高橋正作名義ヲ以テ高橋正作(五百株) 松野木續(五百株) 松野木俊雄(百五十株) 中高下次作(百株) 中高下竹子(百株) 青木雅澄(五十株) 岩崎七郎(五十株) 淺井賴爲治(五十株) 石本芳太郎(三百株) 田中久吉(百株) 海村進(百株)ヲ各株主トシタル同會社ノ株券(證第二第四第五第九號)ヲ作

成シ之ニ夫々資本金四萬圓ニシテ一株ノ金額二十圓全額拂込済ナル旨ヲ印刷シ以テ順次右株券ニ
 虚偽ノ記入ヲ爲シ(ロ)其ノ頃前記被告人方ニ於テ右虚偽記入アル株主被告人宛ノ株券中三百五
 十株分(證第五號)ヲ一括シテ真正ナルモノノ如ク裝ヒ石本芳太郎ニ對スル被告人ノ前記金七千
 圓ノ債務ノ擔保トシテ情ヲ知ラサル同人ニ差入レテ行使シ

第二 被告人ハ前記ノ如ク會社ノ設立ヲ假裝シタルモ右石本芳太郎ニハ其ノ實情ヲ告ケス同人ニ於テ
 ハ會社カ眞ニ成立セラレタルモノト誤信シ居レルニ乘シ同人引受ニ係ル株式五百株(但内百株ハ親
 戚田平久吉名義内百株ハ同海村進名義ヲ以テセルモノ)ノ株金拂込名義ノ下ニ金員ヲ騙取センコト
 ヲ企テ昭和六年六月頃前記被告人方ニ於テ同人ニ對シ株式ノ引受ヲ爲シタル高橋正作等ハ既ニ株金
 全額ノ拂込ヲ了シタルニ付貴殿ニ於テモ引受株五百株ノ株金拂込アリタキ旨申向ケ同人ヲシテ會社
 成立セラレ引受人ハ何レモ株金ノ拂込ヲ了シタルモノト誤信セシメ因テ同年六月十七日ヨリ同年八
 月十八日迄ノ間數回ニ前記被告人方ニ於テ同人ヨリ右株金拂込名義ノ下ニ合計一萬圓ノ交付ヲ受ケ
 テ之ヲ騙取シ

タルモノニシテ被告人ノ前記私文書偽造有價證券虚偽記入ノ各所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ係ルモノトス
 法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中私文書偽造ノ點ハ刑法第五百九條第一項第五十五條ニ偽造私文書
 一括行使ノ點ハ同法第六十一條第一項第五十九條第一項第五十四條第一項前段第十條ニ各該當ス

ルヲ以テ後者ニ付テハ犯情最モ重キ偽造定款行使罪ノ刑ニ從フヘク公正證書原本不實記載ノ點ハ同法
 第五百七條第一項ニ其ノ行使ノ點ハ同法第五百八條第一項第五百七條第一項ニ各該當スルトコ
 ロ以上ハ其ノ間順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ最モ重キ偽造
 私文書行使罪ノ刑ニ從ヒ有價證券虚偽記入ノ點ハ同法第六十二條第二項第一項第五十五條ニ其ノ一
 括行使ノ點ハ同法第六十三條第一項第五十四條第一項前段第十條ニ各該當スルヲ以テ後者ニ付キ犯
 情最モ重キ内一通(證第五號中甲第貳〇號額面五百圓株券)ニ對スル行使罪ノ刑ニ從フヘク而シテ右
 虚偽記入ト行使トハ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニヨリ犯情重キ右行
 使罪ノ刑ニ從フヘク詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項ニ該當スルトコロ以上三罪ハ同法第四十五
 條ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニヨリ最モ重キ虚偽記入有價證券行使罪ノ刑ニ法定ノ加
 重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年六月ニ處スヘク押收物件中主文掲記ノ株式引受證株
 式申込證ノ各全部及定款検査報告書中ノ各偽造部分ハ判示偽造行爲ニヨリ生シタルモノ主文掲記ノ株
 券中ノ各虚偽記入部分ハ判示虚偽記入行爲ニヨリ生シタルモノニシテ何レモ何人ノ所有ヲモ許ササル
 モノナルヲ以テ同法第十九條第一項第三號第二項ニヨリ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百
 三十七條第一項ニ從ヒ全部被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

主 文

事業者手ノ事實ナキ假裝會社ノ株金拂込ト詐欺罪

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人小林龜郎上告趣意書第三點原判決ハ第二事實トシテ「被告人ハ前記ノ如ク會社ノ設立ヲ假裝シタルモ右石本芳太郎ニハ其ノ實情ヲ告ケス同人ニ於テハ會社カ眞ニ設立セラレタルモノト誤信シ居レルニ乘シ同人引受ニ係ル株式五百株（但内百株ハ親戚田平久吉名義内百株ハ同海村進名義ヲ以テセルモノ）ノ株金拂込名義ノ下ニ金員ヲ騙取センコトヲ企テ昭和六年六月頃前記被告人方ニ於テ同人ニ對シ株式ノ引受ヲ爲シタル高橋正作等ハ既ニ株金全額ノ拂込ヲ了シタルニ付貴殿ニ於テモ引受株五百株ノ株金拂込アリ度キ旨申向ケ同人ヲシテ會社設立セラレ引受人ハ何レモ株金ノ拂込ヲ了シタルモノト誤信セシメ因テ同年六月十七日ヨリ同年八月十八日迄ノ間數回ニ前記被告人方ニ於テ同人ヨリ右株金拂込名義ノ下ニ合計金一萬圓ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シ」ト認定シ被告人ヲ詐欺罪ニ問擬シタリ然レトモ第一事實冒頭認定ニ依レハ石本芳太郎ハ判示會社ノ設立ヲ企テタル際眞實五百株ノ引受ヲ申出テタリト云フニ在ルヲ以テ假令其ノ他該會社ニ對シ眞實ニ出資ヲ爲サントスル者ナク該會社ノ成立ハ假裝ナリトスルモ一旦該株式ノ引受ヲ申出テタル以上其ノ引受ヲ取消スカ又ハ會社設立無効トナラサル限リ其ノ株式引受人ニ於テ其ノ引受ケタル株金ノ拂込ヲ爲ササルヘカラサル義務アルヲ以テ被告人ニ於テ右石本芳太郎ニ判示拂込ヲ爲サシメタリトスルモ前記義務ヲ履行セシメタルニ止マリ刑法上

ノ詐欺罪ヲ構成スヘキモノニアラサルナリ然ルニ原判決ハ此點ヲ看過シ被告人ヲ同罪ニ問擬シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

原判決ノ判示スル所ニ依レハ被告人ハ昭和六年五月初頃高橋正作 青木雅澄等ヲ勸誘シ同人等ト共ニ理化學器械器具博物學模型標本ノ製作販賣並修繕等ヲ目的トスル資本金四萬圓一株金額二十圓ノ關西器械標本株式會社ノ設立ヲ企テタルモ石本芳太郎ニ於テ五百株（株金一萬圓）ノ引受ヲ申立テタル外現實ニ出資ヲ爲サントスル者ナク到底同會社成立ノ見込立タサリシカ既ニ會社ヲ設立スヘキ旨公表シ居リシ關係上世間體ヲ慮リ茲ニ右會社ノ成立ヲ假裝センコトヲ企テ被告人方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ（イ）昭和六年五月上旬頃擅ニ同會社ノ發起人トシテ田平久吉 松野木俊雄ノ各署名ヲ冒用シ且其ノ名下ニ夫々有合印ヲ押捺シテ右兩名ト被告人等トノ共同作成名義ノ定款ヲ（ロ）同月十五日頃擅ニ田平久吉 松野木俊雄ノ署名ヲ冒用シ前同様其ノ名下ニ各有合印ヲ押捺シ前者ノ名義ニテ百株後者ノ名義ニテ二百五十株ノ各株式引受證ヲ（ハ）同日頃擅ニ海村進 淺井賴爲治ノ署名ヲ冒用シ且其ノ名下ニ夫々有合印ヲ押捺シ前者ノ名義ニテ百株後者ノ名義ニテ五十株ノ各株式申込證ヲ（ニ）同月三十一日頃擅ニ淺井賴爲治ノ署名ヲ冒用シ其ノ名下ニ有合印ヲ押捺シテ同人ト岩崎七郎トノ共同作成名義ノ同會社ノ檢査報告書ヲ各二通宛順次偽造シ尙被告人等名義ノ假裝株式引受證ヲモ添付シテ恰モ全株ノ引受及拂込アリテ同會社カ成立シタルモノノ如ク外形ヲ裝ヒタル上被告人自ラ代表取締役トシテ同年六

月十二日司法代書人安長秀之助ヲ介シ同會社ノ設立登記申請書ニ右偽造ニ係ル定款株式申込證同引受證及檢査報告書ヲ添ヘ一括シテ廣島區裁判所ニ提出行使シ登記官吏ニ對シ同會社カ前記ノ如キ資本ニシテ各株ノ拂込完了シ創立總會ノ終結ニヨリ成立シタルニヨリ設立登記アリ度キ旨虛偽ノ申立ヲ爲シ因テ同官吏ヲシテ商業登記簿ノ原本ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメ即時之ヲ同裁判所ニ備付ケシメテ行使シタリト云フニ在ルヲ以テ原判決ハ右會社ノ設立ハ全然假裝無効ノモノト認メタルモノナルコト明ナリ尤モ株式會社ノ設立カ縱令無効ナリトスルモ會社カ既ニ事業ニ著手シタル後ニ於テハ株主等カ訴ヲ提起シテ設立無効ノ判決ヲ受ケタル事實アルニ非サレハ右會社ノ設立ヲシテ當然無効タラシムルコトナキハ商法第二百三十二條第一項ノ規定ニ徴シ明ナリト雖本件會社ハ敍上判示ニヨリ明ナル如ク全然假裝ニシテ固ヨリ事業ノ存スルコトナク從テ又事業ニ著手シタル事實ナキモノナルヲ以テ縱令右會社カ既ニ登記ヲ經テ形式上存在スル如キ觀ヲ呈スル場合ト雖其ノ設立ハ何等ノ手續ヲ竣タスシテ當然無効ナルハ勿論ナリトス然レハ縱令所論ノ如ク石本芳太郎カ右會社ノ株式ヲ引受ケタル事實アリトスルモ同人ニ於テ其ノ株金ノ拂込ヲ爲ササルヘカラサル義務アルコトナキヲ以テ原判示ノ如ク被告人カ右石本ニ對シ欺罔行爲ニ因リ右株金拂込名義ノ下ニ金員ヲ交付セシメタル以上詐欺罪ノ成立スルハ勿論ニシテ原判決ニハ毫モ所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事柴領文關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件(昭和九年(九)第八六九號 同年九月二十七日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 廣江直義 辯護人 大脇熊雄
 和江田珍彦
 【第一審】 松江區裁判所 【第二審】 松江地方裁判所

○判示事項

反對側候補者斷念ノ斡旋ト選舉運動

○判決要旨

自己カ選舉運動ヲ爲セル候補者ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ反對側候補者ノ立候補ヲ斷念セシムルノ斡旋ヲ爲シタル行爲ハ選舉運動ニ外ナラス

反對側候補者斷念ノ斡旋ト選舉運動

【參照】衆議院議員選舉法第一百十二條第三號 左ノ各號ニ掲ケル行爲ヲ爲シタル者ハ
 二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 三 投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト、選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋
 勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ第一
 號ニ掲ケル行爲ヲ爲シタルトキ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能
 ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
 被告人ハ昭和九年三月三日施行セラレタル島根縣縣會議員選舉ニ際シ八束郡選舉區ヨリ立候補セル青
 山善一郎ノ選舉委員ト爲リ同人ノ爲選舉運動ニ從事セシカ同年十二月五日頃同一選舉區ヨリ稻田忠八
 郎カ立候補セントシ之カ準備ヲ爲シツツアルコトヲ聞知スルニ及フヤ斯クテハ選舉戰ハ一層劇烈トナ
 リ青山善一郎ノ當選ニ重大ナル影響ヲ及ホス虞アルヲ以テ稻田忠八郎ニ立候補ヲ斷念セシメテ同選舉
 區ヲ無投票區ニ終ラシムルカ假ニ無投票區ト爲ラサリシトスルモ稻田忠八郎カ立候補ヲ斷念スルニ於
 テハ同人カ立候補後得ヘカリシ投票ノ幾部ハ當然青山善一郎ノ爲獲得シ得ヘキニ依リ斯ル方法ニテ結
 局同人ヲシテ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ昭和九年二月十六、七日頃夜其ノ頃稻田ヲ擁立シ同人ノ爲諸
 般ノ選舉運動ニ從事シ居リタル川上榮之助宅ヲ訪問シ同人ニ對シ稻田ニ於テ立候補ヲ斷念スル様幹旋

シ吳レ度キ旨依頼シタルカ其ノ後同月十九日夜川上方ヲ再ヒ訪問シタル際同人及同人ト共ニ稻田ヲ擁
 立シ同人ノ爲諸般ノ運動ヲ爲シ居リタル門脇薰ヨリ同人等ノ幹旋ニテ略々稻田ニ於テ立候補ヲ斷念セ
 ントスル模様ナルヲ以テ相當ノ報酬ノ供與方ヲ申込マレタルヲ以テ被告人ハ之ヲ承諾シタルカ同月二
 十一日夜松江市寺町料理業三上亭三上まさ方ニ於テ門脇及川上ノ兩名ニテ會合シタル際右兩人ヨリ同
 人等ノ幹旋ニテ稻田カ立候補ヲ斷念シタル旨ノ確答ニ接スルヤ先ツ右幹旋ノ報酬トシテ右兩人ニ對シ
 一人前約一圓二十錢相當ノ酒肴ノ響應ヲ爲シ其ノ飲食中同人等ニ對シ後日更メテ相當ノ金員ヲ謝禮ト
 シテ供與スヘキコトヲ約束シタルモノナリ
 法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第三號ニ該當スルヲ以
 テ罰金刑ヲ選擇シテ被告人ヲ罰金百圓ニ處スヘク尙右不完納ノ場合ノ勞役場留置ニ付刑法第十八條ヲ
 適用シ注文ノ如ク判決ス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人大脇熊雄 和田珍頼上告趣意書第一點ハ原審ノ判定セラレタル事實ニ依レハ被告人ハ青山善一
 郎ノ當選ヲ目的トシ稻田忠八郎ノ選舉運動員タル川上榮之助及門脇薰ニ對シ同人等ノ盡力ニ依リ稻田

反對候補者斷念ノ幹旋ト選舉運動

カ立候補ヲ斷念スル様幹旋方ヲ依頼シ覆應及報酬ノ契約ヲ爲シタリト云フニ在リ右事實ニ對シ原審カ府縣會議員選舉ニ準用セラルル衆議院議員選舉法第百十二條第三號ヲ適用シテ處斷セラレタルコト亦原判決自體ニ明ナル所ナリ然レ共右法第百十二條ハ投票及選舉運動ノ自由公正ヲ確保スル爲投票及選舉運動ニ關シテ選舉人若ハ選舉運動者ニ對シ同條各號所定ノ行爲ヲ爲シタル者アルトキ之ヲ罰スヘキ趣旨ナルコト誠ニ明瞭ナル所ナリ本件ノ場合ハ之ト異ナリ立候補ノ阻止ヲ目的トシタルモノニシテ「投票」又ハ「選舉運動」ヲ目的トシタルモノニアラサレハ法第百十二條ノ規定スル範圍ニアラス然ルニ本件ニ同條ヲ適用シタルハ正ニ擬律ニ錯誤アリ破毀セラルヘキモノト信ス立候補ノ自由公正ヲ確保スル爲ニハ法第百十三條ノ規定アリ立候補阻止ノ行爲ヲ爲シタル者ヲ處罰センカ爲ニハ同條所定ノ要件ニ該ルヲ要スルコト勿論ナルヘシ若シ立候補阻止ニ關スル行爲ニ付テ法第百十三條ノ規定スル場合ノ外猶廣ク之ヲ罰セラルル法意ナリトセハ選舉人又ハ選舉運動者ニ非サル者(即チ法第百十二條各號ニ該ラサル者)ニ對シ他人ノ立候補阻止ヲ依頼シテ之ニ利益ノ供與(若ハ約束)ヲ爲シタル場合ヲモ犯罪トシテ規定セラルルニ非サレハ到底其ノ目的ヲ達スル能ハサルコト明ナリ然ルニ斯クノ如キ規定アルコトナシ即チ被告人ハ稻田忠八郎ノ立候補阻止ニ努メタルコトアリトスルモ法第百十二條ノ適用ヲ受クヘキ謂レナシ法第百十二條第三號ノ文詞ニ付キテ之ヲ見ルモ其ノ規定ハ「投票ヲ爲シ又ハ爲サルコト」「選舉運動ヲ爲シ又ハ爲サルコト」ニ限ラレ法第百十三條各號ノ如ク「候補者タラントス

ルコト若ハ候補者タラントス止メシムルコト」ニ關スル規定ニアラサルハ殆ト疑ノ存セサル所ナリ
 原判決ハ不當ニ法令ヲ適用シタリトノ批難ヲ免ルル能ハサルモノト信スト云フニアレトモ
 原判決ノ認定シタル事實ハ被告人ハ島根縣縣會議員候補者タル青山善一郎ノ選舉委員ト爲リ同人ノ爲選舉運動ニ從事セシカ同一選舉區ヨリ稻田忠八郎カ立候補ノ準備ヲ爲シツツアルヲ聞知スルヤ斯クテハ選舉戰ハ一層激烈ト爲リ青山善一郎ノ當選ニ重大ナル影響ヲ及ホス虞レアルヲ以テ稻田忠八郎ニ立候補ヲ斷念セシメテ同選舉區ヲ無投票區ニ終ラシムルカ假リニ無投票區トナラサリトスルモ稻田忠八郎カ立候補ヲ斷念スルニ於テハ同人カ立候補後得ヘカリシ投票ノ幾部ハ當然青山善一郎ノ爲獲得シ得可キニ依リ斯ル方法ニテ結局同人ヲシテ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ稻田ヲ擁立シ同人ノ爲ニ諸般ノ選舉運動ニ從事シ居リタル川上榮之助ニ對シ稻田ニ於テ立候補ヲ斷念スル様幹旋シ吳レタキ旨依頼シ同人ト共ニ稻田ヲ擁立シ同人ノ爲諸般ノ運動ヲ爲シ居リタル門脇憲ヨリ同人等ノ幹旋ニテ略稻田ニ於テ立候補ヲ斷念セントスル模様ナルヲ以テ相當ノ報酬ノ供與方ヲ申込マレタルヲ以テ被告人ハ之ヲ承諾シ其ノ後川上門脇ノ兩名ヨリ同人等ノ幹旋ニテ稻田カ立候補ヲ斷念シタル旨ノ確答ニ接スルヤ先ツ右幹旋ノ報酬トシテ右兩人ニ對シ覆應ヲ爲シ猶ホ後日改メテ相當ノ金員ヲ謝禮トシテ供與スヘキコトヲ約束シタルモノナリト云フニアルヲ以テ青山善一郎ノ爲ニ稻田忠八郎ノ立候補ヲ斷念セシムルコトノ幹旋ハ即チ一面ニ於テ青山善一郎ノ當選ヲ得シムル目的ノ選舉運動タルモノナルヲ以テ立候補ヲ

【要旨】
 反對側候補者斷念ノ幹旋ト選舉運動
 一一一一 (一五)

斷念セシメタル斡旋ノ報酬トシテ被告人カ川上 門脇ニ對シ響應並ニ金員供與ノ約束ヲ爲シタル本件
行爲ヲ選舉運動ノ報酬トシテ爲シタルモノト認メ府縣制第四十條ニ依リ準用セラルル衆議院議員選舉
法第十二條第三號ニ問擬シタル原判決ハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由
ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與佐次郎關與

○收賄被告事件(昭和九年(九)第八七一號 事實審理)
(同年九月二十七日第二刑事部決定)

【上告人】 被告人 有吉 半 祐 辯護人 (大八木喬輔 松久利市)
【第一審】 福岡地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

連續犯ノ一部ニ關スル證據理由不備ト上告理由

○決定要旨

連續犯ノ一部ニ付證據理由不備ノ違法アルニ過キサル場合ト雖附
加刑タル沒收ニ代ル追徴ニ影響ヲ及ホスヘキトキハ上告ノ理由ト
ナルモノトス

【參照】 刑法第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一
罪トシテ之ヲ處斷ス
刑事訴訟法第四百十一條 前條ノ場合ヲ除クノ外法令ニ違反シタルコトアリト雖判
決ニ影響ヲ及ホササルコト明白ナルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人半祐ヲ懲役四月ニ處ス但未決勾留日數ノ一
部分ヲ右刑期ニ滿ツル迄算入ス被告人ヨリ金二百八十五圓ヲ追徴ス訴訟費用中(中略)ハ(中略)連
帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人有吉半祐ハ大正十五年九月以來昭和八年四月二十八日休職トナルニ至ル迄福岡縣飯塚市所在福
岡縣立嘉穂中學校長トシテ在職シ同校所屬職員ノ監督ノ任ニ當リ就中所屬職員ノ任免黜陟ニ關シ制規

連續犯ノ一部ニ關スル證據理由不備ト上告理由

上縣知事ニ對シ之カ申請ヲ爲スヘキ權限ヲ有シ又同校校務掌理方法トシテ生徒用教科書販賣書籍店ノ選擇指定ヲ爲スヘキ權限ヲ有シ居リタルモノニシテ被告人波多野準ハ被告人半祐ノ同郷出身ニ係リ其ノ推薦ニヨリ昭和五年三月三十一日同校教諭ニ就職シ爾來昭和八年四月二十八日休職ト爲ルニ至ル迄被告人半祐ノ監督ヲ受ケ居リタルモノニシテ被告人波多野義喜ハ被告人準ノ實兄ニシテ被告人元野木慎太郎ハ從來同校生徒用教科書販賣ニ付其ノ指定ヲ受ケ居リタル合資會社元野木書店ノ代表社員ナルトコロ

被告人半祐ハ

- 一、波多野準及波多野義喜ヨリ準ヲ同中學校教諭トシテ採用セラレ度キ旨ノ懇請ヲ受ケ之カ盡力中昭和五年二、三月頃前記飯塚市大字徳前居宅ニ於テ右兩名ヨリ右謝禮ノ趣旨ヲ諒シ秩父大島耕一正(價額金二十圓相當)ノ贈與ヲ受ケ次テ其ノ頃前同所ニ於テ同人等ヨリ前同趣旨ノ下ニ白生地反物一反(價額金十五圓相當)ノ贈與ヲ受ケ
- 二、昭和六年三月頃右準ト其ノ妻千歳トノ婚姻ニ關シ同人等カ婚姻前ヨリ私通關係アリテ婚姻當時既ニ妊娠シ居リタルモノナリトノ世評アルヲ理由トシ其ノ頃準ニ對シ右風評ノ如ク不純ノ事實アリトセハ速ニ辭職ヲ爲スヘキ旨警告シタル際同人及義喜兩名ヨリ屢次其ノ諒解ヲ求メ只管留職方懇請ヲ受ケテ其ノ趣旨ヲ諒シ其ノ頃前記居宅ニ於テ右準ノ手ヲ經テ金本吳服店發行金額二十圓ノ商品券一枚ノ贈與ヲ受ケ

枚ノ贈與ヲ受ケ

- 三、昭和七年三月頃右準カ訓育上生徒ヲ毆打シタル事跡アリタルヲ機會トシ同人ノ右非行ヲ理由トシ其ノ退職ヲ迫リタル際同人及義喜兩名ヨリ前同様懇請ヲ受ケテ其ノ趣旨ヲ諒シ其ノ頃前同所ニ於テ同人等ヨリ前顯金本吳服店發行金額二十圓ノ商品券一枚ノ贈與ヲ受ケ
- 四、同年九月頃右準ノ非行ニ付其ノ受持生徒ヨリ投書アリタルヲ理由トシ直接之ヲ義喜ニ通シ準ノ退職ヲ促シタル際前同様ノ懇請ヲ受ケテ其ノ趣旨ヲ諒シ其ノ頃前同所ニ於テ同人及準ヨリノ賄賂ナルコトヲ熟知シナカラ右義喜ノ手ヲ經テ前顯金本吳服店發行金額三十圓ノ商品券一枚ノ贈與ヲ受ケ
- 五、同年二、三月頃右義喜及其ノ縁戚ナル大庭開造兩名ヨリ開造ノ息泰久ヲ同中學校教諭トシテ採用方懇請ヲ受ケ其ノ頃前同所ニ於テ同人等ヨリ右謝禮ノ趣旨ノ下ニ前顯金本吳服店發行金額三十圓ノ商品券一枚ノ贈與ヲ受ケ
- 六、同年九月頃仲谷キクエヨリ其ノ息仲谷正己ヲ同中學校教諭トシテ採用方懇請ヲ受ケ右正己カ同月三十日附ヲ以テ任用セラレタルコトノ謝禮トシテ同年十月中前同所ニ於テ右キクエヨリ現金百圓ノ贈與ヲ受ケ
- 七、昭和八年一、二月頃同校五學年用教科書ノ販賣指定書籍店主田淵稻次郎ニ於テ翌年度分ニ付テハ

連續犯ノ一部ニ關スル證據理由不備ト上告理由

他ノ學年用教科書ノ販賣指定ヲモ爲サレ度キ旨申出テタルニ對シ從來四學年用以下全部ノ教科書ノ販賣指定書籍店ナル合資會社元野木書店ノ代表社員元野木愼太郎ニ於テ從前通りノ販賣指定アリタキ旨懇請シ來リタルヲ以テ右愼太郎ノ意ヲ諒シタル上同年二月下旬頃前同所ニ於テ同人ヨリ右謝禮名義ノ下ニ福岡市所在玉屋百貨店發行金額五十圓ノ商品券一枚ノ贈與ヲ受ケ

以テ自己ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタルモノニシテ右ハ犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人有吉半祐ノ判示ノ各收賄ノ所爲ハ刑法第九十七條第一項前段第五十五條ニ該當スルヲ以テ同被告人ニ對シテハ其ノ所定期範圍内ニ於テ主文掲記ノ如ク量定處斷スヘク同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數ノ一部分ヲ右本刑ニ滿ツル迄之ヲ算入シ尙ホ判示ノ一乃至七ニ於テ各收受シタル賄賂ハ何レモ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ同法第九十七條第二項ニ則リ其ノ價額合計金二百八十五圓ヲ被告人ヨリ追徴シ訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ從ヒ被告人ヲシテ主文掲記ノ如ク負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

○理 由

辯護人大八木喬輔松久利市上告趣意書第二點ハ原判決ハ證據ニ基カスシテ裁判ヲ爲シ且理由不備ノ

違法アリ且重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アル不當ノ裁判ナリ原判決判示第一ノ六ノ事實即チ同年九月頃仲谷キクエヨリ其ノ息仲谷正己ヲ同中學校教諭トシテ採用方懇請ヲ受ケ右正己カ同月三十日附ヲ以テ任用セラレタルコトノ謝禮トシテ同年十月中前同所ニ於テ右キクエヨリ現金百圓ノ贈與ヲ受ケト判示シ其ノ理由トシテ被告人半祐ニ對スル豫審第六回訊問調書(記錄第三冊一〇九七丁以下) 證人有吉トヨニ對スル豫審訊問調書(記錄第三冊一三〇二丁以下) 同證人仲谷キクエニ對スル豫審訊問調書(記錄第三冊一一九三丁以下) ヲ摘示シタリ然レトモ被告人有吉半祐カ賄賂ニ非スシテ只好意ノ表現トシテ布團代トシテ現金三十圓也ノ贈與ヲ受ケタル旨ノ供述アレトモ有吉トヨノ供述ニ依レハ昭和七年十一月初頃金本吳服店ヨリ布團表ヤ座布團ヤ綿等ヲ買ヒ座布團ヲ作り始メタ其ノ座布團ヲ作ツテ居ルトキ主人ニ仲谷サンノ御母サンカラ御布團ノ布ヤラ綿ヲ買ヒマシタト告ケマシタトアリ其ノ贈與ヲ受ケタ事ヲ全ク主人ニ知ラセサリシモノナリ而シテ其ノ當時モ其ノ後ニ於テモ單ニ社交儀禮トシテ布團地綿等ヲ買ヒ受ケタルモノナリト信シ居リタルモノナリ前示判示供述ニ依レハ此ノ趣旨ニ反スルカ如キ供述アレトモ右ハ判然セサル事實ナレトモ陷レントスル他ノ供述ヲ指摘セラレテ如斯供述ヲ爲スニ至リタルモノナリ若シ上告人有吉半祐ニシテ仲谷正己ノ就職ニ付賄賂ヲ收受セントスルナラハ仲谷正己ノ母仲谷キクエカ昭和七年九月始メテ上告人有吉半祐方ヲ訪問シタル際持參シタル玉屋デパートノ三十圓ノ商品券竝ニ金百圓ノ現金ヲ收受スヘキ筈ナリ然ルニ同人ハ妻

連續犯ノ一部ニ關スル證據理由不備ト上告理由

有吉トヨリ之ハ自分ノ心計リナリトテ置イテ行カレタ桐箱様ノモノヲ示サレテ其ノ商品券タルコトヲ知ルヤ非常ニ立腹シ(當時ハ其ノ中ニ現金一百圓ノ存在スルヲ知ラス)之ヲ其ノ翌日新聞紙ニ包ミテ學校ニ持參シ教諭川波ヲシテ返還セシムルカ如キコト等ヲ爲スヘキ筈ナク反ツテ右上告人有吉半祐ニ賄賂ヲ收受シ其ノ趣旨ニヨリ採用スル様ナラハ更ニ其ノ賄賂ヲ要求シタルモノナルヘク當時同飯塚地方ニ於テ三十圓五十圓ノ商品券ハ中元歳暮ハ勿論一寸シタ祝儀無祝儀ニモ交換贈與セラレツツアリタル風習アルニ鑑ミ右僅カノ金額ヲ以テ其ノ犯罪ヲ敢テスルカ如キコトナキノミナラス事苟クモ疑問ヲ生スヘキ贈物ニ付テハ之ヲ返却セシメ居リタル事實本件記録ニ付イテ之ヲ立證スレハ波多野ノ義喜準等カ始メ贈與シタリト稱スル判示一ノ事實ニ關聯スル供述其ノ他百四、五十圓ノ贈與ヲ始メ判示一ノ二乃至四ニ至ル贈與總額約四百三十圓カ其ノ供述ニヨレハ公判ノ際ニ至リテハ判示第一ノ二、三、四ノ事實ハ全ク其ノ影ヲ没シ僅ニ第一ノ一ノ大島一疋價格二十圓カ殘サレ而モ右大島モ大神龜雄ノ子息大神正道カ金本呉服店ニ準ニ依賴セラレテ買ツタモノナリト云フ供述カ眞實ハ昭和六年一月準ノ伯父角平ヨリ準ノ學校卒業祝ノ爲ニ其ノ家ニアリタル質流レ品ヲ贈與シ其ノ贈與ノ原因ニ付テモ全ク上告人有吉半祐ノ職務權限外ナル準ノ養子問題ニ盡力シタル謝禮ニ贈與シタルカ如キ結果ニ終リテ更ニ昭和八年五月十日波多野準カ伊藤勇カ話ヲナシタリト稱スル金二百圓ヲ贈與シテ採用セラレ百圓ヲ贈與シテ誠首ヲ免レタリト供述シタルモノカ眞相ハ十四、五圓ノ品ヲ贈與セントシタリシカ返却セラレタ事實右ノ如キ供述ヲ爲スニ至リタルハ伊藤勇ハ波多野カ同人ニ敵意ヲ有スル爲ニ此ノ如キ虛無ノ事實ヲ供述シタル結果判明シ(記録五一九丁一三私カ有吉校長ニ金ヲ贈ツタト云フコトハ全ク波多野準カ私ニ對スル敵意カラデマヲ飛ハシテ居ルモノト思ヒマス其ノ他供述)小林善夫ノ問題ニ百餘圓ノ帶ヲ贈ツテ就職シタリトカ森岡教諭ハ百四、五十圓ノ賄賂ヲ贈與シテ誠首ヲ免レタトカ供述シタルトモ共ニ虛偽ニシテ之ニ反シテ贈物ヲ爲サントシタリシカ其ノ不心得ヲ論サレテ返還セラレタル上告人有吉トシテ反ツテ賞賛スヘキ事實テアル等(記録五二五丁同三〇六丁同四二九丁等)ヨリ見テ上告人有吉ノ利益ニ解スヘキモノナリ而モ右仲谷ヨリノ贈物ハ全部上告人有吉半祐ハ入手シ居ラス有吉トヨカ之ヲ受領シ主人ニ對シテ秘密ニ爲シ居リタルモノナリ右ノ事實ハ右ニ關スル證人仲谷キクエノ全供述證人有吉トヨノ全供述ニ依リテ誠ニ明白ナリ(證人仲谷キクエノ供述(記録第三九九丁同八〇二丁)其ノ他全供述有吉トヨノ此ノ點ニ關スル全供述ニヨリ明白ナリ元來右ノ如ク例令主人ノ職務權限ニ關シ其ノ妻カ金品ノ贈與ヲ受ケタリトテ右ヲ以テ其ノ夫ノ收賄ナリト稱スルコトヲ得サルハ誠ニ瞭然タルモノナリ蓋シ妻ハ民法ノ規定ニヨリ日用ノ事項ニ付イテハ夫ノ代理權ヲ有スルモノナルコトノ規定ヲ有スレトモ本件ノ如キ賄賂タルヘキ金錢ノ收受迄其ノ代理權ヲ擴張スヘキモノニ非ス若シ右妻カ收受シタル金品ヲ以テ夫ノ職務權限ニ關シ收受シタルモノト爲スニハ特ニ之ヲ收受スルコトニ明示又ハ默示ノ意思表示ヲ必要トス本件ノ如ク有吉トヨカ其ノ夫タル上告人ノ意思ニ反シテ金品ヲ收受シ

連續犯ノ一部ニ關スル證據理由不備ト上告理由

且本件發生シ上告人カ保釋ニヨリ出獄シテ之ヲ確ムル迄其ノ事實ヲ妻ヨリ聞クコトヲ得サリシ事項ニ付其ノ收受ヲ以テ夫ノ職務權限ニ關シ財物ヲ收受シタリトシテ斷罪ノ資料ニ供シ且其ノ金額ヲ沒收スル旨ノ判決ハ誠ニ不當ノ裁判ナリト云ハサルヘカラス故ニ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノナリト云フニ在リ

依テ原判決ヲ查閱スルニ原判決カ判示第一ノ六ノ事實認定ニ引用シタル證據ニ依リテハ仲谷キクエカ被告人半祐ノ家ニ至リ判示ノ謝禮トシテ現金百圓ヲ提供シタル事實竝ニ被告人半祐ノ妻トヨニ於テ之ヲ受納シタル事實ヲ認メ得レトモ被告人半祐ニ於テ判示ノ謝禮カ現金百圓ナルコトヲ了知シ其ノ受納ヲ諾シタリトノ事實ヲ認ムルヲ得ス從テ此ノ點ニ於テ原判決ハ證據ニ基カスシテ事實ヲ認定シタル違法アルニ歸ス而シテ此ノ違法ハ連續犯ノ一部ニ付存スルモノナリト雖被告人半祐ニ於テ判示ノ謝禮カ現金百圓ナルコトヲ了知シ其ノ受納ヲ諾シタリヤ否ハ附加刑タル沒收ニ代ル追徴ニモ影響ヲ及ホスコト勿論ナルカ故ニ判決ニ影響ヲ及ホスモノト謂フヘク論旨ハ理由アルモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

仍テ刑事訴訟法第四百四十條ニ則リ主文ノ如ク決定ス
檢事佐々波與佐次郎關與

【要旨】

○賭博被告事件(昭和九年(九)第八九六號
同年九月二十八日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 藤本善藏 辯護人 (足立進三郎
後藤徳太郎)

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

賭博ニ於ケル一時娛樂供用物ノ認定

○判決要旨

賭博ニ於テ賭シタル金錢ノ數額如何ハ賭博罪ノ成否ニ影響ナク一時ノ娛樂ニ供シタル物ト認ムヘキヤ否ヤハ各場合ノ事情ニ依リ裁判所ノ認定スヘキ問題ナリトス

【參照】 刑法第八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

賭博ニ於ケル一時娛樂供用物ノ認定

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ十日間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ外數名ト共ニ昭和八年十二月二日大阪市港區夕風町一丁目四十番地澤春藏方自動車車庫ニ於テ金錢ヲ賭シ側面ニ八面ヲ有シ居リテ其ノ中一面ニ特ニ星印ヲ記セル獨樂ヲ使用シ各人順次ニ右獨樂ヲ廻シ偶右星印ノ存スル面ヲ上向ニシテ獨樂ノ倒レタルトキハ其ノ者カ勝者トナリテ賭金ヲ取得スル方法ニ依ル俗ニ「プリン・ストツプ」ト稱スル賭博ヲ爲シタルモノナリ
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第八十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シ十日間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人足立進三郎 後藤德太郎上告趣意書第一點原判決ハ被告人カ昭和八年十二月二日大阪市港區夕風町一丁目澤春藏方自動車車庫ニ於テ「プリン・ストツプ」ト稱スル賭博ヲ爲シタル事實ヲ認定シ刑

法第八十五條ヲ適用シタリ而シテ其ノ證據トスル所ハ被告人ノ原審公判ニ於ケル供述及第一審公判ニ於ケル證人岡崎政一ノ供述ナリトス被告人ノ主張スル事實ハ一件記録ニ於テ明ナル如ク十二月二日午後一時頃前記澤春藏方車庫(春藏ハ被告人ノ實弟ニシテ其ノ名ニ於テ共同シテ自動車運輸及自動車ノ賣買ヲ營業シ居リ從テ該車庫ハ被告人ノ營業事務所ニ當タルモノ)ニ行キタル際偶四、五ノ従業員カ「プリン・ストツプ」ヲ玩ヘルヲ見テ「コーヒ」賭ケテ一、二回勝負ニ加ハリシノミニテ直チニ營業用ノ爲神戸ニ赴キタルモノニシテ逮捕當時ハ勿論現場ニ在ラス其ノ他ノ賭博行爲ニ關係セスト云フニ在リ又證人岡崎政一ハ本件ノ共同被告人ニシテ略式命令ニ依リ罰金刑ニ處セラレタルモノナルカ第一審公判ニ於テ左ノ如キ證言ヲ爲セリ問昨年十二月二日ノ日ハ何時頃ヨリ「プリン・ストツプ」ヲシタカ答午前十時頃ヨリ致シマシタ問其ノ時被告人ノ藤本モ勝負ヲシタカ答遣リマシタ回数ハ判然トシマセヌカ一、二回勝負ヲシタト思ヒマス問午前中ハ何時頃マテシタカ答十一時過頃マテヤリ丁度中食時テアリマシタノテ中食ヲスル爲ニ家ニ歸リマシタ問午後モ勝負ヲシタカ答私ハ其ノ日午後三時頃ニ行キマシタカ其ノ時ハ藤本ハ居ラヌ様ニ思ヒマス尤モ夫レ迄ニ藤本カ勝負ヲシタカ何ウカ其ノ點ハ知リマセヌ問昨年十二月上旬頃證人等ニ對シ書面ニ依リ呼出狀ヲ出シタ際皆カ「ガレージ」ニ集リ藤本モ居テ同人カ神戸ヘ行ツテ「プリン・ストツプ」ニハ加ハツテ居ラヌト云フコトヲ皆テ申合ハセシタト云フコトヲ聞イタコトハナイカ答神戸ニ藤本カ行ツタト云フコトハ聞イタコトカアリマスカ仰セノ

賭博ニ於ケル一時娛樂供用物ノ認定

様ナコトハ知リマセヌ問藤本カ一、二回勝負ヲシタト云フカ途中カラ這入ツテ勝負ヲシタノカ答判然トシマセヌカ私達カ勝負ヲ改メテヤル際ニ藤本カ這入リマシタソシテ私ト一、二回勝負ヲシマシタカ他ノ人トシタカ何ウカハ存シマセヌ問コーヒヲ賭ケテ勝負ヲシタノカ答此ノ日ハ左様ナ話ハアリマセヌテシタカ他ノ日ニヤツタ際ハコーヒヲ賭ケテシタコトモアリマス此ノ證言ハ被告人カ一、二回勝負ヲ争ヒタリト云フ事實以外ハ全然虚構ニ出テタルモノニシテ殊ニ同日午前十一時迄被告人ト共ニ賭事ヲ爲シタリト云フ如キハ虚偽ノ甚タシキモノト云ハサルヲ得ス即チ本件共犯關係人ニ對スル司法警察官吏竝ニ檢事ノ取調書類ヲ閱ミスルモノ一人ノ午前中賭博ヲ行ヒタル事實ヲ認メタル者ナキノミナラス證人岡崎政一モ亦被疑者トシテ取調ヘラレタル際午前中賭博ヲ爲シタル事實ニ就キテハ申述スル所ナシ從テ本件證據關係上ハ勿論岡崎ノ陳述ヨリ觀ルモ同人ノ證言ハ信據スヘカラサルモノトシテ排斥セサル可カラサルニ不拘之ヲ採用シタルノミナラス被告人ハ原審公判ニ於テ十二月二日午後一時頃犯處タル倉庫ニ到リ二、三店員等カ「ブリン・ストツブ」ヲ弄セルヲ見テ「コーヒ」賭ノ約束ニテ一、二回勝負ヲ争ヒコーヒ代二十錢ヲ投與シナカラ直チニ去ツテ神戶ニ赴キシ旨ヲ供述シ被告人カ賭博ヲ爲スノ意思ナカリシ狀況ヲ證明スル爲急遽神戶ニ往キシ事實ニ關スル證據竝ニ同日午前中倉庫ニ在ラサリシ事實ニ關スル證據ノ取調方ヲ申請セシモ原裁判所ハ之ヲ許容セス從テ其ノ點ニ關スル審理ヲ盡スコトヲ爲サシテ漫然岡崎政一ノ證言ヲ援用シテ以テ賭博行爲ヲ認定シタルモノニシテ原判決ハ此

點ニ於テ重要ナル事實ノ誤認アリト疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由存スルモノト云ハサルヲ得スト云ヒ」辯護人足立進三郎追加上告趣意書第二點原判決ハ被告人ノ所爲ニ對シテ刑法第八十五條第一項前段ヲ適用シタリ然レ共同條但書ニ該當スルハ一件記録ヲ一見シテ明ナル處ニシテ此ノ點ニ關シテ原判決ニハ擬律錯誤ノ違法アルモノト信ス抑モ同條但書記載ノ一時ノ娛樂トハ一般抽象的觀念ニ非スシテ各案件ニ對シ何カ一時ノ娛樂ナルカヲ具體的ニ考察スヘキモノトス而シテ又一時ノ娛樂云々ハ本來主觀ノモノニシテ客觀ノモノニ非ス只其ノ主觀ヲ認定スル爲各場合ニ於ケル被告人ノ地位職業經濟狀態等各種ノ事情ヲ綜合的ニ觀察シ探テ以テ客觀的ニ論斷スルニ過キス恰モ意思表示ノ要素ニ錯誤アルカ否カノ如キハ本來主觀ノモノナレ共何カ要素ノ錯誤ナルカハ客觀的ニ合理的ニ判斷スヘキモノナルト毫モ異ルコトナシ本件被告人ハ自動車販賣及ヒ自動車ノ運輸ヲ營業トシ其ノ營業成績又順調ニシテ幾多ノ使用人ヲ有シ相當ノ生活ヲ營ミ居ルモノニシテ金十錢ノ如キ被告人ヨリ見レハ甚タ僅少ナルモノニシテ斯カル僅少ナル金錢ヲ以テ眞ニ賭博行爲ヲ爲ス意思即チ眞ニ金錢ノ得喪ヲ争フノ意思アルモノト論定スル事難シ被告人ノ如キ經濟的地位ニアルモノカ金十錢ヲ賭シタルカ如キハ俗ニ謂フ冗談ニ或ハ又面白半分ニ且ハ退屈凌キニ爲シタルモノト解スルヲ自然ノ解釋ナリトス即チ一時ノ娛樂ニ供シタルモノト論定セサル可カラサルナリ殊ニ本件ノ如キハ被告人ノ第一審以來主張スル如ク金錢夫レ自體ノ得喪ヲ争ヒタルモノニ非スシテ只敗者ヲシテ一時ノ娛樂ニ供ス可キコーヒノ對價ヲ負擔セシム

ル爲メ金十錢ヲ賭シタルモノナリ之ヲ以テ賭博罪ヲ構成スルモノトシテ刑罰ヲ科スルカ如キハ刑政ノ本義ニ照ラシ甚タ憂慮スヘキモノアリト信ス仍テ此點ニ關シ特ニ御賢察ヲ仰キ以テ原判決ヲ破毀セラレンコトヲ希望シテ已マサルナリト云ヒ」辯護人足立進三郎 後藤徳太郎上告趣意書第二點本件事案ニ付被告ノ提供セル金員ハ一回十錢ニシテ而モ其ノ度數モ僅カニ二回前後ニ過キサリシコトハ被告本人ノ警察、檢事局ニ於ケル聽取書、公判ニ於ケル供述其ノ他ノ各證據ニ照シ疑無キ所ナリ而シテ被告カ其ノ供述セル如クホンノ待合セノ時間潰シテ斯ル遊戲ヲ爲シタルニ過キササル事情ニ付テハ警察ニ於ケル聽取書(九八丁)ニ「只戯談半分ニヤツタコトデアリマスカラ將來ハ決シテ致シマセン」トアリ檢事局ニ於テモ同様ノ趣旨ヲ供述シ其ノ後公判ニ於テモ「澤方附近ニ喫茶店モアリマスノテ其ノ様ナ所テ御茶テモ飲ム目的テアツタト思ヒマス」……「私ハ戯談半分ニコーヒー代位ヲ賭ケテヤル位ハ別ニ惡イ事トハ思ヒマセステシタカラ止メ様トハ思ヒマセステシタ」ト供述シ居リ原審證人岡崎政一モ亦「他ノ日ニヤツタ際ハコーヒーヲ賭ケテシタコトモアリマス」トアリテ是等ノ事情ヲ綜合スレハ少クモ被告ハ財物ノ得喪ヲ目的トスルコト無ク一時ノ娛樂ニ供スル目的ヲ以テ寡少ノ金錢ヲ提供シ居タルニ過キササルコト明瞭ナリ御院判例ノ一ニ於テハ「金錢ハ專ラ經濟上取引ノ目的トシテ使用セラレルモノニシテ其ノ性質上一時ノ娛樂ニ供セラルル物ト謂フヘカラスアルヲ以テ苟クモ金錢ヲ賭シ博奕ヲ爲シタル以上其ノ金額ノ多少ニ拘ラス之ヲ以テ一時ノ娛樂ニ供シタルモノト認ムルヲ得サルコト既

ニ本院判例ノ存スル所ナリ(大正十二年(レ)第一八八六號大正十三年二月九日第四刑事部判決)ト判示スルモノアレトモ苟クモ財物タル以上金錢以外ノ物ト雖モ之ヲ客觀的ニ觀察スレハ孰レモ經濟上取引ノ目的タルモノト謂フヲ得ヘク又之ト同時ニ金錢ト雖主觀的ニ之ヲ觀察スレハ單ニ娛樂ニ供スルコトアリ又或ハ恩惠的行爲ノ目的タルニ止マルコトアリテ所謂經濟上ノ取引換言スレハ財物交換ノ媒介ニ專用セラルルモノナリト云フヘカラス故ニ絕對ニ當事者ノ意思又ハ其ノ他ノ事情ヲ排シ金錢カ其ノ性質上娛樂ノ目的ニ供セラルルモノタルコトヲ否定スルハ適正ノ解釋ナリトナスヘキニアラス而シテ當事者ノ意思推定ノ基本タルヘキモノハ或ハ其ノ身分ニ依ルコトアルヘク或ハ其ノ資力ニ依ルコトアルヘク又或ハ當時ノ諸般ノ事情ニ徴スヘキモノニシテ學者カ之ヲ一括シテ本人ノ地位資力事情等ニ依リ娛樂ノ意思ニ出テタリヤ否ヤヲ判定スヘシト爲スハ妥當ノ見解ナリト謂フヲ得ヘシ(大場茂馬著刑法各論下卷)(泉二新熊著日本刑法論各論第三十五版獨逸刑法ニハ我第百八十五條但書ニ相當スヘキ規定ナキモ僅少ナル物ヲ賭スルハ犯罪ニアラストスルヲ通説トシ其ノ僅少ナリヤ否ヤヲ決スルニハ當事者ノ地位資力ヲ標準トス可キヤ將タ社會一般ノ見解ヲ標準トスルヤニ付キ議論アリ……娛樂ニ供スル物ト認ムヘキヤ否ヤノ標準ニ付テモ本邦學者間ニ同様ノ議論アリト雖モ要スルニ各場合ノ事情ニ依リ裁判所之ヲ認定ス可キ事實問題ナリトス金錢ヲ賭スルコトアリトスルモ金錢其ノモノヲ取得スルヲ目的トスルニアラスシテ一時ノ娛樂ニ供スル物ノ對價ヲ醜集スル方法トシテ輸贏ヲ決スルカ如キハ賭

博罪ヲ構成スルコトナシ(大正二年判決録一二五三頁)瀧川幸辰著刑法各論一時ノ娛樂ニ供スル物トハ經濟的價值ノ僅少ナルモノヲ云フ小野清一郎著刑法講義各論一時ノ娛樂ニ供スル物トハ價格僅少ニシテ之ヲ賭スルコトカ大ナル社會的影響ナシト認メラルモノヲ謂フ島田武夫論文日本法政新誌二十二卷六號假令金錢ヲ賭シタ場合テモ其ノ額カ僅少テアリ又ハ一時的娛樂物ノ對價タルコトノ明瞭ナル場合ハ處罰ノ要件ヲ缺クモノテアツテ罰スル必要ハナイ而シテ尙本件記錄ニ依リ被告ノ資力如何ヲ徵スルニ第一三〇丁素行調書ニハ不動產約二萬圓月收約三百圓トアリ公判調書ニモ略ホ同旨ノ供述アリテ被告カ十錢二十錢ノ端錢ノ取得ヲ目的トシ本件事案ノ行爲ヲ爲シタルモノニアラサルコトハ之ヲ看取スルニ難カラサル所ナリ一部論者ノ所說ノ如ク金錢ヲ賭スル以上其ノ多少ニ拘ラス常ニ賭博罪ヲ構成ストナサハ此ノ種犯罪ノ成否ヲ判別スルニ便ナルヘク下級警察官吏等ハ事件ノ處理ニ於テ簡單ナルヘシト雖元來賭博罪ハ斯ル苛察ナル觀察認定ヲ必要トスヘキ犯罪ニアラス故ニ其ノ行爲ノ質及量ニシテ國民ノ常業ヲ廢セシメ或ハ家產ヲ蕩盡セシムルカ如キ嫌アラサル限り未タ法律所定ノ法益ヲ侵害スルモノトイフヲ得サルカ故ニ此種犯罪ノ構成アリトナスヲ得ヘキモノニアラス曾テ御院ニ於テ烟草一厘事件ナルモノアリ本件ハ之ト其ノ性質ヲ異ニスト雖モ物理的ニハ經濟價值アリトスルモ常識上取引ノ目的トナシタリヤ否ヤヲ判定スル基礎トシテハ社會的乃至法律的價值判斷ヲ必要トスル點ニ於テハ同様ナリト謂フヲ得ヘシ尙本件被告ハ記錄ノ示ス如ク鳥取縣農學校ノ業ヲ卒ヘタルモノニシテ

孰レノ點ヨリ見ルモ被告ノ行爲ヲ以テ財物取得ノ目的ニ出テタルモノト解スルハ妥當ノ見ニアラス故ニ原判決ハ事實ノ認定ニ重大ナル誤謬アルカ或ハ又法律ノ適用ヲ誤ルモノナルヲ以テ原判決ヲ破毀セラレムコトヲ望ムト云フニ在リ

所論ノ大半ハ證據ノ取捨判斷ニ付原審ト見解ヲ異ニシ延テ事實ノ認定ヲ非難スルニ歸スルモ原判決ニ舉示セル各證據ヲ綜合スレハ優ニ判示賭博ノ事實ヲ認メ得ヘク本件ハ一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル場合ニ非サルコト洵ニ明ナリ從テ原判決ニ於テ刑法第八十五條ヲ適用シタルハ正當ナリ更ニ記錄ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルヲ認メス又證據調ノ限度ハ事實裁判所ノ自由裁量ニ屬スル事項ナレハ原審カ辯護人ノ爲シタル證據申請ヲ却下シタレハトテ所論ノ如ク依テ以テ審理不盡ト謂フヘカラス而シテ賭博ニ於テ賭シタル金錢ノ數額如何ハ賭博罪ノ成否ニ影響スル所ナキヲ以テ本件賭博ニ於テ被告人ノ賭シタル金員ハ一回二十錢ナリトスルモ所論ノ如ク娛樂ニ供シタルモノト謂フヘカラス尤モ一時ノ娛樂ニ供スル物ノ對價ヲ釀出スル方法トシテ一定ノ金額ヲ支出セシムルコトナキニ非スト雖モ娛樂ニ供スル物ト認ムヘキヤ否ヤノ標準ハ各場合ノ事情ニ依リ裁判所ノ認定スヘキ事實問題ナリトス原審ハ諸般ノ事情ヲ取調ヘタル上判示各證據ニ依リ本件被告人ノ賭シタル金錢ヲ娛樂ノ爲ニ供シタル物ニ非スト認メタル趣旨ニ外ナラス原判決ニハ所論ノ如キ違法ナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

【要旨】

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事松阪廣政關與

11110 (178)

○家宅侵入被告事件

(昭和九年(九)第九一六號 棄却)
同年九月二十八日第四刑事部判決

【上告人】 被告人

外池半五郎 辯護人

高木典四郎
今村正章
山下博章
山新野實五郎

【第一審】 東京地方裁判所

【第二審】 東京控訴院

○判示事項

法律解釋ノ錯誤ト家宅侵入罪

○判決要旨

人ノ看守スル邸宅ナルコトヲ認識シナカラ看守人ノ意思ニ反シ侵

入スルニ於テハ假令辯護士ノ意見ニ依リ其ノ行爲カ罪トナラサル
コトヲ信シタリトスルモ刑法第三百三十條ノ犯罪ヲ構成ス

【參照】 刑法第三十八條

罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル
場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕
スルコトヲ得

同法第三百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ

又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰
金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人半五郎ヲ罰金四十圓ニ被告人八十八ヲ罰金
二十圓ニ處ス但シ被告人半五郎ニ對スル第一審ニ於ケル未決勾留日數中二十日被告人八十八ニ對スル
同上日數中十日ヲ孰レモ一日ヲ金二圓ニ折算シタル金額ヲ夫々同被告人等ニ對スル右各罰金刑ニ算入
スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人外池半五郎ハ豫テ從兄弟ナル外池宇平 外池五郎三郎及外池誠一ト共ニ柳屋商店ヲ經營シ其ノ

法律解釋ノ錯誤ト家宅侵入罪

11111 (179)

財産ヲ共有シ居リタルカ右從兄弟三名ノ爲其ノ共有財産ノ内數百萬圓ヲ横領セラレタリト思惟シ昭和六年六月二十九日頃東京地方裁判所檢事局ニ對シ其ノ旨ノ告訴ヲ提起シ同檢事局ニ於テ取調中昭和七年六月三十日頃雙方合意ノ上示談契約ヲ締結シ該契約ニ於テ被告人外池半五郎カ外池宇平ニ對シ從來同人ヨリ賃借シテ「ソーダ」アウンテン一ヲ經營シ居リタル外池宇平所有ノ東京市日本橋區通二丁目二番地ノ一所在木造二階建家屋一棟ヲ明渡スコトヲ約シ同年七月下旬右家屋ノ明渡ヲ完了シ爾來外池宇平ニ於テ右家屋ニ付空家ノ儘戸締ヲ爲シ其ノ雇人汲田長三ヲシテ該家屋ヲ看守セシメ居リタルモノナルトコロ

被告人外池半五郎ハ右示談契約ニ不滿ヲ懷キ豫テ懇意ナル建築請負業ノ原審相被告人三木金二郎ニ對シ右各事情ヲ告ケテ其ノ對策ヲ協議シタル結果被告人外池半五郎右三木金二郎ノ兩名ハ昭和七年九月十七、八日頃東京市小石川區原町七十九番地原審相被告人小山俊雄方ニ於テ同人及原審相被告人遠藤清四郎ノ兩辯護士ニ對シ右各事情ヲ告ケテ前記家屋ニ侵入シテ元通り營業ヲ爲スコトノ可否ヲ問ヒタルニ右兩辯護士ハ右兩名ニ對シ右示談契約ハ其ノ成立ニ付外池宇平側ノ者及其ノ委任辯護士ノ爲詐僞及強迫アリタルヲ以テ詐欺ノ點ニ付要素ノ錯誤アル爲無効ニシテ假ニ然ラストスルモ強迫ノ點ニ付右契約ヲ取消スコトヲ得ヘク從テ被告人外池半五郎ニ於テ外池宇平等ニ對シ内容證明郵便ヲ以テ右示談契約無効ノ通告及取消ノ意思表示ヲ爲ストキハ被告人外池半五郎等ニ於テ該家屋ノ

看守人ノ承認ヲ得ス其ノ意思ニ反シテ右家屋ニ侵入シ營業用什器等ヲ搬入シテ元通り營業ヲ爲スモ法律上支障ナキ旨ノ回答ヲ與ヘタルヲ以テ被告人外池半五郎及前記三木金二郎ハ外池宇平側ノ者ノ看守スル前記家屋ニ其ノ看守人ノ意思ニ反シテ侵入シ元通り營業ヲ爲スコトヲ決意シ又一方被告人外池半五郎ノ雇人タルコック長被告人高杉八十八モ被告人外池半五郎及右三木金二郎等ヨリ其ノ情ヲ告ケラレテ之ニ加擔シ茲ニ被告人外池半五郎 同高杉八十八 原審相被告人三木金二郎ノ三名ハ共謀ノ上昭和七年九月十九日夕刻被告人外池半五郎ヨリ右兩辯護士作成ニ係ル内容證明郵便ヲ以テ外池宇平等ニ對シ前記ノ如キ示談契約無効ノ通告及取消ノ意思表示ヲ爲スヤ東京市京橋區銀座八丁目支那料理店彩華附近ニ於テ被告人高杉八十八ノ指揮ノ下ニ貨物自動車約四臺ニ同人共ノ他被告人外池半五郎ノ雇人傭人夫等約二十餘名竝ニ「ソーダ」アウンテン一營業用什器等ヲ積載シ被告人外池半五郎及前記三木金二郎等モ「タクシ」三臺ニ分乘シテ執レモ東京市日本橋區通二丁目二番地ノ一ノ前記家屋ニ到リ右雇人傭人夫等ヲシテ該家屋表入口ノ戸締ヲ開キ同家屋内ニ前記什器等ヲ搬入セシムルト同時ニ被告人外池半五郎 同高杉八十八 原審相被告人三木金二郎ハ共ニ同家屋カ外池宇平側ノ者ノ看守スルモノナルコトヲ認識シナカラ其ノ看守人ノ意思ニ反シテ故ナク該家屋表入口ヨリ同日午後十一時同家屋内ニ侵入シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人外池半五郎 同高杉八十八ノ判示各家宅侵入ノ所爲ハ執レモ刑法第三百三十條第六

十條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中孰レモ罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ夫々被告人外池半五郎ヲ罰金四十圓ニ同高杉八十八ヲ罰金二十圓ニ處スヘク尙被告人等ニ對シテハ刑法第二十一條及第十八條第四項ヲ適用シテ同被告人等ニ對スル原審ニ於ケル各未決勾留日數中主文掲記ノ各日數ヲ孰レモ一日ヲ金二圓ニ折算シタル金額ヲ同被告人等ニ對スル右各罰金刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人高木與四郎 今村正美 山下博章 新野慶次郎 岡田實五郎上告趣意書第二點法律上權利ノ行使又ハ義務ノ履行ト認メラルル行爲ハ勿論社會觀念上當然許サレタル行爲(公秩良俗ニ反セサルモノト認メラルル行爲)ハ罪ト爲ルヘキ事實ニ非サルナリ故ニ罪ト爲ルヘキ事實ヲ權利ノ行使又ハ義務ノ履行行爲ナリト誤信シ若クハ許サレタル行爲ナリト誤信シタルトキハ其ノ行爲ハ主觀的ニハ罪ト爲ルヘキ事實ノ認識ヲ缺如セルハ勿論斯ル誤信カ社會觀念上相當ノ理由アルトキハ客觀的ニモ亦其ノ行爲ハ犯意ヲ阻却シ犯罪ヲ構成セサルモノト謂ハサルヘカラス犯罪事實ノ認識ノ錯誤ハ犯罪構成ノ外形的(物理的)事實ノ錯誤ノ場合ノミニ限ラス刑罰法規以外ノ法規(法令、慣行、條理ヲ包含ス)ノ錯誤ノ場合ニモ尙之ヲ認メサルヘカラス御院判例要旨辨濟ニ因リ差押ノ效力ヲ失ヒタリト誤信シ差押

物件ノ封印差押ノ標示ヲ損壞シタルトキハ其ノ罪ノ犯意ヲ阻却スルモノトス(大正十四年(れ)第一八三一號同十五年二月二十二日第二刑事部決定)區有林ヲ伐採シ得ヘキ權利ヲ有セサルトキト雖行爲當時ニ於ケル諸般ノ事情ニ照シ之ヲ伐採スルコトハ區ノ認許スル慣例ニシテ差支ナキモノト誤信シ之ニ付相當ノ理由アリト認メラルル場合ニ在リテハ竊盜ノ犯意アリト爲ヌヲ得ス(昭和六年(れ)第一五〇九號同年八月四日第一刑事部判決)本被告事件ニ付原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ「被告人半五郎ハ豫テ從兄弟ナル外池宇平 外池五郎三郎及外池誠一ト共ニ柳屋商店ヲ經營シ其ノ財産ヲ共有シ居リタルカ右從兄弟三名ノ爲其ノ共有財産ノ内數百萬圓ヲ横領セラレタリト思惟シ昭和六年六月二十九日頃東京地方裁判所檢事局ニ對シ其ノ旨ノ告訴ヲ提起シ同檢事局ニ於テ取調中昭和七年六月三十日頃雙方合意ノ上示談契約ヲ締結シ該契約ニ於テ被告人半五郎ハ宇平ニ對シ從來同人ヨリ賃借シテ「ソード」アウンテン」ヲ經營シ居リタル本件家屋ヲ明渡スコトヲ約シ同年七月下旬同家屋ノ明渡ヲ完了シ爾來宇平ニ於テ右家屋ニ付空家ノ儘ニテ戸締リヲ爲シ其ノ雇人ヲシテ看守セシメ居ルトコロ被告人半五郎ハ右示談契約ニ不滿ヲ懷キ豫テ第一審相被告人三木金二郎ニ對シ右各事情ヲ告ケ對策ヲ協議シタル結果被告人半五郎右金二郎ノ兩名ハ昭和七年九月十七、八日頃第一審相被告人小山俊雄方ニ於テ同人及相被告人遠藤清四郎ノ兩辯護士ニ對シ右各事情ヲ告ケ前記家屋ニ侵入シテ元通り營業ヲ爲スコトノ可否ヲ問ヒタルニ右兩辯護士ハ右兩名ニ對シ右示談契約ハ其ノ成立ニ付外池宇平側ノ者及其ノ委任辯護

士ノ詐欺強迫アリタルヲ以テ詐欺ノ點ニ付要素ノ錯誤アル爲無効ニシテ假ニ然ラストスルモ強迫ノ點ニ付右契約ヲ取消スコトヲ得ヘク從テ被告人半五郎ニ於テ宇平等ニ對シ内容證明郵便ヲ以テ右示談契約無効ノ通知及取消ノ意思表示ヲ爲ストキハ被告人半五郎等ニ於テ該家屋ニ看守人ノ承認ヲ得ス其ノ意思ニ反シテ侵入シ營業用什器等ヲ搬入シテ元通り營業ヲ爲スモ法律上差支ナキ旨ノ回答ヲ與ヘタルヲ以テ被告人半五郎及前記金二郎ハ宇平側ノ者ノ看守スル前記家屋ニ其ノ看守人ノ意思ニ反シテ侵入シ元通り營業ヲ爲スコトヲ決意シ又一方半五郎ノ雇人タル被告人八十八モ被告人半五郎及金二郎ヨリ其ノ情ヲ告ケラレテ之ニ加擔シタルモノナル旨判示セラレタリ」同判決ニヨレハ被告人半五郎及八十八等ハ第一審相被告人小山俊雄 遠藤清四郎ノ兩辯護士カ右鑑定ヲ與ヘタルヲ以テ判示決意ヲナシタルモノナルコト及其ノ決意ノ内容ハ同鑑定ト一致スルモノナルコトハ其ノ記載自體ニ於テ寔ニ明白ナリ從テ同鑑定ハ其ノ決意ノ動機タリシコトハ疑ヒナク而シテ被告人等ハ同鑑定ヲ信シタルノ結果右決意ヲナシタルモノナルコトハ右判示判文ニ依ツテ推知シ得ヘク且右判決ノ全趣旨(殊ニ科刑ノ點)ニ鑑ミルトキハ同鑑定ヲ確信シ決意シタルモノト認メサルヲ得サルノミナラス原審公判調書中被告人半五郎ノ供述トシテ事實ハ大體原判決摘示事實ノ通り相違アリマセンカ私ハ辯護士ノ鑑定ニヨリ示談契約ヲ取消セハ其ノ家ニ入ツテモ差支ナイトノコトテシタカラ左様ニ信シテ這入りタル旨ノ記載(一六五〇枚目)最初私ハ示談ヲスルナラハ二三百萬圓貫ヲ積リナリシカ現金ト不動産トヲ合セテ三十五萬圓トノ話カアリマシタノテ私ハ不承諾ヲ唱ヘタ處私ノ辯護士ノ申スニハ實ハ議定書ニ付テハ先代平五郎カ權利ヲ拋棄シタモノテアツテ平五郎自筆ノ權利拋棄書ヲ相手方ノ有馬辯護士ノ事務所テ見セテ貰ヒ拋棄シタ事實ハ間違ナイ從テ今日柳屋ノ財産ニ付テハ何等ノ權利モナイノタカラ一萬圓テモ二萬圓テモ「オ情」ヲ貰フテ示談スルヨリ仕方カナイト言ハレ之ヲ信シ又一面私カ此事件ニ付テ檢事ニ贈賄スル爲數萬圓ノ金策方ヲ親類ニ依頼シタトノ手紙カ宇平側ノ手ニ入ツテ夫カ寫眞版ト爲ツテ居ルモノカアルカラ刑事問題ニナルト面倒タカラ早ク示談セヨト云ハレ私ハ左様ナコトハ全然虛偽テ一點疚シイコトハナカツタカ辯護士達カラ色々説得サレテ示談ヲ承諾シタル次第ナル旨ノ記載(一六六〇枚以下)宇平ニ明渡シタル家屋ハ震災後私カ建築資金ノ大部分ヲ出シテ建テタモノテ何時ノ間ニカ宇平名義ニシテシマヒ私カ賃借シテ居タ形ニナリタル旨ノ記載(一六六四枚目)示談契約ニ不満ヲ抱クニ至ツタ事情ハ私ノ父ノ權利拋棄書カアルト言ヒナカラソレヲ見セテ吳レス三十五萬圓ノ明細書ヲ渡シテ吳レス其ノ他私カ出シタト云フ金策ノ手紙ノ問題ヤ只今申上ケタ江戸橋ノ地所ノ五萬圓ノ金額カ出來ナカツタ等ノコトカラシテベテニ掛ツタ様ナ氣カシテ示談契約ニ不満ヲ抱ク様ニナリタル旨ノ記載(一六六枚)同調書中被告人八十八ノ供述トシテ私ハ主人半五郎ノ命ニヨリ其ノ家ニ入ツテモ差支ナイト云ハレテ入ツタノテスカラソレカ罪ニナルトハ思ヒマセストノ記載第一審ノ公判調書中相被告人小山俊雄ノ供述トシテ私ハ右ノ見解ヲ遠藤ニ話シマシタ所同人モ同意見テアリマシタ云々……夫レテ

遠藤ト私ハ交々口ヲ開キ半五郎ト三木ニ對シ六法全書ノ第三百三十條ヲ示シテ半五郎カ元ノ店ニ復歸シテ營業ヲ爲スハ權利ノ行使ニシテ故アルヲ以テ住居侵入罪ニナラヌト説明シテ鑑定シテ次第アリマストノ記載同調書中相被告人遠藤清四郎ノ供述トシテ其ノ鑑定ノ結果ニ付テモ先程小山被告カ述ヘタル通りナル旨ノ記載ヲ參照スルトキハ被告人半五郎及八十八等ハ右辯護士ノ鑑定ヲ確信シ其ノ結果外池宇平ニ對シ前記示談契約ノ詐欺ノ點ニ付契約無効通知恐迫ノ點ニ付取消ノ意思表示ヲ爲ストキハ看守人ノ意思ニ反シテ本件家屋ニ侵入スルモ差支ナシト信シ判決意ヲナスニ到リタルモノナルコトヲ確認スルヲ得ヘク且鑑定ヲ信スルニ到リタルコトノ當然ナルコトヲ肯認スルニ餘リアリト信ス從テ被告等カ右ノ如ク看守人ノ意思ニ反シテ本件家屋ニ侵入スルモ差支ナシト信シタルコトニ付テ相當ノ理由アルモノト謂ハサルヘカラス蓋シ現今社會生活狀態ニ於テ一般人カ或ル行爲ヲ爲シ亦ハ爲ササルコトノ法律上ノ適否ニ疑義ヲ生シタル場合ニ於テハ恰モ疾病ニ際シ専門家タル醫師ノ診察ヲ受クルカ如ク法律ノ専門家タル辯護士ノ鑑定ニ俟ツテ之ヲ決スルハ誠ニ適切最善ノ方法ニシテ批難スヘキモノニ非サレハナリ然ラハ刑法第三百三十條ノ規定ニ於ケル住居又ハ看守カ詐欺脅迫ニ基ク不適法ノ場合ニテモ尙本罪ノ成立ヲ妨ケスト爲スモ本件行爲ハ被上ノ理由ニヨリ犯意ヲ阻却シ犯罪ヲ構成セサルモノナルコト定ニ明白ナリト謂ハサルヘカラス然ルニ原判決ハ被告人等ノ行爲ニ對シ住居侵入罪ノ成立ヲ認メラレタルハ不法ニ犯罪事實ヲ認定セラレタルノ違法アリト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

罪トナルヘキ事實ノ前提トナルヘキ事實ニ屬スル法律關係ノ錯誤ハ諸般ノ事情ニ照シ其ノ錯誤ヲ來スヘキ相當ノ理由アリト認メラルル場合ニ於テハ畢竟罪ト爲ルヘキ事實ノ錯誤ヲ來スコトナキニ非スト雖刑罰法規ノ解釋ヲ誤リ犯罪行爲ヲ法律ノ認容シタル行爲ナリト信シタリトスルモ刑法第三十八條第三項ニ所謂法律ヲ知ラサルモノニ該當スルモノトス故ニ人ノ看守スル邸宅ナルコトヲ認識シナカラ看守人ノ意思ニ反シ之ニ侵入スルニ於テハ假令辯護士ノ意見ニ依リ侵入スルモ罪トナラヌト告ケラレ之ヲ信シタリトスルモ畢竟刑法第三百三十條ノ解釋ヲ誤リタルモノニシテ家宅侵入罪ヲ構成スルモノトス原判決ノ確定シタル事實ハ之ヲ要スルニ被告人半五郎ハ從來外池宇平ヨリ賃借セシ家屋一棟ヲ示談契約ニ依リ宇平ニ明渡スコトヲ約シ昭和七年七月下旬之カ明渡ヲ完了シ爾來宇平ニ於テ空家ノ儘戸締ヲ爲シ其ノ雇人汲田長三ヲシテ看守セシメ居リタルトコト被告人半五郎ハ右示談契約ニ不滿ヲ懷キ原審相被告人三木金二郎ト共ニ辯護士ニ對シ右事情ヲ告ケ前記家屋ニ侵入シテ元通り營業ヲ爲スコトノ可否ヲ問ヒタルニ辯護士ハ被告人等ニ對シ右示談契約ハ其ノ成立ニ付宇平側ノ者及其ノ委任辯護士ノ爲詐欺及強迫アリタルヲ以テ詐欺ノ點ニ付要素ノ錯誤アル爲無効ナリ假ニ然ラストスルモ強迫ノ點ニ付右契約ヲ取消スコトヲ得ヘク内容證明郵便ヲ以テ右示談契約無効ノ通告及取消ノ意思表示ヲ爲ストキハ被告人半五郎等ニ於テ該家屋ノ看守人ノ承認ヲ得ス其ノ意思ニ反シテ右家屋ニ侵入シ營業用什器等ヲ搬入シテ元通り營業ヲ爲スモ法律上差支ナキ旨ノ回答ヲ得タルヲ以テ被告人半五郎金二郎ハ宇平

側ノ者ノ看守スル前記家屋ニ其ノ看守人ノ意思ニ反シテ侵入シ元通り營業ヲ爲スコトヲ決意シ又一方被告人八十八ニ其ノ情ヲ告ケ三名共謀ノ上同年九月十九日夕刻内容證明郵便ヲ以テ宇平等ニ對シ右示談契約無効ノ通告及取消ノ意思表示ヲ爲スヤ被告人八十八指揮ノ下ニ貨物自動車四臺ニ雇人傭人夫等二十餘名竝營業用什器等ヲ積載シ被告人半五郎等ハタクシ一三臺ニ分乘シテ孰レモ右家屋ニ到リ右雇人傭人夫等ヲシテ右家屋表入口ノ戸締ヲ開キ屋内ニ右什器等ヲ搬入セシムルト同時ニ被告人半五郎八十八等ハ共ニ同家屋ハ宇平等ノ者ノ看守スルモノナルコトヲ認識シナカラ其ノ看守人ノ意思ニ反シテ故ナク同日午後十一時該家屋ニ侵入シタルモノナリト云フニ在リテ該事實ハ原判決引用ノ各證據ヲ綜合スレハ優ニ之ヲ認メ得ヘク被告人等ニ於テ右家屋看守人ノ承諾ヲ得ス其ノ意思ニ反シテ侵入スルモ法律上差支ナキ旨辯護士ノ意見ニ遵ヒ敘上ノ如ク侵入シタルハ即チ辯護士及被告人等ニ於テ畢竟刑法第三百十條ノ解釋ヲ誤リタルモノト謂ハサルヲ得ス尤モ原判示ニ依レハ右辯護士ニ於テ更ニ敘上示談契約カ詐欺又ハ強迫ニ依ル瑕疵アルモノナレハ右契約無効ノ通告及取消ノ意思表示ヲ爲スヘキ旨告ケタルヲ以テ被告人等ニ於テ之ヲ信シタルカ如キモ斯ル瑕疵アル示談契約ナランニハ須ラク國家機關ノ保護ヲ仰クヘク自主救済ヲ爲スヘキモノニ非サルコト法律秩序ノ觀念ニ照シ疑ナキヲ以テ犯意ヲ阻却スヘキ相當ナル理由ヲ缺如スルモノト謂フヘシ更ニ記録ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由アルヲ見ス故ニ原判決ハ所論ノ如ク罪トナラサル事實ヲ認定シ又ハ

不法ニ犯罪事實ヲ認メタル違法アルコトナシ論旨引用ノ本院判例ハ場合ヲ異ニシ本件ニ適切ナラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事松阪廣政關與

○暴行被告事件(昭和九年(九)第八四〇號 棄却)

(昭和九年九月二十九日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 渡邊津久治

【第一審】 熊本區裁判所 【第二審】 熊本地方裁判所

○判示事項

刑事訴訟法第二百六十七條ニ所謂判決アル迄ノ意義

○判決要旨

刑事訴訟法第二百六十七條ニ所謂判決アル迄ノ意義

刑事訴訟法第二百六十七條第一項ニ所謂第二審ノ判決アル迄トアルハ第二審判決ノ言渡アル迄トノ意義ナリトス

【参照】刑事訴訟法第二百六十七條 告訴ハ第二審ノ判決アル迄之ヲ取消スコトヲ得 告訴ノ取消ヲ爲シタル者ハ更ニ告訴ヲ爲スコトヲ得ス 前二項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求ニ之ヲ準用ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ三十日間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ 被告人ハ隣家ナル木下仙壽ト豫テヨリ其ノ所有宅地ノ境界争等ニ起因シ互ニ反目シ來リタルコロ昭和九年一月二十四日午後五時過頃熊本縣飽託郡御幸村ヨリ同縣同郡田迎村ニ通スル道路上(田迎村ニ向ケ御幸村村境ヨリ約六十間ヲ距テタル地點)ニ於テ木下仙壽ト些細ノコトヨリ口論ノ末手ニテ仙壽ノ頭部ヲ二、三回毆打シタル上同人ヲ路上ニ突倒シテ暴行ヲ加ヘタルモノナリ 法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百八條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ被告人ヲ三十日間勞役場ニ留置スヘキモノトス

尙記録ニ依レハ本件ニ付被害者タル告訴人木下仙壽カ第二審判決ノ言渡アリタル昭和九年五月三十一日迄ニ告訴ヲ取消シタル事跡ナク右判決言渡後被告人ヨリ同年六月三日附木下仙壽名義ノ告訴取下書ヲ上告趣意書ト共ニ當院ニ提出シタルモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人渡邊津久治上告趣意書第一點原審熊本地方裁判所刑事部ニ於テ右暴行被告事件ニ付右被告人ニ對シ罰金三十圓ノ言渡有之候處右被害者木下仙壽ハ曩ニ居村村長林田德貞 隣村村助役齋藤寅喜等ニ於テ仲裁成立シ本件告訴取下仕候(別紙證據トシテ原本添付)然ラハ刑法第二百八條暴行ヲ加ヘタル者云々ハ何々ニ處ス前項ノ罪ハ告訴ヲ待ツテ之ヲ論スト明定サレ居リ既ニ右告訴人ニ於テ同人ノ印鑑證明ノ實印ヲ押捺シ右暴行被告事件ノ告訴取下ヲ爲シ其ノ罪ヲ宥恕シ居レル現今親告罪ナル犯罪ナルヲ以テ告訴取下有レハ當然裁判所ニ於テ其ノ罪ヲ論セサル可キ筋合ナリトス果シテ然リトセハ本件ハ當然之ヲ處罰スヘカラサルヤ理ノ然ラシムル所ナルヲ以テ茲ニ其ノ點ニ付及上告候ト云フニ在レトモ告訴ノ取消ハ第二審判決アル迄之ヲ爲シ得ヘク其ノ後ニ至リテ告訴ノ取消ヲ爲スモ其ノ效ナキコトハ刑事訴訟法第二百六十七條ノ規定ニ照ラシ明白ナルトコロトス而シテ同條ニ於テ告訴取消ノ時期ニ付

一定ノ制限ヲ附シタル所以ノモノハ若シ斯カル制限ヲ設ケサルニ於テハ事件上告審ニ繫屬スルニ至リテ告訴ノ取消ヲ爲シ其ノ結果第一、二審ノ審判ヲ徒勞ニ歸セシムル場合アルノミナラス既ニ二審級ニ於ケル判決ノ言渡アリタルニ拘ラス其ノ以後ニ於テ告訴ノ取消ヲ爲サントスルカ如キハ誠實ニ權利ヲ行使スルモノト爲スヲ得サルモノニシテ裁判權ヲ蔑如スルノ嫌アリ斯カル弊害ヲ除去セムカ爲告告訴取消ノ時期ニ制限ヲ加ヘタルモノト云フヘク敍上立法ノ精神ニ鑑ミルトキハ同條ニ所謂第二審ノ判決アル迄トハ第二審判決ノ言渡アル迄トノ意義ナリト解スルヲ相當トス記録ヲ調査スルニ本件ニ付被害者タル告訴人木下仙壽カ第二審判決ノ言渡アリタル昭和九年五月三十一日迄ニ被告人ニ對スル告訴ヲ取消シタル形跡ナク唯右判決言渡後同年六月三日附ニテ本件告訴ヲ取下クル旨ノ木下仙壽名義ノ告訴取下書ナル書面ノ提出アリタルコトヲ認メ得ルモ前敍ノ理由ニ依リ右告訴取下ハ其ノ效ナキコト疑ヲ容レサルヲ以テ該取下ヲ前提トシ被告人ノ罪ヲ論スヘカラストスル論旨ハ毫モ其ノ理由ナシ

第二點既ニ右被害者ニ於テ前項ノ如ク本件ニ付告訴ノ取下及居村村長林田徳貞等ニ於テ仲裁成立シ本件犯罪宥恕有之候今日原審ニ於ケル罰金三十圓ノ言渡ハ假リニ犯罪アリトスルモ本件ニ付餘リニ刑ノ量定高キニ過キ科料ニテモ宜シキ犯罪ニテ其ノ點ニ付本件記録上刑ノ量定不當ナル場合ニ該當シ刑事訴訟法第四百十二條ニ基キ及上告候也ト云フニ在レトモ

被告人カ上告審ニ於テ所論ノ如ク告訴取下書ヲ提出シ本件上告ノ取下アリタルコトヲ主張シ之ニ立脚

シテ原判決ノ量定ヲ不當ナリト論スルカ如キハ訴訟記録及原裁判所ニ於テ取調ヘタル證據ニ現ハレサル事實ヲ援用シテ上告理由ト爲スモノニシテ刑事訴訟法第四百二十五條第三項ノ規定ニ違背スルノミナラス記録ヲ精査シ犯情其ノ他諸般ノ事情ヲ斟酌スルモ原判決ノ被告人ニ對スル刑ノ量定ヲ目シテ甚シク不當ナリト爲スヘキ顯著ナル事由アルヲ認メス論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事棚町丈四郎關與

○放火教唆詐欺被告事件 (昭和九年(九)第八四九號 棄却)

(昭和九年九月二十九日第三刑事部判決)

【公私訴上告人】 被告人 長畑建類 辯護人 清瀬金太郎
 (北村金太郎 神浦靜夫)

【第一審】 岡山地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

陪審法第七條但書ノ意義 教唆行爲ノ本質

陪審法第七條但書ノ意義——教唆行爲ノ本質

○判決要旨

一陪審法第七條但書ハ共同被告人中公訴事實ヲ認めサル者ニ於テ陪審ヲ辭セサル場合ニ限り適用アルモノトス【要旨第一】

二犯意ナキ者ニ對シ一定ノ犯罪ヲ決意實行セシムルノ意思ヲ以テ示唆シ其ノ實行ヲ爲サシムルニ於テハ其ノ示唆力明示的ナルト暗示的ナルトヲ問ハス教唆行爲ヲ構成スルモノトス【要旨第二】

【參照】陪審法第七條 被告人公判又ハ公判準備ニ於ケル取調ニ於テ公訴事實ヲ認めタルトキハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス但シ共同被告人中公訴事實ヲ認めサル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス
刑法第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス
教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六年ニ處ス但原審ニ於ケル未決勾留日數中九十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用中當審證人藤原重光ニ支給シタル分ハ被告人ノ負擔トシ其餘ハ被告人ト原審相被告人竹內勸助トノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ原審相被告人竹內勸助ト近隣ニ居住シ極メテ昵懇ノ間柄ニシテ勸助ハ被告人ノ紹介ニ依リ昭和六年五月二十九日第一火災海上保險株式會社ト勸助所有ノ岡山縣英田郡東栗倉村大字川東二百十二番地所在ノ木造草葺平家建住宅一棟外附屬建物三棟及家財等ニ付保險金額三千圓期間同日ヨリ向フ一箇年ノ火災保險契約ヲ締結シタルカ當時同人ハ株式會社東栗銀行三河支店其ノ他ニ對シ合計金二千數百圓ノ負債ヲ生シ之カ支拂ニ窮シ居リタルモノナルトコロ

第一 被告人ハ勸助ヨリ前記負債ノ整理方依頼セララルヤ昭和六年十二月二十日頃被告人ノ營業所ナル同郡大原町ノ印刷所ニ於テ勸助ニ對シ「オ前ハ火災保險ニ這入ツテ居ルテハナイカオ前ハ心易イノテ云フカ誰ニテモ云フテハ困ル話スコトハ話スカ勸メルノテハナイカラオ前ノ考ヘニセヨ大キナ蠟燭ヲ買ツテ來テ夫レニ火ヲ點ケテオ前カ留守ニシテ其ノ蠟燭ノ火カラ火事ニナル様ニスレハ判リハシナイオ前カ家ニ居タラ具合カ惡イノテ外出シテ居ル間ニ火事ニナツタラヨイ之ハワシカ教ヘタト云フテハ困ル」旨申向ケテ暗ニ前記保險物件タル居室ニ放火スヘキコトヲ教唆シ因テ勸助ヲシテ右教唆ニ基キ昭和七年一月三十一日午前八時頃豫テ買求メ置キタル三十枚蠟燭ヲ前記居室裏手風呂場ノ天井ニ立テ箕草ヲ以テ其ノ根元ヨリ壁ニ到ル間ヲ接續セシメ所携ノ燐寸ニテ右蠟燭ニ點火シタル儘外出シ以テ其ノ妻子等ノ居住セル同居宅ニ放火セシメ因テ同日午後六時頃勸助ノ不在中右場所ヨリ出火シ間口八間半奥行四間半ノ同居宅一棟及木納屋一棟ヲ全燒セシメ

陪審法第七條但書ノ意義 教唆行爲ノ本質

第二 被告人ハ其ノ後勸助ヨリ前記保險金受領ニ關スル一切ノ手續ヲ依頼セララルヤ右火災カ勸助ノ放火ニ因ルモノナルコトヲ知リナカラ之ヲ承諾シ兩名共謀ノ上右放火ノ事實ヲ秘シ恰モ失火ノ如ク裝ヒ同年二月中前記保險會社ノ岡山縣英田郡大原町代理店青山晴雄ノ事務員野村正男ノ手ヲ經テ同會社ニ對シ保險金支拂ノ請求ヲ爲シ以テ同會社ヲ欺罔シ因テ同月二十二日被告人ニ於テ同町野村正男方ニ於テ同會社送付ニ係ル右保險金千九百八十三圓七錢ヲ受取リテ之ヲ騙取シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中放火教唆ノ點ハ刑法第八條第六十一條第一項ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第六十條ニ各該當スルトコロ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ前者ニ付有期懲役刑ヲ選擇シ同法第四十七條第十條ニヨリ重キ放火教唆罪ノ刑ニ同法第十四條ノ制限内ニ於テ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六年ニ處シ同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中九十日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ヲ適用シ主文末項記載ノ如ク被告人ニ對シ其ノ負擔ヲ定ムヘキモノトス

○主 文

本件公私訴上告ハ之ヲ棄却ス
私訴上告費用ハ私訴上告人ノ負擔トス

○理 由

辯護人清瀬一郎 北村金太郎上告趣意書第一點本件ノ審理ハ陪審法第七條ニ違反シタル違法ノ手續ニ依リタルモノナリ刑法第八條ヲ適用スヘキ放火事件ハ死刑又ハ無期懲役ヲモ法定刑中ニ包含スル事案ナルヲ以テ陪審法第二條ニ依リ法定陪審事件ナルコトハ言フ迄モナシ然ルニ本件ノ審理ハ陪審手續ニ依リテ進行セラレ居ラス今其ノ由來ヲ調査スルニ岡山地方裁判所刑事部ニ於テ本件ニ付公判準備手續カ開始セララルヤ裁判長ハ第一審相被告竹内勸助及上告人長畑建類ニ對シ各々公訴事實ヲ認ムルヤ否ヤヲ確メラレタルニ竹内勸助ハ豫審終結通リ相違アリマセヌト答ヘ上告人長畑建類ハ豫審終結決定ニ對シ全然左様ナコトハアリマセヌト否認シタリ裁判長ハ更ニ被告人長畑建類ニ對シ本件ハ法定陪審事件ナルコト及陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ得ヘキ旨ヲ告ケタルニ被告人長畑建類ハ本件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭退スト述ヘタリ茲ニ於テ裁判長ハ被告人長畑建類ハ本件ヲ陪審ノ評議ニ付スルヲ辭退シ被告人竹内勸助ハ公訴事實ヲ自白シタルニ依リ通常公判手續ニ從ヒ直チニ審理スル旨ヲ告ケ陪審公判準備手續ヲ終了シタリ(公判準備手續調書ヲ引用ス)以上ノ經過ニ依リ明ナル如ク此ノ時裁判長ハ被告人竹内勸助ニ對シテハ本件カ法定陪審事件ナルコト又陪審ハ辭退シ得ヘキモノナルコトヲ告ケタル形跡ナク又被告人竹内勸助モ亦陪審ヲ辭スルノ意思表示ヲ爲シタル記載アルコトナシ陪審法第七條ニ於テハ「被告人公判又ハ公判準備ニ於ケル取調ニ於テ公訴事實ヲ認メタルトキハ事件ヲ陪審ノ

評議ニ付スルコトヲ得ス但シ共同被告人中公訴事實ヲ認メサル者アルトキハ此ノ限リニ在ラスト在
 リ右法文中共同被告人ト云フハ必スシモ必要的共犯關係アル場合ニ限ラス一般ノ共犯關係ノ場合ニ於
 テモ此ノ但書ノ適用アルコトハ御院昭和五年(レ)第一二二〇號事件ノ判決(同年十二月二日第五刑
 事部言渡)ニ於テ御判示アリタル所ナリ之ヲ本件ノ場合ニ當テ嵌メ調査スルニ共同被告人トシテ起訴
 セラレタル竹内 長畑兩名ノ中長畑ハ公判準備手續ニ於テモ公判手續ニ於テモ終始公訴事實ヲ否認シ
 續ケタルモノナルヲ以テ正シク陪審法第七條但書ノ場合ニ的中シ縱令他ノ共同被告人竹内勸助カ公訴
 事實ヲ認メタル場合ニ於テモ此ノ事件ハ全體トシテ法定陪審事件ナルノ性質ヲ喪ハサルナリ既ニ事件
 カ全體トシテ法定陪審事件ナル以上ハ獨リ公訴事實ヲ否認シタル當事者(長畑)ノミナラス之ヲ是認
 シタル當事者(竹内)モ亦陪審ニ依ル審理ヲ受クルノ權ヲ保有スルモノナルヲ以テ公訴事實ヲ認メタ
 ル者ト之ヲ認メサル者ノ審理カ刑事訴訟法ニ依リ分離セラルレハ格別然ラサル場合ニ於テハ本件ハ事
 件トシテ共ニ陪審手續ニ依リ進行セラルヘキモノナリ然ルニ本件第一審裁判所ハ共同被告人ノ一人タ
 リシ竹内勸助カ陪審ヲ辭退セス又同人ノ審理ト長畑建類ノ審理トヲ分離セス而モ兩者ヲ併セテ通常訴
 訟手續ニ依ル審判ニ從ハシメタルハ冒頭掲記ノ如ク陪審法第七條ヲ適用セサリシ違法ノ手續ナリト謂
 ハサルヘカラス此ノ理由ニ依リ本件第一、二審訴訟手續竝ニ判決ハ總テ之ヲ破毀セラルヘキモノナリ
 ト信スト云フニ在リ

仍テ案スルニ所論第一審公判準備調書(陪審)ニ依レハ同公判準備手續ニ於テ裁判長カ被告人長畑建
 類ニ對シ本件ハ法定陪審事件ナルコト及陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ得ヘキ旨ヲ告知シ而シテ同被
 告人カ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭スル旨ヲ述ヘタルコトハ之ヲ認メ得ルモ裁判長カ共同被告
 人竹内勸助ニ對シテ右告知ヲ爲シタル形跡ナキノミナラス裁判長カ被告人長畑建類ハ本件ヲ陪審ノ評
 議ニ付スルコトヲ辭シ被告人竹内勸助ハ公訴事實ヲ自白シタルニ因リ通常公判手續ニ從ヒ直ニ審理ス
 ル旨ヲ告ケテ陪審公判準備手續ヲ終了シタルコトヲ認メ得ヘク而シテ爾後事件カ分離セラレスシテ第
 一、二審ヲ通シテ通常公判手續ニ依リテ審理判決セラルルニ至リタルコトハ本件記録ニ徵シ明白ナル
 所トス然レトモ陪審法第七條カ其ノ第一項ニ於テ「被告人公判又ハ公判準備手續ニ於ケル取調ニ於テ
 公訴事實ヲ認メタルトキハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス」ト規定シ其ノ但書ニ於テ「共同被
 告人中公訴事實ヲ認メサル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス」ト規定セル所以ノモノハ蓋シ審理ヲ統一シ
 テ事實認定上ニ齟齬ナカラシムコトヲ期スルノ趣旨ニ出テタルモノナルヘシ然ラハ此ノ但書ノ規定
 タルヤ公訴事實ヲ認メサル者ニ於テ陪審ヲ辭セサル場合ニ限リ其ノ適用アルモノト解釋セサルヘカラ
 ス何トナレハ若シ「共同被告人中公訴事實ヲ認メサルモノアルトキ」ノ字句ニ拘泥シテ共同被告人カ
 陪審ヲ辭セルニ拘ラス公訴事實ヲ認メサルノ故ヲ以テ公訴事實ヲ認ムル被告人ニ對シテ事件ヲ陪審ノ
 評議ニ付セサルヘカラサルモノト解スルニ於テハ却テ右立法ノ精神ヲ没却スルニ至ルヘケレハナリ果

【要旨第一】

シテ然ラハ第一審裁判長カ共同被告人竹内勸助ニ對シ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ得ヘキ旨ヲ告知セス被告人兩名ニ對シ被告人長畑建類ハ本件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ被告人竹内勸助ハ公訴事實ヲ自白シタルニ因リ通常公判手續ニ從ヒ直ニ審理スル旨ヲ告ケテ陪審公判手續ヲ終了シ而シテ爾後本件カ分離セラレスシテ第一、二審ヲ通シテ通常訴訟手續ニ依リテ審判セラレタルハ固ヨリ當然ニシテ毫モ異トスルニ足ラス由是觀之原判決ニハ所論ノ如キ違法存在セス論旨ハ理由ナシ

第三點刑法第六十一條ニ所謂教唆トハ單ニ犯罪ノ方法ヲ教ユルト言フニアラスシテ故意ニ他人ヲシテ犯意ヲ決定セシムルコトヲ謂フ泉二判事ノ著書ニモ教唆者ハ自己ノ行爲ニ依リ被教唆者カ特定ノ犯罪ヲ犯ス意思ヲ生シ之ヲ實行スルニ至ルヘキコトヲ豫見スルコトヲ要ス是レ教唆犯ニ於ケル故意ナリ此故意ナケレハ教唆犯ノ成立ヲ認ムルコトヲ得スト説明セラル本件ニ於テ上告人カ勸助ニ對シテ告知シタリト言フ言語ハ固ヨリ上告人ノ使用シタルモノニアラス此事ハ絕對ニ之ヲ否認スル所ナリ絕對ニ否認スル所ナリト雖其ノ言語トシテ原判決文ニ示サレタルモノニ依レハ次ノ如キニ過キス曰ク「オ前ハ火災保險ニ這入ツテ居ルテハナイカオ前ハ心易イノテ云フカ誰ニモ云フテハ困ル話スコトハ話スカ勸メタルテハナイカオ前ノ考ニセヨ大キナ蠟燭ヲ買フテ來テ夫レニ火ヲ點ケテオ前カ留守ニシテ其ノ蠟燭ノ火カラ火事ニナル様ニスレハ判リハシナイオ前カ家ニ居タラ具合カ惡イノテ外出シテ居ル間ニ火事ニナツタラヨイ是レハワシカ教ヘタト云フテハ困ル」右ノ文言ハ種々ニ解釋スルコトヲ得ヘ

シト雖モ蠟燭ヲ用フル放火ノ方法ヲ説キタルニ過キスシテ之ヲ以テ勸助ニ放火スルノ決意ヲ促カシタリト讀マサルヘカラサルニアラス今日世間ニ發行セラルル犯罪實話雜誌又ハ或種ノ新聞記事ニ於テ犯罪ノ方法ヲ記述スルモノト其ノ性質ヲ異ニセス之ヲ聞キタルモノ必スシモ此種ノ犯罪ヲ犯スヘシトノ決心ヲ要求セラレタリト謂フヘカラス原判決カ之ヲ以テ直チニ放火教唆行爲ト爲シタルハ刑法ニ所謂教唆ノ意味ヲ誤解シタルモノト謂ハサルヘカラス原判決ハ此理由ヨリスルモ宜シク速ニ破毀セラルヘキモノト信スト云フニ在リ

按スルニ刑法ニ所謂教唆行爲ノ成立ニ人ヲシテ一定ノ犯罪ヲ決意實行セシムルノ意思アルコトヲ要スルハ所論ノ如クニシテ教唆犯ニ造意犯ノ稱アルニ依リテモ之ヲ知ルヲ得ヘシ然レトモ法律ハ教唆ノ方法ニ何等ノ制限ヲ設クル所ナキヲ以テ苟クモ犯意ナキ者ニ對シ一定ノ犯罪ヲ決意實行セシムルノ意思ヲ以テ示唆スルニ於テハ縱シヤ其ノ示唆カ明示的ノモノニ非スシテ暗示的ノモノニ過キサルトキト雖之ヲ教唆ト解シテ毫モ妨ナキモノト謂ハサルヘカラス原判決カ教唆行爲トシテ舉示セル「オ前ハ火災保險ニ這入ツテ居ルテハナイカオ前ハ心易イノテ言フカ誰ニモ云フテハ困ル話スコトハ話スカ勸メタルテハナイカオ前ノ考ニセヨ大キナ蠟燭ヲ買フテ來テ夫レニ火ヲ點ケテ云々」ノ一節ノ如キニ至リテハ至極巧妙ナル教唆行爲ト稱スルノ外ナク之ヲ目シテ單ナル事實ノ説明ト解スルヲ得ス然ラハ教唆ノ本質論ヲ以テスル本論旨ハ理由ナシ

第四點刑法第八條ニ現ニ人ノ住居ニ使用スル建造物ト謂フハ他人ノ住居ニ使用スル建造物ヲ謂ヒ放火者自身カ住居スル建造物ハ此中ニ入ラサルコトハ既ニ御院ノ判例ニ於テ認メラルル所ニシテ固ヨリ當然ナリ唯我國ニ於テハ所謂家族制度ナルモノ深ク國民生活ニ浸漸シ自己ノ住居トハ自己及家族ノ住居ナリ自己ノ妻及自己ノ子ヲ同居セシムル場所ハ自己ノ住居ニシテ他人ノ住居ニハアラサルナリ乃チ刑法第八條ニ於ケル人ノ住居ニ使用スル建造物トハ自己ト家族カ住居スル以外ノ建造物ヲ云フモノニシテ本件ノ如ク地方農民カ自ラ之ヲ所有シ自ラ之ニ住シ自己ノ妻子ヲ同居セシムル家屋ヲ燒燬シタル場合ノ如キハ刑法第九條以下ノ規定ニ依ルヘキモノニシテ他人ノ住宅ニ放火シタルコトヲ眼中ニ置ク第八條ヲ以テ律スヘキニアラス若シ犯人ノミカ住居スレハ第八條ヲ適用セス犯人以外ノ者ハ縱令妻ト雖之ニ住居スレハ第八條ヲ適用スト云フカ如キ理論ヲ採ラハ茲ニ極メテ奇異ナル現象ヲ生スヘシ乃チ例ヘハ夫婦二人カ一家ニ住居スル場合ニ夫カ妻ニ祕シテ自家ニ放火ヲ爲サハ第八條ヲ以テ重ク罰セラレ妻ト相謀リテ放火スレハ第九條以下ニ依リ却テ輕ク罰セラルルノ結果ヲ見ルニ至ラシクノ如キハ我國ニ於テハ相當ナル法律解釋ナリト謂フヘカラス此點ニ關シ更ニ御院ノ御考慮ヲ煩ハサントス要スルニ第一審共同被告人タル竹内勸助ノ行爲ハ自己ノ所有ニ依リ自己及自己ノ妻子ノ住居スル家屋ニ放火シタルモノニシテ之ニ對シテハ刑法第八條ヲ適用スヘキモノニアラスト信スト云フニ在レトモ

刑法第八條カ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物汽車電車等ニ對スル放火罪ヲ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物等ニ對スル同法第九條ノ放火罪ヨリ重ク處斷スル所以ノモノハ不定多數人ノ生命身體財產ニ對スル危險即チ公共ノ危險ノ大ナルモノアルカ故ナルヲ以テ從來ノ判例ニ於テ獨居者カ自己ノ住居スル建造物ニ對シテ爲シタル放火行爲ヲ第九條ニ問擬セルノ理ヲ推シテ妻子眷族ノ住居セル建造物ニ放火スル行爲ヲ其ノ家族カ共犯者ナル場合ヲ假想シテ第九條ノ罪ニ問擬スヘシトスル所論攻撃ハ當ラス論旨ハ理由ナシ

第五點原審確定ノ事實ニ依レハ竹内勸助ノ放火ノ行爲ハ保險金騙取ノ手段ナリト信ス從テ斯ノ如キ案件ニ於テハ詐欺罪ト放火罪トノ間ニハ手段結果ノ關係アリ其ノ處罰ニ付テハ刑法第五十四條第一項後段ヲ適用スヘキモノニシテ刑法第四十五條四十七條等ヲ適用スヘキモノニアラスト信ス尤モ此問題ニ對シテハ昭和五年(レ)第一七二九號同年十二月十二日御院第四刑事部ノ判決ニ於テ右ト反對ノ見解ニ基キ放火行爲ハ保險金騙取ノ詐欺行爲ノ豫備ニ過キヌ又放火ハ詐欺行爲ノ性質上其ノ手段トシテ普通ニ用キラルルモノニアラスト論セラル然レトモ此見解ハ恐ラクハ妥當ニアラサルヘシ(一)何トナレハ商法竝保險約款ニ依ルモ保險金請求權ハ被害者ヨリ保險金支拂ヒノ請求書ヲ提出スルニ依リ發生スルモノニアラス損害ノ發生シタル瞬間ニ當然發生スルモノナリ前御判例カ放火ノ事實ヲ祕シテ保險會社ニ通知スルニ及ンテ初メテ欺罔ノ著手アリト言ハルルハ妥當ニアラサルヘシ(二)又保險詐欺

ニ於テハ放火ト云フコトハ普通ニ用キラルル手段ナルコトハ御院ノ判決録ヲ繙讀スルモ此形式ニ依ル犯罪相當多キコトヨリ見ルモ之ヲ斷定シテ過チナカルヘシ前記御院ノ御判例ハ餘リニモ議論ノ末ニ走り事實ニ合セサルカ如シ更ニ穩健ナル御判斷ヲ仰カントスト云フニ在レトモ

刑法第五十四條第一項後段ノ規定スル牽連犯ノ成立ニ付本院カ夙ニ客觀的解釋ヲ採リ二個以上ノ犯罪カ手段又ハ結果トシテ牽連ノ關係アリト爲スニハ單ニ行爲者ニ於テ主觀的ニ手段又ハ結果トシテ相牽連セシムルノ意思アリタルコトヲ以テ足レリトセス此等ノ犯罪カ客觀的ニ手段又ハ結果トシテ相牽連スル性質ノモノタルコトヲ要スト爲スハ蓋シ牽連犯ノ觀念ノ不當ニ擴張セラルルコトヲ慮リタルニ因ルヘシ然ラハ今爰ニ從來ノ判例ヲ變更スルノ要アルヲ見サルノミナラス却テ之ヲ維持スルヲ相當トスルカ故ニ原判決カ本件被告人ノ放火教唆及詐欺ノ成立ヲ認メ之ヲ併合罪トシテ處斷シタルハ寔ニ至當ニシテ毫モ所論ノ如キ擬律錯誤ノ違法アルモノト謂フヘカラス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條第六百五條第五百七十二條第五號民事訴訟法第八十九條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事棚町丈四郎關與

○偽證有價證券偽造行使私文書偽造行使公正證書原本不實記載行使
詐欺被告事件(昭和九年九月十四日第七八八號刑部判決 棄却)

【上告人】 被告人 庄 知一郎 外一名
【第一審】 京都地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

刑法第五十七條ノ犯罪ノ不成立——同條ノ犯罪ノ成立

○判決要旨

一 甲カ乙ニ金借ノ周旋ヲ依頼シ乙ハ更ニ丙ニ金融ヲ頼ミ同人ヲシテ甲ニ金員ヲ貸與セシメタル場合ニ甲カ其ノ債務返濟ノ確證ト

刑法第五十七條ノ犯罪ノ不成立 同條ノ犯罪ノ成立

シテ其ノ所有ノ不動産ヲ乙ニ對シ賣買名義ニ因ル所有權移轉假登記ヲ爲シタルトキハ該登記ハ甲乙通謀ニ出テタリトスルモ刑法第五百五十七條第一項ノ犯罪ヲ構成セス【要旨第一】

二準禁治産者タル甲カ乙ト通謀シテ契約ノ日附ヲ遡ラシメ其ノ準禁治産宣告前ノ賣買ナルカ如ク假裝シ不動産登記ヲ爲スニ於テハ同條項ノ犯罪ヲ構成スルモノトス【要旨第二】

【參照】 刑法第五百五十七條 公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人知一郎ヲ懲役一年二月ニ處シ未決勾留日數中二百十日ヲ右本刑ニ算入ス（押收物件ノ處分及訴訟費用ノ點ハ省略）ル旨ノ判決ヲ爲シタリ
第一、被告人庄知一郎ハ犯意繼續ノ上

(一) 昭和四年四月、五月頃當時大阪市東區谷町六丁目所在日本製袋印刷機製造株式會社取締役中島勇吉ノ依頼ニ依リ舊知ノ間柄ナル吉田傳ニ對シ右會社ノ資金等ニ付金融方ノ援助ヲ求め其ノ頃同人ニ於テ該會社勇吉及其ノ他ノ右會社取締役等ニ對シ合計金一萬數千圓ヲ貸付ケタルカ同年八月十三日頃名古屋市西區茶屋町八十一番戸ナル傳方ニ於テ勇吉ハ再ヒ會社ノ資金調達ノ爲傳ニ對シ約束手形用紙數通ヲ示シ傳及知一郎ノ面前ニ於テ右手形ニ裏書ヲ爲シ且所持ノ傳名義ノ印ヲ押捺シ傳ハ之ヲ默認シタルコトヲ知一郎ニ於テ知悉セルニ拘ラス昭和五年二月十四日名古屋地方裁判所法廷ニ於テ同裁判所昭和四年（ワ）第七一號原告西村吉太郎被告吉田傳間ノ約束手形請求事件ニ付證人トシテ宣誓ノ上同裁判所ニ對シ右手形ノ一通タル中島振出吉田傳裏書ノ金額一萬圓ノ約束手形ハ自己ニ於テ全然不知ノモノニシテ其ノ手形ノ裏書ト吉田傳名下ノ印ハ中島勇吉カ勝手ニ作リタルモノヲ押シタルモノト思フ旨虚偽ノ證言ヲ爲シ

(二) 大正十二年頃自己所有ノ京都府北桑田郡山國村大字比賀江小字長塚所在田四筆山林一筆ヲ賣渡擔保トシテ大阪市東區北新町二丁目岩徳重ヨリ金八千圓ヲ借受ケ其ノ辨濟期ニ返済シ得サリシヨリ右不動産ノ所有權ヲ一旦徳重ニ移轉シタルモ其ノ後同人ニ對シ現金千五百圓ヲ交付シテ之ヲ買戻スコトト爲リ其ノ資金ヲ被告人清太郎ヨリ立替支拂ハシムルコトト爲リタル結果大正十三年二月二日清太郎ト共ニ右徳重方ニ至リ同人ヲシテ徳重ニ對シ金千五百圓ヲ支拂ハシメタル事實ナ

ルニ拘ラス昭和五年八月二十八日關部區裁判所法廷ニ於テ申立人山本悅藏被申立人清原清一郎
 (被告人清太郎ノ長男)間ノ同裁判所同年(マ)第四十號不動產競賣申立異議事件ニ付證人トシ
 テ宣誓ノ上同裁判所ニ對シ被告人清太郎カ德重ニ對シ金三千圓ヲ支拂ヒタル旨虛偽ノ證言ヲ爲シ
 以テ何レモ證偽ヲ爲シ

第二、昭和六年一月下旬頃田中耕一郎ノ依頼ニ依リ前記吉田傳ニ金融方周旋ヲ爲シタルカ同人ヨリ金
 一萬圓ヲ融通スルニ付便宜上債權確保ノ手段トシテ豫メ耕一郎所有ノ京都市上京區大宮萩原一番地
 山林五町六反九畝二十七步ヲ被告人庄知一郎名義ニ賣買ニ因ル所有權移轉假登記ヲ爲シ置クコトト
 シタルモ耕一郎ハ是ヨリ先昭和五年八月上旬準禁治產ノ宣告ヲ受ケ居タル爲後日問題ヲ惹起スルコ
 トヲ慮リ同人ノ同意ヲ得タル上事實賣買契約ノ成立ナキニ拘ラス右宣告期日以前ナル昭和五年七月
 二十五日兩人間ニ賣買契約成立シタルモノノ如ク假裝シテ所有權移轉ノ假登記ヲ受ケンコトヲ企テ
 右ニ符合スル賣渡證書ヲ作成シ右申請ニ要スル被告人知一郎ノ委任狀等ヲ耕一郎ニ交付シ同人ヲシ
 テ其ノ他所要ノ書類ヲ作成セシメタル上昭和六年一月二十七日京都市區裁判所上賀茂出張所ニ右書類
 ヲ提出セシメ當該登記官吏ヲシテ即時登記簿ノ原本ニ被告人知一郎カ昭和五年七月二十五日賣買ニ
 因リ耕一郎ヨリ前記山林ノ所有權ヲ取得シタル旨ノ不實ノ記載ヲ爲サシメ且之ヲ同所ニ備付ケシメ
 テ行使シ

第三、其ノ頃右耕一郎ヨリ金策ノ爲振出及引受欄ニ同人ノ署名捺印アル金額五千圓振出日滿期日及受
 取人欄空白ノ爲替手形並同人ノ署名捺印アル金額五千圓宛名及日附欄空白ノ領收書各一通ヲ他日金
 主發見シタルトキ手形ニ付テハ要件完備ノ上之ヲ振出シ領收書ハ該手形ノ割引ヲ爲シタル金主ニ要
 件記入ノ上之ヲ交付スヘキ趣旨ニテ領リ居タルトコロ豫テ京都府久世郡寺田村字寺田小字北東西八
 十二番地上田光藏ヨリ既ニ返済期日ヲ過キタル金千五百圓ノ借受債務ニ付昭和六年十月頃ヨリ嚴シ
 ク督促セラレタル爲窮餘同人ヲ欺罔シテ之カ支拂延期ヲ求メンコトヲ企テ右手形及領收書カ自己ノ
 手裡ニ在ルヲ奇貨トシテ同月中旬頃京都市上京區紫野北船岡町十番地ノ一元被告人知一郎宅ニ於テ
 行使ノ目的ヲ以テ擅ニ右手形ノ空白欄タル振出日欄ニ昭和五年七月二十五日滿期日欄ニ昭和六年一
 月二十日ト記入シ又右領收書ノ空白欄タル宛名欄ニ庄知一郎日附欄ニ昭和五年七月二十五日ト記入
 シ以テ田中耕一郎ノ署名印章ヲ冒用シ同人振出名義金額五千圓振出日昭和五年七月二十五日滿期日
 昭和六年一月二十日ノ爲替手形一通及同人名義庄知一郎宛昭和五年七月二十五日附金額五千圓ノ領
 收書一通ノ偽造ヲ夫々完成シ昭和六年十月三十日情ヲ知ラサル木村秀ヲ介シ前記上田光藏方ニ於テ
 同人ニ對シ被告人知一郎カ右手形ヲ以テ田中耕一郎ニ金五千圓ヲ貸付ケ其ノ債權保全ノ爲前記山林
 ヲ知一郎名義ニ所有權移轉ノ假登記ヲ爲シタルモノナル旨申シ偽リ之等權利ヲ擔保トシテ差入ルル
 ニ付右債務支拂ヲ延期セラレ度キ旨申入レ且右偽造手形及偽造領收書ヲ真正ナルモノトシテ之ニ假

登記權利ノ讓渡證等ヲ添へ提出シテ一括行使シ因テ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメタル上其ノ頃右債
務支拂ヲ延期セシメ以テ財産上不法ノ利益ヲ得タルモノナリ

(第四、事實省略)

法律ニ照スニ被告人知一郎ニ對スル判示所爲中偽證ノ點ハ刑法第六十九條第五十五條ニ公正證書原
本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル點ハ同法第五十七條第一項ニ其ノ行使ノ點ハ同法第五十八條第一
項第五十七條第一項ニ各該當スルところ右公正證書原本不實記載ト其ノ行使ノ點ハ手段結果ノ關係
アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニヨリ重シト認ムル同行使罪ノ刑ニ從ヒ懲役刑ヲ選擇シ
有價證券偽造ノ點ハ同法第六十二條第一項ニ其ノ行使ノ點ハ同法第六十三條第一項ニ私文書偽造
ノ點ハ同法第五十九條第一項ニ其ノ行使ノ點ハ同法第六十一條第一項第五十九條第一項ニ詐欺
ノ點ハ同法第二百四十六條第二項ニ各該當スルところ右偽造有價證券竝偽造私文書ノ各行使ハ一括行
使ニ係リ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又有價證券偽造ト其ノ行使ト詐欺竝私文書偽造ト其ノ
行使ト詐欺ノ間ニハ夫々手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項前段及後段第十條ヲ適用シ
最モ重キ偽造有價證券行使罪ノ刑ニ從フヘク以上偽證ト不實記載公正證書原本行使罪ト偽證有價證券
行使罪トハ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ則リ重キ偽造有價證券行使罪ノ刑ニ法定ノ加重
ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人知一郎ヲ懲役一年二月ニ處スヘク被告人知一郎ニ對スル原審未決

勾留日數算入ニ付同法第二十一條ニ則リ主文ノ如ク處斷スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人知一郎上告趣意書第一點一、原判決ハ本件公訴第二事實ニ付刑法第五十七條第一項ヲ適用シ
タリ然レ共被告人及田中耕一郎カ判示ノ如キ假登記ヲナスニ至リタルハ原判決認定ノ如ク吉田傳ヨリ
金融ヲ得シカ爲メノ準備行爲ニ外ナラス而シテ右賣買假登記ヲ被告人名義トナシタルハ吉田傳ト被告
人トノ從來ノ内部的信認關係ヨリシテ吉田ヨリ出金ヲ得タル場合モ表面上ハ被告人カ右耕一郎ニ對ス
ル債權者トナリ右假登記物件ヲ所謂賣渡擔保ノ目的ニ供スル意圖ナリシ事ハ原審ニ於ケル被告人ノ供
述ニヨリ極メテ明白ナル事實ナリ世上金錢貸借ノ場合擔保ノ目的トシテ不動産上ニ賣買假登記ヲナ
ス事ハ頻々トシテ行ハルル處ニシテ斯ル方法カ公正證書原本不實記載行使ノ罪ヲ構成セサルコトハ多
言ノ要ナキ所ナリトス然シテ金融ヲ得ントスル者豫メ任意ノ設定日ヲ定メテ抵當權或ハ賣買假登記等
ヲ設定シ然ル後事實上ノ金錢貸借ヲ成立セシムル事例亦尠カラズ斯ル場合後ニ金錢貸借カ成立スルニ
至ラサリシトスルモ其ノ準備行爲カ遡ツテ犯罪行爲ヲ構成スルニ至ルモノトナスヲ得サルヘシ本件被
告カ爲シタル假登記モ亦右ノ場合ト何等異ナル事ナシ即チ設定登記ヲナス時ハ正シク吉田傳ヨリ金融

刑法第五十七條ノ犯罪ノ不成立 同條ノ犯罪ノ成立

ヲ得ンカ爲ノ準備行爲ニ外ナラサレハナリ果シテ然ラハ本件被告人ノ行爲ハ原判決認定ノ如キ犯罪行爲ヲ斷シテ構成スルモノニ非スト解スヘキニ拘ラス漫然刑法第五十七條第一項ヲ適用シタルハ罪トナラサル事實ニ不當ニ罰條ヲ適用シタル違法アルモノト云ハサルヲ得ス二、原判決或ハ賣買成立ノ日附ヲ遡ラシメ且ツ之ヲ登記簿ニ記入セシメタル點ヲ捉ヘテ以テ不實記載トナスニ非スヤト解セラルルモ前記ノ如ク金錢貸借成立前ニ抵當權若クハ賣買假登記ヲナス場合ハ總テ日附ヲ遡記スルコトナラズモ取引社界ノ實情ニ照シ未タ曾テ之ヲ犯罪視セラレタル事實ナシ從ツテ原判決カ右日附ノ點ヲモ不實記載トシテ犯罪ヲ構成スルモノトナシタルモノトセハ不法モ亦甚シトイハサルヘカラスト云フニ在リ

【要旨第一】

因テ案スルニ甲カ乙ニ金借ノ周旋ヲ依頼シタルニ乙ハ更ニ丙ニ金融ヲ頼ミ同人ヲシテ甲ニ金員ヲ借用セシメタル場合ニ甲カ其ノ債務ヲ約定ノ期日マテニ返済スヘキ確證トシテ其ノ所有ノ不動産ヲ乙ニ賣買名義ニ因ル所有權移轉假登記ヲ爲シタルトキハ甲ハ右債務ノ返済ヲ爲スニ非サレハ乙ヲシテ右假登記ヲ抹消セシムルコトヲ得サルヲ以テ債務ノ履行ヲ確證セシムル實ヲ舉クルコトヲ得ルモノナレハ適法ナル契約ノ一種ニ屬シ契約自由ノ範圍内ニ在ル有效ナル法律行爲ナリトス從テ敍上ノ登記ニ付テハ甲乙通謀ノ上爲サレタリトスルモ刑法上虛偽登記ノ問題ヲ生スルコトナシト雖甲カ準禁治產者ニシテ處分能力ヲ制限サレアル場合ニ日附ヲ遡ラシテ其ノ宣告前ノ賣買ナルカ如ク假裝スルニ於テハ其ノ事

【要旨第二】

實ハ虛偽ナルヲ以テ甲乙通謀シテ其ノ旨ノ登記ヲ爲スニ於テハ刑法第五十七條第一項ノ犯罪ヲ構成スルモノトス原判決ノ確定シタル事實ハ措辭妥當ナラサル嫌アルモ之ヲ要スルニ被告人カ田中耕一郎ノ依頼ニヨリ吉田傳ニ金融方ヲ頼ミ同人ヨリ金一萬圓ヲ融通スルニ付債權確保ノ手段トシテ耕一郎所有ノ判示山林ヲ被告人名義ニ賣買ニ因ル所有權移轉假登記ヲ爲シ置クコトトナシタルモ先是耕一郎カ昭和五年八月上旬準禁治產ノ宣告ヲ受ケ居タル爲後日問題ヲ惹起スルコトヲ慮リ同人ノ同意ヲ得タル上右宣告期日以前ナル昭和五年七月二十五日兩人間ニ賣買契約成立シタルモノノ如ク假裝シテ所有權移轉ノ假登記ヲ受ケンコトヲ企テ右ニ符合スル賣買證書ヲ作成シ右申請ニ要スル被告人知一郎ノ委任狀等ヲ耕一郎ニ交付シ同人ヲシテ原判決ノ如ク不實ノ登記ヲ爲サシメ且之ヲ備付行使セシメタリト云フニ在ルヲ以テ右ノ事實ハ刑法第五十七條第一項ノ犯罪ヲ構成スルコト洵ニ明ナリ原判決ニ於テ該法條ヲ適用シテ處斷シタルハ正當ニシテ所論ノ如ク罪トナラサル事實ヲ不當ニ問擬シタルモノニ非ス論旨理由ナシ

第二點一、原判決ハ判示第三事實ニ付被告人ノ各行爲ヲ孰レモ有罪ト判定セリ然レ共判示第二事實ニ記載セラレタル如ク被告人ハ田中耕一郎ノ山林ニ賣買假登記ヲ設定シ之ヲ賣渡擔保ノ目的トナシ右耕一郎ニ金融ヲ得セシメントシタルモ金主吉田傳カ豫期ノ通り出金セサル爲メ所期ノ目的ヲ達スルニ至ラサリシモ右登記ノ前後右耕一郎ハ被告ニ對シ屢々金融ヲ迫リタル爲被告人ハ昭和六年一月二十九日

金四百圓同三十日金四百圓同二月五日二百圓其ノ後數回ニ金二百圓合計金一千二百圓ヲ貸與スルニ至リタリ右貸借ノ事實ハ原審被告人ノ供述ニ依リ記録上明白ナル所ナリトス而シテ被告人カ右ノ如ク右耕一郎ニ金錢ヲ貸與シタルハ右賣買假登記物件ヲ引渡擔保トシテ自己名義ノ假登記ヲ有スルカ爲ニシテ又耕一郎ノ側ヨリ觀ルモ擔保物件カ差入レアルカ爲金融ヲ申出タルモノニ外ナラス果シテ然ラハ被告人ハ右貸金ノ賣渡擔保トシテ右賣買假登記ノ名義ヲ保有シ右耕一郎亦之ヲ許容セルモノト觀察セサルヘカラス右ノ如ク被告人ハ田中耕一郎ニ金錢ヲ貸與セシコトニヨリ適法ニ賣買假登記名義ヲ有スルモノナルカ故ニ豫テ右耕一郎ヨリ預リ居タル判示手形及領收書モ右貸金ノ擔保トシテ之ヲ留置セルモノニシテ耕一郎亦之ヲ許容シ居タルモノニ外ナラス從テ右貸金ノ範圍内ニ於テ他ニ權利質ヲ設定シ擔保物ヲ利用スルコトモ法律上有效ニナシ得ル所ナリト信ス二被告人ト田中耕一郎トノ關係以上ノ如クナルニヨリ被告人ハ其ノ擔保ノ手形ニ適當ナル補充ヲナシ且之ニ附隨セル領收證ニモ補充ヲナシ賣渡擔保附債權トシテ自己ノ債權者ナル上田光藏ニ權利質ヲ得セシムル目的ヲ以テ關係書類ト共ニ交付シ且前記賣買假登記ノ移轉附登記ヲナシタルモノトス然ルニ原判決ハ右手形及領收書ノ補充ヲ目シテ偽造ナリトシ且上田光藏ニ對スル交付ヲ目シテ行使ノ罪責アリトシ且右光藏ヨリ債務ノ支拂延期ヲ得タル點ヲ目シテ詐欺ノ行爲ナリトナセトモ適法ニ取得セル權利ヲ有效ニ行使セルニ過キササルモノカ如何ニシテ偽造トナリ詐欺トナルヤ殆ント其ノ正當ナル所以ヲ解スル能ハス三、要之原判決ハ被

告人ト田中耕一郎間ニ貸借成立シ居タル事實竝ニ右兩人間ノ内部的關係ヲ全然無視シテ事實ヲ確定シ罪トナラサル行爲ニ罰條ヲ適用シタル違法アリ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ被告人カ田中耕一郎ヨリ預リタル判示空欄ノ手形及領收證ヲ貸金ノ擔保トシテ自己ニ留置セリトノ所論ハ原判示ニ副ハサル主張ナリトス而シテ原判決カ第三事實ニ於テ確定セル事實ハ之ヲ要スルニ被告人カ右手形及領收書ヲ耕一郎ヨリ委託サレタル趣旨ニ反シ自己ノ上田光藏ニ對スル債務ノ延期ノ爲利用スル目的ヲ以テ夫々要件ヲ記入シテ同人ニ交付シタル趣旨ナレハ手形及領收證ノ偽造行使罪ニ當ルコト洵ニ明ニシテ原判決ノ法律適用モ正當ナリ更ニ記録ヲ精査スルニ此ノ點ニ關シ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルヲ認メス論旨理由ナシ

第三點原判決ハ判示第一乃至第三ノ事實ヲ孰レモ有罪ナリト認定シ被告人ニ科スルニ實刑ヲ以テセラレタリ然レトモ判示第一事實ノ(一)ハ何等ノ對價ヲ支拂ハスシテ手形ヲ入手セル西村吉太郎カ原告トシテ吉田傳ニ請求訴訟ヲ提起セル事件ニ於テ右西村吉太郎ノ不當ナル請求ニ憤激シ吉田傳ニ同情ノ餘リ不用意ニモ偽證セルモノノ判示第一事實ノ(二)ハ清原清太郎トノ從前ノ關係上後難ヲ恐レテ不得已ニ出テタルモノノ判示第二第三ノ事實モ全體トシテ極度ニ批難セラルヘキ惡意ニ出テタルモノニ非ス全ク不用意ニ出テタル行爲ニ過キス然モ何人ニモ實害ヲ與ヘタルモノニモアラス右全部ノ所爲ヲ通シテ實刑ニ相當スル程重大ナル罪責アルモノニ非ス當然刑ノ執行ヲ猶豫セラルヘキ事情ヲ具備シ居ルニ

拘ラス原判決カ事茲ニ出テラレサリシハ不當ニシテ破毀セラルヘキモノト信スト云フニ在レトモ

(一) 假令所論ノ如ク不當ナル民事訴訟ヲ排斥シ當事者ノ一方ニ同情スル目的ヲ以テスルモ苟モ證人トシテ宣誓ノ上證言スルニ當リ原判示第一ノ(一)ノ如ク眞實ニ反スル事實ヲ陳述スルニ於テハ僞證罪ヲ構成スヘク又(二)證人カ當事者ノ一方トノ關係ニ於テ所論ノ如ク同人ノ爲有利ナル證言ヲ爲スニ非サレハ後難ヲ受クル恐アルニセヨ緊急避難行爲ト謂ヒ難キヲ以テ虛僞ノ陳述ヲ爲スニ於テハ僞證罪ノ成立ヲ阻却スルコトナシ尙ホ又(三)公務員ニ對シ虛僞ノ申立ヲ爲シ公正證書ノ原本ニ不實ノ記入ヲ爲サシメタルトキハ刑法第五十七條第一項ノ犯罪ヲ構成スヘク實害ヲ與ヘタルヤ否ヤハ同罪ノ成立ニ消長スルコトナキモノトス蓋同條ハ眞正ナル公正證書ノ内容ニ對スル公ノ信用ヲ害スル危險ヲ防止スルコトヲ目的トスレハナリ而シテ記錄ヲ精査シ諸般ノ情狀ヲ考量スルニ原判決ノ被告人知一郎ニ對スル刑ノ量定ニハ甚シク不當ナリト思料スヘキモノアルヲ見ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與佐次郎關與

○電氣事業法違反被告事件 (昭和九年(九)第八九四號 棄却)
(同年九月二十七日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 坂井松男 辯護人 小山美登四

【第一審】 岡山地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

電氣工作物ノ施設變更

○判決要旨

電氣會社ノ試驗濟番號札ノ付シアル電動機ノ「コイル」ヲ捲替ヘ銘板掲記以上ノ過負荷ニ堪ヘ得ル様加工シ濫ニ之ヲ同會社ノ送電線ニ接続スルハ電氣事業法第三十四條ニ所謂電氣工作物ノ施設ヲ變更シタルモノニ該當ス

電氣工作物ノ施設變更

【参照】電氣事業法第三十四條 電氣事業者ノ承諾ヲ得スシテ濫ニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ五十日間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ大正十二年頃ヨリ前掲肩書住居ニ於テ電機具ノ販賣並修繕業ヲ營メルモノナルトコロ中國合同電氣株式會社カ同會社ヨリ電力ノ供給ヲ受クル各需要者使用ノ電動機ニ對シ總テ試験ヲ行ヒ其ノ合格品ニ付テハ其ノ電動機ノ「カバト」ニ試験済番號札ヲ固著シ合格品ニアラサレハ其ノ取付使用ヲ許ササルモ右試験済番號札ノ付シアルモノニ付テハ再試験ヲ行フコトナキ實狀ニ在リタルヲ奇貨トシ犯意ヲ繼續シテ別表記載ノ如ク昭和六年大月中ヨリ同七年六月中ニ至ル迄ノ間前後五回ニ亙リ岡山縣兒島郡郷田村大字植松三百四十九番地原貞一郎外四名ヨリ夫々強力ナル電動機ト交換若ハ買入ノ註文ヲ受クルヤ同人等カ何レモ前記會社ヨリ電力ノ供給ヲ受ケ燃絲業ヲ營メル者ニシテ其ノ各工場内ニ其ノ儘取付使用スルモノナルコトヲ知リナカラ其ノ頃岡山市石關町百三十一番地雷機修繕業池上政右衛門ヲシテ何レモ同會社ノ試験済番號札ノ付シアル日立製半馬力電動機一臺外四臺ノ電動機ノ「コイル」ヲ捲替ヘ銘板掲記以上ノ過負荷ニ堪ヘ得ル様加工セシメタル上之ヲ右貞一郎外四名方ニ送り右「コイ

ル」捲替ノ情ヲ知ラサル同人等ヲシテ右會社ノ承諾ヲ得ス同人等方ニ於テ内一臺ハ被告人自ラ其ノ他ハ右註文者自身又ハ同會社電工ノ手ニ依リ同會社ノ送電線ニ各接續取付ケシメ以テ濫ニ電氣工作物ノ施設ヲ各變更シタルモノニシテ右ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ電氣事業法(昭和六年四月二日法律第六十一號)第三十四條刑法第五十五條ニ該當スルトコロ右所爲ハ同電氣事業法ノ施行セラレタル昭和七年十二月一日以前ノ犯罪ニシテ舊電氣事業法(明治四十四年三月三十日法律第五十五號)第十九條ニ該リ其ノ刑ハ右新法ニ依リ變更セラレ居ルヲ以テ刑法第六條第十條ニ則リ輕キ右舊法條ヲ適用シ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニヨリ五十日間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人小山美登四上告趣意書第一點ハ原判決ハ法律ノ解釋ヲ誤リ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノトス一、本件被告ノ行爲カ電氣事業法違反ナリヤ否ヤヲ決スルニハ先同法第三十四條ノ電動機ハ電氣工作物ナリヤ否ヤ從テ電動機ノ「コイル」ノ捲替ハ電氣工作物ノ施設

電氣工作物ノ施設變更

ノ變更ナリヤ否ヤヲ決セサルヘカラス右ニ就テハ第一審鑑定人三宅豊鑑定ヲ援用シ問電動機ハ電氣
 工作物カ付ウカ又電動機ノコイルノ捲替ハ電氣工作物ノ施設ノ變更ニナルカ付ウカ答電動機ヲ電路線
 ニ取付ケテ電氣事業者カラ送電シ廻轉シテ居ルモノ又ハ回轉シ得ル様ナ設備ニナツテ居ルモノ及電動
 機ヲ電路線ニ取付ケテ電氣事業者カラ電力ノ供給ヲ受ケル契約カシテアルモノハ電氣工作物テアリマ
 ス而シテ其ノ電動機ノコイルヲ捲替ヘタ場合ハ電氣工作物ノ施設ノ變更ニナリマス尙コイルハ電動機
 ノ主要ナ部分テアリマスカラコイルノ捲替ハ電動機其ノモノヲ變更スルノト同シ様ナモノテアリマス
 併シ電動機ヲ賣買ノ目的ヲ以テ店頭ニ陳列シテ居ルモノ又ハ倉庫ニ藏シテ居ルモノハ電氣工作物テハ
 アリマセス從テ其ノ電動機ノコイルノ捲替ハ電氣工作物ノ施設ノ變更テハアリマセストテ被告カ店先
 ニテ買ヒ店頭ニ置ケル電動機ハ被告カ自由ニ使用收益處分爲シ得ルモノニテ電氣工作物ニ非ス從テ其
 ノ電動機ノコイルノ捲替ハ電氣工作物ノ施設ノ變更ニ非サルコト勿論タリ本件被告カコイルヲ捲替ヘ
 タルハ原貞一郎外四名ノ者ヨリ強力ナ電動機ノ注文ヲ受ケタル故其ノ頃池上政右衛門ニ頼ンテ中國合
 同電氣株式會社試驗ノ日立半馬力ノ電動機ノコイルヲ捲替ヘテ貫ヒ追金四十五圓ヲ受取ツテ右電動機
 ト同人カ以前カラ使用シテ居ツタ之浦製一馬力ノ電動機ト交換シタル點ニテ何等工作物ノ施設ノ變更
 ニ非スト見ルヲ相當トス其ノ他四名ニ就テモ同様ニシテ工作物ノ施設ノ變更ニ非ス從テ電氣事業法ノ
 違反ニ非ス二、然ラハ電氣事業者ノ試驗濟ノ電動機ノコイルヲ捲替ヘテ取付ケタ時ハ電氣工作物ノ施

設ノ變更ニナルヤ否ヤ右ニ關シテモ三宅豊鑑定人ハ答電氣事業者ノ試驗濟ノ電動機ノコイルヲ捲替
 ヘル事ハ差支アリマセス併シ左様ノコイルヲ捲替ヘタ電動機ハ電氣事業者ニ於テ試驗シタ上テ取付ケ
 ルトコロモアリマスカコイルヲ捲替ヘタ電動機ヲ電氣事業者ノ事前若クハ事後承認ヲ得スニ電路線ニ
 取付ケタ場合ハ濫リニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シタルモノニ該當スルト考ヘテ居リマストテ店頭ニア
 ル電動機ノコイルノ捲替ハ何等差支ナク唯捲替ヘタ電動機ヲ濫リニ電路線ニ取付ケタ場合ノミ電氣事
 業法ノ違反ニナルニテ被告ノ行爲ハ何等違反ニ非スト思考ス尙本件ノ如キ場合ニ於テ電動機ヲ需要家
 カ變更スル場合ニ於テ一馬力ニテ二臺ノ撚絲器カ回轉出來ルニ半馬力ニテ尙同様二臺回轉シ得ル様變
 更スル場合ニ於テハ電氣事業者モ不思議ト思ハサルヘカラサルモノニシテ之ヲ電路線ニ取付ケル際今
 一應検査スヘキヲ至當トスルモノニテ後段鑑定モ不當ト信スルモ關係薄キ故省略ス要ハ被告ノコイル
 ノ捲替ハ何等電氣事業法ノ違反ニ非ス三、然レハ右コイル捲替電動機ハ會社ノ再試験ヲ受ケル責任カ
 被告ニアルヤ否ヲ見ルニ電動機ノコイルノ捲替ハ原貞一郎外四名ノ各需要家ヨリノ依頼ニヨリ賣買又
 ハ交換シタルモノニテ需要家コソ再試験ヲ受ケル必要アレ被告ニ迄モ責任ヲ負擔サス理由ナシ況ンヤ
 需要家ハ皆口ヲ揃ヘテ再試験ヲ受ケル必要ナキコトヲ主張シタルニ於テオヤ即チ問被告ハ右電動機
 ノコイルヲ捲替ヘテ同會社ノ再試験ヲ受ケスニ原貞一郎ト交換シタノカ答ハイ原貞一郎カ再試験ヲ受
 ケナイテモ宜シイト云フタノテ前述ノ通り交換シタノテアリマス問同會社ニハ試驗濟電動機ニハ試験

濟ノ番號札ヲ付ケテ居タ事カラ考ヘテモ電動機ノ内部ヲ改造シタ場合ハ同會社ノ再試験ヲ受ケナケレハナラナイ譯テハナイカ答ハイ左様テアリマス私ハ需要家ノ依頼ニ依リ便宜私カラ同會社ニ電動機ノ再試験ヲ受ケス遺ツテ居リマシタカ普通ハ需要家カラ直接同會社ニ再試験ヲ依頼スルノテアリマストテ再試験ヲ受ケルハ需要家ナルコト明白ナリ然レハ被告ニハ再試験ヲ受ケル義務モナシ故ニ若シ責任アリトスレハ需要家カ其ノ責任ヲ負フヘキモノニシテ需要家ハ何等責任ナクシテ被告カ其ノ責任ヲ負ハサルヘカラサルコトハ何トシテモ理ニ合ハサル犯罪ト云ハサルヘカラス故ニ被告ノ行爲ハ無罪タルコトヲ確信スルモノナリ四、然レハ需要家中他ハ別トシテモ三木孫夫ノ分ハ同人ノ依頼ニヨリ電工ノ應援ヲナシ取付ケタルハ電氣工作物ノ施設ノ變更ニナルニ非サルカト云フ疑問アリ然リ電動機ヲ電線路ニ取付ケルハ會社ニ非サレハ爲シ能ハサル事ハ被告モ承知セリ然レトモ會社ニ對シ電動機ノ變更申請ヲ爲シ會社ノ電工カ之ヲ取付ケルニ際シ需要家ノ依頼ニヨリ不止得之カ補助ヲ爲シタルニ不過被告ノ行爲カ果シテ電氣事業法違反ニナルヤ小生ハ違反ニ非スト思考ス假リニ違反ナリトセハ何故主犯者タル依頼者三木孫夫ヲ罰セサルカ此レ等ノ點ヲ詳細ニ研究スルトキ依頼者ハ所謂サレス其ノ依頼ニヨリ補助ヲ爲シタル被告カ罰セラルル理何處ニカアラン故ニ本件一事ヲ以テ直チニ處罰スルハ當ラサルモノノ甚シキモノト云ハサルヘカラス五、然レハ次ニ起ル問題ハ鑑定人田中敏朗ノ鑑定ニ付如何ニスルカノ問題タリ鑑定人田中敏朗ハ問一般電動機ハ電氣工作物ナリヤ否ヤ該電動機ノコイルノ捲替ハ電

氣工作物ノ施設ノ變更ナリヤ否ヤニ對シ鑑定ノ結果電氣工作物トハ電氣事業法第二條ノ規定ニ依リ電氣ノ供給又ハ使用ノタメ施設スル器具機械等ノ工作物ニシテ電氣事業ノ用ニ供スルモノニ限定セラル仍テ商品トシテ店頭ニアル電動機ノ如キハ現ニ電氣事業ノ用ニ供セラレサルカ故ニ電氣工作物ニ非ス然レトモ一旦之カ使用場所ニ据付ケラレ電氣事業者ノ施設セル電線ニ接続シ運轉シ得ル状態ニ置カレタルトキハ電氣工作物トナルトテ明ニ店頭ニアル電動機ハ電氣工作物ニ非ス從テ之カコイル捲替スル如キハ電氣具商人ハ充分爲シ得ルモノト解スルヲ相當トス然ルニ後段ニ於テ電氣事業者ハ法令ニ依リ電氣供給ニ伴フ危険防止ニ付責任ヲ有スルモノナルカ故ニ電氣工作物ヲ施設スルトキハ其ノ安全ナルヲ確メタル上送電スルヲ常例トス然ルニ若シ他人カ該電氣工作物ヲ無斷ニテ變更スルコトヲ禁止セラレサルニ於テハ電氣事業者ハ到底完全ニ此ノ責任ヲ全ウスルコト不可能ナルカ故ニ電氣事業法第三十條ハ罰ヲ以テ之ヲ禁止セルモノナリ而シテ電球ノ如キモノハ何人カ之ヲ取外シ或ハ之ヲ取付クルモ別段危険ヲ生スルコトナキニ鑑ミ其ノ取付ケ取外シシレハ從來電氣工作物ノ施設變更ト見ラレサルモ電動機ノ取付ケ取外シシレハ安全ニ之ヲ行フコト難ク殊ニコイルハ電流ノ通スル重要ナル部分ニシテ其ノ構造ノ不完全ナルトキハ發火漏電等ノ災害ヲ惹起スルコトアルモノナレハ之ヲ一般人カ捲替ヘスルカ如キハ絶縁ヲ損シ或ハ發熱ヲ生シ易ク危険ヲ伴フ懼アレハ當然禁止セラレヘキコトナリ電氣事業法第三十四條ニ所謂電氣工作物ノ施設ノ變更ハ斯ル場合ヲ指スモノト解スヘク依テ本件ノ如キコイル

ノ捲替ハ電氣工作物ノ施設變更ト認ムトテ暗ニ理論ヨリ割出シ斯ク解釋スルヲ相當トスト云フニテ前陳鑑定人三宅豊ト鑑定ニ於テ反對ノ結果トナレルハ注目ニ價スルモノニテ要ハ工作物ノ施設ノ解釋如何ニヨリテハ甲トモナリ乙トモナル如キ際ニ於テハ羅馬法以來ノ格言ニヨリ疑ハシキハ被告ノ利益ニ問ヒトアル如ク被告ノ有利ニ解スルヲ相當トス又之ヲ常識ヨリ考ヘルモ電氣器具商人ハ相當電氣ニ付テハ相當技術ノ心得アル者ト云フヘク且店頭ニ竝ヘアル電動機ノ如キ商品迄モ電氣工作物ナリト云フニ至リテハ何人モ之ヲ首肯シ能ハサル處ニシテ斯クテハ電氣器具商人ハ不必要ニシテ何等電動機(牽ヒテハ已テノ電氣器具)ニ對シテハ改造ヲ加ヘルコト能ハサル結果トル豈スル理アラシヤ故ニ本件電動機ノ「コイル」ノ捲替ハ電氣工作物ノ施設ノ變更ニ非ス牽ヒテ右電動機ヲ電路線ニ接續シ送電裝置ナリ茲ニ始メテ電氣工作物トナルモノニシテ原審ハ徒ニ法律ノ解釋ヲ誤リ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ認ムルニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノトスト云フニ在レトモ

【要旨】

原判決擧示ノ證據ヲ綜合スレハ判示事實ヲ認ムルニ十分ニシテ記錄ヲ精査スルモ原判決ノ事實ノ認定ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナシ而シテ原判示事實ハ被告人ハ判示會社ヨリ電力ノ供給ヲ受ケ燃絲業ヲ營メル原貞一郎外四名ヨリ強力ナル電動機ト交換若ハ買入ノ註文ヲ受クルヤ同人等カ其ノ儘各工場ニ取付使用スルモノナルコトヲ知り乍ラ同會社ノ試験濟番號札ノ付シアル各判示電動機ノ「コイル」ヲ捲替ヘ銘板掲記以上ノ過負荷ニ堪ヘ得ル様加工シ捲替ノ情ヲ知ラサル同人

等ヲシテ同會社ノ承諾ヲ得ス之ヲ同會社ノ送電線ニ各接續取付ケシメタルモノナリト云フニ在リテ被告人カ單ニ自己ノ店頭ニ置ケル販賣又ハ交換ノ用ニ供スル電動機ノ「コイル」ヲ捲替ヘタリト云フニ止マラス然リ而シテ判示事情ノ下ニ判示電動機ノ「コイル」ヲ捲替ヘテ判示ノ如ク加工シ捲替ノ情ヲ知ラサル原貞一郎外四名ヲシテ濫ニ判示會社ノ送電線ニ各接續取付ケシメタルハ電氣事業法第三十四條(舊電氣事業法第十九條)ニ所謂濫ニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シタルモノニ該當スルカ故ニ原判決カ同法條ヲ適用處斷シタルハ正當ニシテ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事平井彦三郎關與

○織物消費稅法違反被告事件

(昭和九年(九)第八五九號
 同年九月二十九日第三刑事部判決 棄却)

他ノ事件ノ上告趣意書引用

【上告人】 被告人 谷口 一郎 辯護人 (吉見高台 原田頼吾)
【第一審】 京都區裁判所 【第二審】 京都地方裁判所

○ 判示事項

他ノ事件ノ上告趣意書引用

○ 判決要旨

他ノ刑事部ニ繫屬セル他ノ事件ノ爲ニ他ノ被告人ヨリ提出セル上告趣意書ヲ引用シ又ハ他ノ事件ノ記録ヲ自己ノ上告趣意書ニ於ケル上告理由ノ證據ニ引用スルカ如キハ法ノ許容セサル所ナリ

【参照】 刑事訴訟法第四百二十五條 上告趣意書ニハ上告ノ理由ヲ明示スヘシ

訴訟手續ノ法令ニ違反スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ違反ニ關スル事實ヲ表示スヘシ

第四百十二條及第四百十四條ノ場合ニ於テハ訴訟記録及原裁判所ニ於テ取調ヘタル證據ニ現ハレサル事實ヲ援用スルコトヲ得ス

第四百十三條ノ場合ニ於テハ事實ヲ表示シ其ノ證據ヲ差出スヘシ

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ第一事實ニ付罰金四千九百五十六圓三十一

一錢ニ、第二事實ニ付罰金百三十五圓四十錢ニ各處ス右各罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ前者ニ付二百日間後者ニ付五十日間勞務役場ニ各留置ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ

第一、京都市上京區紫野上柏野五十三番地ニ於テ織物製造業ヲ營ム者ナルトコロ同市同區黒門通中立賣下ル森祐造ヨリ賃織方依頼ヲ受ケ昭和七年七月十三日頃ヨリ翌八年八月十五日頃迄ノ間右各工場ニ於テ絹織物リング肩掛四千二百七十二枚同モナミ紋ベルベット肩掛二千四百六十九枚同風通肩掛五百七十枚同紗織春肩掛九百三十八枚袖絲リング肩掛九百四十三枚毛絲肩掛二百十四枚モナミ肩掛二百八十枚此ノ税込價格合計金一萬二千五百三十一錢相當ノ物ヲ製造シ之ヲ其ノ頃豫メ政府ノ承認ヲ受ケス又擔保ヲ提供セスシテ消費稅未納ノ儘順次依頼主森祐造ニ引渡シ

第二、政府ニ申告セスシテ同市同區上柏野町四十二番地ニ分工場ヲ設ケ昭和八年七月十九日ヨリ同年八月十四日頃迄ノ間同所ニ於テ前記森祐造ヨリ賃織方依頼セラレタル絹織物風通肩掛百六十四枚此ノ税込價格金三百二十八圓相當ノ物ヲ製造シ

タルモノニシテ右第一及第二ノ所爲ハ各犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ所爲ハ織物消費稅法第十一條第十七條第五號刑法第五十五條ニ判示第二ノ所爲ハ織物消費稅法第十二條第十七條第一號刑法第五十五條ニ各該當スルヲ以テ織物消費稅法

第十九條ニ依リ被告人ヲ各所定ノ罰金(織物消費税法第二條所定ノ税金カ加算セラレタル前記價格ヨリ稅拔價格ヲ算定シ之ニ百分ノ九ヲ乘シテ得タル數額ヲ更ニ五倍シタルモノ)ニ處シ右各罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ主文第二項揭記ノ各期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス
尚ホ本件上告ノ辯護人ハ後記理由所載ノ如キ上告趣意書ヲ提出シタルモノナリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人吉見高治 原田頼吾上告趣意書第三點本件ニ關シテハ當該記錄ノ外ニ目下御院第四刑事部ニ繫屬中ニシテ來ル昭和九年九月十一日公判期日ナル同年(レ)第八五八號四方要三郎織物消費税法違反上告事件ノ記錄(上告趣意書ヲ含ム)ヲ本件ノ證據ニ引用仕候本件ハ御院ニ於テ更ニ事實審理可然ト相考候ニ依リ其ノ理由ヲ左ニ略述可仕候前揭四方要三郎ノ上告事件ノ趣意書中ニ詳述シタル如ク本件被告及四方要三郎共ニ(京都市西陣ノ製織地ニ於テハ此ノ二人ノ者ト同職ナル賃織業者ニシテ同様ノ地位境涯ニアル奴隸的弱者ハ數萬モシクハ時ニ十數萬ヲ以テ數ヘ而シテ森祐造ノ如キ巨萬資力ヲ有スル奸惡ナル少數ノ事實上ノ賃織依頼者ノ命令下ニ全然抵抗無能力ナル可憐ノ存在トシテ漸クニ糊口ヲ續

ケ居ル者ニ過キササルナリ)極貧ナル生活ヲ營ミ居ルモノニシテ十圓二十圓ノ僅少ナル罰金サヘ納付ニ難スルモノナレハ之等ニ課稅又ハ科罰シタリトテ稅法ノ目的ヲ達スル能ハサルコトハ始メヨリ明察シ得ラルトコロナリ而シテ稅法ノ正當ナル解釋上本件事犯ニ對シテハ森祐造ヲ納稅義務者トシテ之ニ納稅ヲ命シ又ハ科罰シ得ヘキニ拘ラス何カ故ニ收稅當局者ハ此處ニ出テサリシヤ了解ニ苦シムトコロナリ現ニ本件ノ證據トシテ森祐造方ニ現在セル本件織物ノ一部トシテ收稅吏ニヨリ差押ヘアル肩掛織物ハ其ノ實被告カ製造セルモノニハアラスシテ全ク森祐造カ彼ノ自家工場ニ於テ製造シ又ハ他ニ依頼シテ製造セシモノナリ被告ノ妻カメハ其ノ現物ヲ實見シ居リテヨリ之レヲ承知シ居レリ蓋シ肩掛織物ハ其ノ製造工場ノ異ナルニ從ヒ各自其ノ織技及製品ニ特徴アリテ其ノ各工場主又ハ主ナル從業者等ハ一見直チニ自家製品ヲ鑑別シ得ルカ故ニ甲乙製品ヲ混同シテ胡魔化シ又ハ偽裝セントスルモ能ハサルカ故ナリ從ツテ事實審理御開裁ヲ仰キ得ハ森祐造カ惡計ヲ廻ラシ無力ナル被告等ヲ利用シテ自ら脫稅ヲ敢テシ不正ニ莫大ノ利益ヲ收メ居ル事實判明致スヘク稅法ノ目的初メテ達成セラルヘキヲ信シ居リ候以上ノ理由ニヨリ適當ナル御裁判有之度候ト云フニ在レトモ

【要旨】 他ノ刑事部ニ繫屬セル他ノ事件ノ爲ニ他ノ被告人ヨリ提出セル上告趣意書ヲ引用シ又ハ他ノ事件ノ記錄ヲ自己ノ上告趣意書ニ於ケル上告理由ノ證據ニ引用スルカ如キハ法ノ許容セサル所ナルノミナラス所論原判示第一事實ニ於ケル織物類カ被告人ノ工場ニ於テ製造サレタルモノナルコト被告人ノ原審公

他ノ事件ノ上告趣意書引用

廷ニ於テ自認スル所ナリトス記録ニ徵スルモ其ノ點ニ關シ原判決ニ誤判アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由アルコトナシ然リ而シテ原判示ノ如クナル以上該織物消費税ノ納稅義務者カ其ノ製造業者タルコト前論旨ニ對シ説明ノ如クナルヲ以テ稅務官吏ニ於テ稅法ノ解釋ヲ誤リタルモノト云フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事棚町丈四郎關與

○恐喝同未遂傷害被告事件(昭和九年(九)第九〇〇號 棄却)
(同年十月六日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 佐久間次良 外七名

【第一審】 山形地方裁判所 【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

多衆ノ威力ヲ示シタル恐喝罪ノ擬律

○判決要旨

多衆ノ威力ヲ示シ恐喝ヲ爲シタルトキハ單ニ刑法第二百四十九條ノミテ適用スヘキモノトス

【參照】 暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條 團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ、團體若ハ多衆ヲ假裝シテ威力ヲ示シ又ハ兇器ヲ示シ若ハ數人共同シテ刑法第二百八條第一項

第二百二十二條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

常習トシテ前項ニ掲クル刑法各條ノ罪ヲ犯シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

同法第二條 財産上不法ノ利益ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ前條第一項ノ方法ニ依リ面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

常習トシテ故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

刑法第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

多衆ノ威力ヲ示シタル恐喝罪ノ擬律

○事實

一一八四 (一四〇)

第二審ハ被告人佐久間次良ニ對シ後記理由中ニ摘示スルカ如キ事實ヲ認定シ且意思繼續ニ係ルモノトシ刑法第二十一條第五十五條第六十條第二百四十九條ヲ適用シ同被告人ヲ懲役一年六月ニ處シ未決勾留日數中百五十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

○主文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理由

被告人佐久間次良上告趣意書第一、本件事件カ惹起サレタ當時ノ特殊のナ社會事情ニ就イテ原判決ノ認定カ不充分ナルコト(一)本件事件カ起キタ當時即チ昭和五年末ハ未曾有ノ恐慌ニ襲ハレマシタ農民階級ノ一般的窮乏ニ就イテハ茲ニ申述ヘル迄モナク充分ニ御承知ノコトト思ヒマス只昭和五年ハ所謂農作飢饉ナル言葉カ創造サレタ年テアリマシテ豐作テアツタニ拘ハラヌ秋米ハ五圓臺ニ滿モ急激ニ四、五圓臺ニ低落シタノテアリマス農民ハ夏ニ飯米ニ窮シテ商店等カラ借りテ食シテキタモノカ秋ニハ一俵ノ借ニ對シテ二俵ヲ支拂ハネハナラナイ様ナ状態ニ陥ツタノテアリマス又春ニハ比較的高價ナ肥料ヲ借金シテ買入レテキマスソレヲ支拂フニモ繭米等ノ暴落カラシテ從來ヨリモ二倍以上モノ生産物ヲ以テシナケレハナラナイトイフ破目ニ陥ツタノテアリマス(二)借金ノ農民生活ニ對スル脅威

借金問題カ日本ノ農民問題ニ於テ最モ重大ナルモノノ一ツトナツテ居リ農民生活ヲ如何ニ深刻ニ脅カシツツアルカモ亦充分御承知ノコトト思ヒマス若シモ地方テ發行サレル地方新聞ヲ一見スルナラハ其處ニハ日々一或ヒハ二件ノ農民ノ自殺ヲ必ス報道シテキルテセウソシテソノ原因トシテ悉ク「積ル借財ヲ苦ニシテ」トノ文字ヲ見ナケレハナラナイテセウ此ノ事實タケテモ彼等ノ生活カ如何ニ借金ニ脅カサレテキルカトイフ事ノ一半ハ視ヒ知ルコトカ出來ルト思ヒマス(三)本件事件ノ惹起サレタ地方ノ農民ハ山形縣下ニ於テ最モ窮乏カ甚シイノテアリマス耕作反別ハ平均田畑合シテ七、八反歩弱テ全縣ノ平均ハ勿論全國ノ夫ヨリモ遙カニ狭少テアリマス小作料ハ又之ニ反シテ割合ニ高率テス一反歩ニツキ普通三俵半位テスカ水利設備ノ不完全其ノ他ニヨリ土地カ惡ク收穫ハ割合ニ少クコノ狭少ナル耕作地ヲ以テシテハ到底生活ヲ賄ヒ行キ得ナイコトハ明ナ事實テス一般的ナ農民ノ窮乏カ已ニ問題ニナツテキル際コウシタ條件ノ惡イ地位ニ在ル農民カ一層苦シイノハ言ヲ俟チマセン當地ノ農民達ハ悉ク床板ヲ張ツテ居ラス土間ニ藁糶殻ヲ敷キ其ノ上ニ藁ヲ敷イテ起居シテキマス耕作用ノ馬ヲ飼役シテキル家ハ一割ニモ充タナイ様ナ有様テスマヲ買ヒ入レルニモ飼料ヲ得ルニモンノ餘裕カナイカラテス又薪ヤ炭等ヲ買入レルコトノ出來ナイ爲ニ藁ヲ焚イテ炊事シテキルノテ堆肥等サヘモ造ルコトカ出來ナイノテス本事件ニ依リ刑務所ニ勾留サレタノハ八十五名ノ多數ニ上リソノ中七十名以上ハ農民テスカ其ノ人達カ保釋出所スルト刑務所ノ印象トシテ先ツ第一ニ語ツタコトハ刑務所ノ食物カ自分達ノ食

多衆ノ威力ヲ示シタル恐喝罪ノ擬律

一一八五 (一四一)

物ニ比ヘテ如何ニ上等ナモノテアルカトイフ事タツタソウテスカ此ノ事實ハ之等ノ人々カ日常如何ニ慘メナ食物ヲ攝ツテキルカヲ充分ニ物語ツテ餘アルモノテセウ此ノ人達カ特ニ甚シイ窮乏ニ瀕シテキルカトイフ事ニ就イテハ實際其ノ地ニ本事件ノ爲ニ出張シタ山形地方裁判所ノ判檢事諸氏カ私共ヲ取調ヘルニ際シテ口ニセラレテ居ツタノニ判決ニ於テハ何等此點ニ觸レテキナイノテアリマスコノ特殊の窮乏ニ對シテ原判決カ何等言及シテ居ラレナイトイフ事ハ本件事件カ如何ナル事情ノ下ニ如何ニシテ惹起サレタカトイフ事ヲ充分ニ正シク認識シ得ナイ誤謬ニ陥ラシメテキルノテアリマス(四)次ニ私共カ借金ノ棒引ヲ要求スルニ至ツタ非常ニ大キナ動機トシテ以上ノ如キ農民ノ窮乏ト同時ニ本件被害者タル地主ヤ高利貸達カ此ノ窮乏ヲ何等顧ミス益々ソノ追及ヲ嚴ニシツツアツタトイフ事實ヲ原判決ニ於テハ見逃シテキルノテアリマス農民達カ前述ノ様ナ窮乏ニ陥リ昭和五年秋ニ至ツテハ借金ノ利息サヘモ全ク支拂ヒ得ナイ立場ニ陥ツタノテアリマスカ彼等地主高利貸達ハ之ヲ見テソノ債權ノ督促ニ一層ノ拍車ヲ加ヘ動産ノ差押競賣等ノ手段ニ訴ヘツツアツタノテアリマス此ノ事カ如何ニ農民達ヲ脅威セシメテキタカハ充分御推察シ得ルコトと思ヒマス然ルニ原判決ニ於テハ何等此ノ點ニ思ヒヲ致サスヒタスラ私共一部ノ者ノ煽動ヤ農民達ノ誤ツタ考ヘ方カラコノ事件カ惹起サレタモノテアルト論斷セラレテキルノテアリマスカコレハ重大ナル錯誤テアルト思ヒマス第二、原判決ハ借金棒引トイフコトヲ特別ニ不法極マルモノテアルトシテキル點ニ就イテ(一)農民カ借財ヲ負フ様ニナツタ原因

一體農民カ借金ヲシナケレハナラナイノハ一ツニハ地主ヨリ小作地ノ返還ヲ迫ラレ之ヲ返還スレハ一家破死シナケレハナラナイ様ナ立場ニ當ニ置カレテキル爲ニ此ノ小作地取上ノ危險ヲ遁レントシ或ハ又此ノ點ニ乘スル地主ノ奸策ニ乗セラレテ借金ヲシテ小作地ヲ買ヒトルノテス他ノ場合ハ大部分肥料資金ノ調達及生活費ノ缺乏ノタメニ借金ヲ作ル様ニナルノテスカ最モ好景氣ニ恵マレタ時代ニアツテスラ收益ヲ充分ニ得テ貯蓄スル等トイフコトハ到底出來ナカツタノテ其ノ後連年ノ不景氣ニ生活費ヤ經營費スラモ償ヒ得ナイ事情ノ下ニ置カレテ借金ハ年々嵩ミ而モ利子ノ支拂ヒサヘモ出來ナイノテ更ニ元金ニ加フルニ苛酷ナル利子カ加重サレテ來タノテアリマスコウシタ情勢ハ單ニ本件事件ニ關係シタ人達ノ怠惰、經營等ノ失敗ナトニ依ルモノテハナク一般農民ニトツテモ亦同様テアルコトハ明カテス此ノ農民ノ借金ハ故ニ農業組織ノ根本的ナ缺陷カラ生シ來ルモノテス(二)此ノ借金ハ棒引ニ依ツテ債務ヲ抹殺シテ貰フ以外ニ道カナイコト——私共ハ最初米糶等ノ暴落ニ依リ借金ノ利子支拂ニサヘ窮シテ一同種々對策ヲ協議シタノテアリマス何トカシテ此ノ窮狀ヲ脱セン爲ニ一時借金ノ支拂ヲ延期シテ貰ヒ三年ナリ五年ナリノ間待ツテ貰ヒタイト考ヘタノテアリマスカ其ノ期間ヲ過キテ果シテ支拂ヒ得ルヤ否ヤ考ヘタ時到底支拂ヒ得ナイコトハ餘リニモ明カタツタノテス何トナレハ前申上ケタ様ニ比較的景氣ノ好カツタ時代ニサヘ餘裕等ハ全クナク現在ノ借金カソノ時代カラ次第ニタカマツテ來タモノナノテスカラ三年ヤ五年ノ間ニ此ノ情勢カ全然改メラレル等トハ考ヘラレナカツタカラテス現ニ

其ノ後益々窮乏ニ追ヒ込マレテ來タコトハ現在ノ事實カ最モヨク之ヲ物語ツテ居リマスソノ金融狀態ノ一部ヲ見ルナラハ今ヤ完全ニ杜絶シ多クノ無盡講(之ハ農村ニ於テ可成リ重要ナ金融機關ヲナシテキルモノテアリマス)ハ休講シ借入ニモ支拂ヒニモ全クソノ途ナク事實上ノ自然的ニ如何トモ動キノトレナイモラトリアム狀態ニ陥ツテキルノテアリマス當時私共ハコウシタ狀態ヲ考ヘタ時此ノ借金ヲ全クナイコトニシテ棒引シテ貰フ以外ニ途カ無カツタノテス即チ借金棒引ノ運動ヲ起シタ次第デアリマス(三)然ルニ原判決ニ於テハ借金ノ棒引ヲ要求スルトイフコトハ何カシラ不穩極マル要求デアリ燒打シロトカ毆レトカ等トイフ事ト同様ニ考ヘテ特ニ嚴罰スヘキコトヲ主張セラレテキルノテアリマス現ニ國民同盟其ノ他種々ノ團體ニ依ツテ借金ノ數年間ノ支拂延期等カ當然ノコトトシテ主張セラレ又其ノ後金錢債務臨時調停法ノ如キ法律カ制定サレテ借リタ丈ケノ金額ヲ其ノ儘如何ナル事情ノ下ニ於テモ必ス返済シナケレハナラナイトイフカ如キ債權ノ絕對性ハ否定サレテ事情ニ依ツテハ債務ヲ適宜ニ量定スルコトヲ司法權ヲ以テ調停スルトイフ事ニナツテ來テキルノテアリマス然ルニモ拘ハラヌ本件事件ニ對スル原判決ハ飽クマテ債權ノ絕對性ヲ主張スル立場ニ立ツテ居リ借金棒引トイフ要求ヲ無法ナ矯激ナルモノト斷定シテキル點ニ於テ本件事實ノ認定ハ重大ナル錯誤ヲ犯シテキルモノト思料セラレマス(四)借金棒引ヲ債權者ニ對シテ要求スルコトハ正當ナル權利テアリ合法的デアリマス

右ノ如ク農民カ食フニモ食ハレス借金支拂等ノ方途全ク無イ様ナ立場ニ立至ツタ際ニ借金棒引ヲ

要求シタ私共ノ行動ハ正當ナル生活權ニ立脚シタモノテアリ社會的ニモ又法律的ニモ何等排撃セララルヘキ性質ノモノテハナイト思ヒマス第三、本件事件ニ於ケル私共ノ行動ヲ原判決ハ正當ナル社會運動トシテ認メテキナイ點(一)農民運動労働運動合法性ニ就イテ——労働者カ職首反對或ハ待遇改善等ヲ叫ンテ團結シテ立チ罷業其ノ他ノ手段ニ訴ヘテ自己ノ要求ヲ貫徹セントシテ戰フ場合之ヲ一ツノ合法的ナ社會運動トシテ看做スコトハ常識デアリマス小作人カ不作又ハ不景氣等ニ依ツテ生活カ困窮シ自己ノ生活權擁護ノ爲ニ地主ニ對シテ小作料ノ減額ヲ要求シ或ハ地主ヨリ小作地ノ返還ヲ迫ラレタ場合ニソレカ直ニ農民ノ生活根底ヲ脅カスモノトシ土地取上反對ノ運動ヲ起スコトモ亦労働者ノ場合ト同様ニ合法的ナル社會運動トシテ認メラレテキルノテアリマス然ルニ本件ニ對スル原判決ハ此労働運動又ハ農民運動トハ一種異ツタ何カシラ暴動的行動トシテ本件ヲ取扱ヒ正當ナル社會運動トシテ取扱ツテ居ラレナイノテアリマス(二)共產主義的煽動トイフコトト暴動的行動トヲ原判決ハ混同シテキルノテアリマス——本件ハ前述ノ如クトウシテモ止ムニ已マレヌ農民ノ心カラノ要求トシテ捲キ起サレタノテアリマス然ルニ原判決ハ之ヲ私共一部ノ共產主義者カ近視眼的ナル激越ナル主張ノ下ニ現下ノ社會組織ヲ急激ニ變革セントスル意圖ノ下ニ煽動シタ結果惹起サレタモノテアルカノ如ク考ヘテキルノテアリマス然シ乍ラ共產主義的戰術カラ言ツテモ大衆ノ要求カラ駈ケハナレタ所謂過激ナル煽動ヤ宣傳ハ自ら自己ヲ社會カラ孤立セシメルモノトシテ常ニ排撃サレテキルノテアリマス私共カ當時

借金棒引ノスローガンヲ掲ケタノハソレカ大衆ノ眞ノ要求テアリ従ツテ又ソレノミカ農民ノ借金問題ノ眞實唯一ノ解決策テアルカラコソテアリマス共產主義者ハ常ニ鬭争ノ激化トイフコトヲ叫ンテ居リマスソノ際彼等ハ決シテ個々ノテロリスムヤ小兒病的スローガンヲ意味シテキルノテハアリマセンソレハ廣汎ナル大衆ヲソノ指導下ニ動員シテ地主資本家ニ對シテ自己ノ要求ヲ提出シテ戰フコトヲ意味シテキルノテアリマスソシテ如何ニシテ廣汎ナル大衆ヲ自己ノ指導下ニ動員スルコトカ出來ルカト言ヘハ彼等カ大衆ノ日常利益ノ爲ニ常ニ先頭ニ立ツテ勇敢ニ戰フコトテス常ニ大衆ノ日常利益ト共ニアルコトソレカ彼等ニトツテノ決定的ナ要件テス私共モ亦當時借金棒引ト云フコトカ農民ニ取ツテ唯一ノ借金問題ノ解決策テアリ従ツテ農民ノ眞實ノ利益テアルカ故ニソノ故ニコノスローガンヲ掲ケタノテアリマス此ノ點飽クマテモ他ノ爲ニセントスル目的ノ爲テハアリマセン然ルニ原判決ニ於テハ一ニ私共ノ惡意ノ煽動ニ依ルモノトセラレテキル點ニモ亦大キナ誤認カアルノテアリマス第四、大衆行動ヲ單ナル脅退手段テアルト誤認セラレテキル點ニ付イテ(一)大衆行動ニ對スル當時ノ私共ノ考ニ就イテ——現在ノ社會ニ於テハ勞働者ヤ農民ハ非常ニ苦シメラレテ居リ權取ト壓迫ノ下ニ置カレテ居リマス此ノ立場ノ下ニアツテ自己ノ地位ヲ改善スル爲ニ種々ノ要求ヲ持ツテ居リマスソノ要求カ如何ニ眞實ナモノテアリ如何ニ多クノ大衆カ支持シテキルモノテアルカラ表明スルニ最モイイ手段ハ大衆行動テアルト私共ハ考ヘテ居タノテアリマス故ニ私共ハ當地ニ於テ農民運動ヲ始メテ以來數年間常ニ大

衆行動ヲ採用シテソノ時々ニ於ケル私共ノ要求カ農民ノ心カラノ要求テアリ農民大衆全部ノ支持ヲ得テキルノテアルト云フコトヲ社會ニ充分ニ表明スル様ニ努メテ來タノテアリマス小作人カ地主カ小作地返還ヲ請求サレタ場合此ノ土地取上ニ反對スル爲出來ルタケ多クノ農民ヲ動員シテ其ノ土地ノ共同作業ヲ行ヒマシタソシテ私共ハ固ク團結シテソノ土地ヲ飽クマテ死守スル決意ヲ強ク聲明ノマシタ又小作料ヲ減額シテ貫ヒ度場合ハソノ地主ノ小作人ヲ出來ルタケ多ク動員シテ全部ノ人カ出カケテ行ツテ交渉スル様ニシマシタ少數ノ代表者ヲ立テテ交渉スルコトハ可成ナラハ避ケテ來マシタソレハ相手方ヲシテソノ要求カ一部ノ者ノ策動ナトニ依ツテ起サレテキルニ過キナイカノ様ニ考ヘサセ全部ノ人カ熱心ニ要求シテキルノテハナイト思ハセル様ナ場合カ多イカラテス又或時ニハ所々ニ演說會等ヲ開イテソコニ出來ルタケ多クノ農民カ集マリ彼等自身演壇ニ立ツテ自分達ノ要求カ正當ナモノテアルコトヲ主張シ此ノ要求ヲ拒絶セントスル地主ノ主張ハ大衆ノ利益ヲ蹂躪シテ一身ノ利慾ノミヲ圖ラントスルモノテアリ従ツテ如何ニ社會正義ニ悖ルモノテアルカラ叫ヒ聽衆ハ之ニ呼應シテ氣勢ヲ上ケマシタ又ビラヤポスター等ニ依リ自分達ノ要求ヲ廣ク宣傳シ多クノ大衆ヲ動員シテ街頭ニ示威行進ヲ組織セントシマシタ此ノ場合ニハ可成數日前ヨリ公然ト宣傳シ警察ニモ届出マシタ公然ト充分ニ宣傳シテ行フコトニ依ツテソレタケ多クノ大衆ヲ動員スルコトカ出來ルシ廣ク自分達ノ要求ヲ大衆ノ前ニ表明スルコトカ出來ルカラテス以上述ヘマシタ様ナ大衆行動ノ目的ヲ以テ本件ニ於ケル借金棒引ニ際シ

テモ私共ハ關係者ノ出來ルタケ多ク共ニ出掛テ相手方ト交渉シマシタ然ルニ原判決ハ私共カ大衆行動ヲ只單ニ相手方ヲ畏怖セシムル目的テ行ツタト云フ見解ニ立ツテキルノテアリマス然シ乍ラ私共ノ大衆行動ノ目的ハ以上ノ様ナ意圖ノ下ニ行ハレタモノテアリ借金棒引運動ニ際シテ大勢テ行ツテ交渉シタノモ斯ウシタ意味ト目的トノ下ニ爲サレタモノテアリマス此ノ點原判決ハ誤ツタ見解ニ立ツテキマス(二)大衆ノ威力ト云フ言葉ニ付イテ原判決ノ誤認シテキル點ニ就イテ——原判決及豫審決定書ニ於テハヨク大衆ノ「威力ヲ示シテ」ト云フ言葉カアリマスカソレハ甚タ抽象的ニ使ハレテ居リ私共カ大勢シテ如何ナル亂暴モ致シ兼ネマシキ勢ヲ示シタカノ如ク言ハレテ居リマス此ノ點甚タ誤ツテ居リマス甚シキハ大勢テ行ツタケテ只ソレタケテモ相手方ニ恐怖ヲ與ヘルニ充分タト言ツテキマスカ甚タ誤ツタ認定ト思ヒマス一般社會生活ニ於テ又何等カノ運動ニ於テ多數ノ人々テ相手方ニ交渉スルト云フコトハ多クアルコトテスソレハ前述ノ如ク多クノ人カ心カラ熱心ニ要求シテキルト云フコトヲ示スコトカ出來ルカラテスソシテ又一般ニ少數ノ代表者等ニヨルヨリモ遙カニ效果的テ本件ノ被害者ハ口ヲ揃ヘテ私共カ大勢テ交渉ニ行ツタ時ニハ非常ニ恐ロシカツタト述ヘテキルシ原判決ハ之ニ從ツテ大勢テ行ツタノハ相手方ヲ畏怖セシメタノタト判定サレテキマスカ然シ幾等大勢テ行ツタカラト言ツテモ相手カ物判リノイイ大膽ナ人テアルナラハ驚カナイテセウシ臆病ナ蒙昧ナ者テアルナラハ一人テ交渉ナトヲサレテモ恐レルカモ知レマセン然シ乍ラ幾等相手方カ恐レタカラトテ單ニソレタケカ

ラシテハ相手方ヲ喝シタコトニハナラナイト思ヒマス大衆ノ威力ト云フコトニ對スルコノ曖昧ナ考ヘ方カ本件事實ノ認定ヲ誤ラシテキル點ヲ茲ニ指摘シマス(三)私共カ相手方ニ對シテ大勢テ屢々交渉シタコトニ對スル原判決ノ誤認——大勢テ交渉ニ行ツタ理由ニツイテハ前述ノ大衆行動ニ付イテ述ヘタ通りテアリマスカ交渉ノ目的ニ付イテハ原判決ニ於テハ借金棒引ノ要求ヲ何トカシテ承諾サセナケレハナラナイ而モソウシタ要求ハ誰シモ容易ニ承諾スルモノテハナイソレヲ強イテ承諾サセル爲ニハ大イニ脅威サセナケレハナラナイタカラ大勢テ押し掛ケテ強談シタノタト言ツテ居リマス此ノ點モ亦事實ヲ誤ツテ認定シテキマス私共カ相手方ニ交渉スル際ニハ大衆行動ニ就イテ述ヘタ様ニ農民達カトシテ困ツテキルカ又借金ノ支拂能力カ全クナイコトコナ際ニ貸シタ金タカラト云ツテトウシテモソレヲ返済サセネハナラナイト云フ債權者ノ要求カ如何ニ無理ナモノテアルカ等色々ト相手方ニ申述ヘテ何トカシテソノ諒解ヲ得テ圓滿ナ解決ヲ得ル様ニ努メタノテ到底承諾シソウモナイコトヲ幾度モ大勢テ交渉ニ行クノハ諒解ナトト體裁ノイイ事ヲ言ツテモ矢張り相手方ヲ畏怖セシムル目的ニ過キナイトオ思ヒニナルカモ知レマセンカ決シテソナ考ヘカラテハナク幾度モ話シ合フコトニ依ツテ私共ノ實情ト誠意トヲ相手方ニ納得サセルコトカ出來ルタラウト信シタカラテスソレニ私共ハ必シモ相手方ヲシテ借金棒引ヲ承諾サセルコトノミヲ唯一ノ目的トシテ居ツタノテハナイノテ私共斯ウシテ絶エス熱心ニ借金問題ノ運動ヲ展開シテ村カラ村ヘ廣汎ナ大衆ヲ此ノ運動ニ動員シテ強大ナ輿論

ヲ喚起スルコトニ依ツテ遂ニ債權者達ヲシテ飽クコトナキ貪慾サヲ以テソノ債權ヲ楯ニ何處マテモ債務者ヲ追及シ差押ヲシテマテモ取立テルト云フ遺方カ社會正義ニ反スルモノテアルト云フ自覺ヲ與ヘシメソウシタ行動ヲ採リ得ナイ様ナ立場ニ追ヒ込テ行クノカ私共ノ目指ス所タツタノテステスカラ個々ノ交渉ニ於テ相手方カソレヲ承諾スルカトウカト云フコトハ私共ニ取ツテソウ大シタ問題テハナカツタノテステスニモ拘ラス原判決テハ私共カ無理矢理ニモ要求ヲ貫徹セントシテ交渉ニ當ツタト解シテキルノテアリマス第五、個々ノ事實ニ對スル誤認(一)豫審終結決定書記載第一ノ事實ニ付イテ(イ)小作地ニ對スル敷金ノ性質ニ付イテノ誤認——地主奥山八藏カ小作人浪波佐助ニ對シテ昭和二年七月ニ至リ從來數十年間殆ント何ノ問題モナク經過シテ來タモノテアルニモ拘ラス突然小作地ニ敷金ヲ出セ若シ出サナケレハソノ小作地ヲ取上ケテ他ニ貸付ケルト喝サレテ浪波ハ小作地ヲ取上ケラレテハ一家ノ生計ヲ立テテ行クコトカ出來ナイノテ止ムヲ得ス此ノ地主ノ要求ニ從ツテ敷金トシテ五十圓ヲ提供シタノテアリマス豫審終結決定並ニ原判決ニ於テハ小作地ニ對スル此ノ敷金ト云フモノヲ合法的ナ擔保トシテ認メテキルノテアリマスカ此ノ點ハ誤リテスソレハ小作人カ小作料ヲ不納スルカモ知レナイカラソノ場合ニモ地主ハ損害ヲ蒙ラナイ様ニ取ツテ置ク擔保カ敷金テアルト云フノテセウ然シ乍ラ第一ニ小作人ハ如何ナル場合ニモ地主ノ承諾ナシニハ決シテ小作料ヲ不納ニハシナイノテステ飯米カ無クナツテモ借金ヲシテ迄モ小作料ヲ納入スルノカ農民ノ常テステ何故ナラ若シ小作料ヲ不納ナトシタ場合

ニハ直チニ地主ニ依ツテ小作地ヲ取上ケラレテ了フカラナノテステ小作人ニ取ツテ小作地ヲ取上ケラレルコト程恐ロシイ事ハアリマセンテスカラトソナ無理ヲシテマテモ小作料ヲ納メルノテステ從ツテ地主ニハ小作料ヲ不納サレル等トイフ心配ハナイノテステ若モ不作杯ニ依ツテ到底小作料ヲ納メラレナイ場合ニハ昔カラ小作料ヲ輕減スル慣習カ一般ニ現在モ尙存シテキルノテステ第二ニ地主ハ小作人ノ性情等ニ付イテハ多クノ場合同村内ニ住ンテ居ルノテアリマスカラヨク知ツテ居リマスソシテ小作料ヲ不納スル様ナ危険ノアル小作人ニ對シテハ決シテソノ土地ヲ貸付ケナイノテアリマス數十人或ハソレ以上モノ小作人ニ對シテ一々ソノ性情ヲ地主カ知悉スル様ナコトハ不可能テアルト御考ヘニナルカモ知レマセンカソノ様ナ多クノ小作人ヲ持ツテキル大地主ハ決シテ敷金等ヲ徵收シテキマセン若シモ地主カ小作料ノ不納ヲ懸念シテソノ擔保トシテ敷金ヲ徵收スルノテアツタラ斯ウシタ多數ノ小作人ヲ持ツ大地主コソ敷金ヲ大イニ徵收シナケレハナラナイ筈テステ然ルニ此ノ小作地ニ對スル敷金ナルモノハ本縣ニ於テモ全國的ニモ珍ラシイモノテアリ而モソウシタ大キナ地主ニ依ツテテハナク極ク小サナ僅カノ地主ニ依ツテ爲サレテキルト云フ事實ハ此ノ小作地ニ對スル敷金ト云フモノハ決シテ小作料ノ不納ヲ懸念シテノ擔保杯ト云フ性質ノモノテハナク一部強慾ナ地主ノ土地所有權ノ濫用ニ過キナイコトヲ最モヨク物語ツテキルト思ヒマス一般ニ敷金ト云フ名稱ヲ以テ呼ハレテキルニシテモコウシタ内容ノモノト都市ニ於ケル借家等ノ場合ノ敷金トフ同様ノモノトシテ混同シテキル所ニ明ナ誤認カアリマス

(ロ)「要求ニ應セサレハ飽クマテ大衆ニテ押掛クヘシ」赤旗ヲ立テテ爭議ヲ起スヘシト怒號シタト云フ事實ニ就テ——「要求ニ應セサレハ……云々」等トイフコトハ私ハ勿論他ノ人達モ云ヒマセン此ノ事件ニ付テハ私外六名ノ人達カ組合支部ノ總會ニ依リ交渉委員トシテ選ハレテ専ラコノ七名ノ者カ交渉ニ當ツテキタモノテスカラ交渉ニ行ツタ際ニハ此ノ七名カ交渉委員トシテ交渉ニ當ルコトヲ述ヘ又小作地ニ對スル敷金ト云フモノハ不當ナモノテアリ浪波モ困却シテキルノテアルカラ返還シテ呉レル様ニ若シソレヲ承認シテ呉レナケレハ組合トシテハコウシタ敷金等ト云フモノヲ排撃シテ飽クマテ戰フト云フコトハ言ヒマシタ又「要求ニ應セサレハ……云々」トハ或ハ言ツタカモ知レマセンソレハ私共カ小作地ノ爭議ノ際ニハソノ小作地ニ赤旗ヲ立テテ置イテ私共ハ如何ナル問題ニツイテ如何ナル要求ヲ掲ケテ戰ツテキルカト云フコトヲ出來ルタケ公然ト大衆ノ前ニ表示スル爲スウシタ方法ヲヨク取ツテキタカラテアリマス從ツテ此ノ事ハ從來地主奥山ニ對シテ餘リ公然トシタ問題ニハセス組合ノ内部的範圍ニ止メテ交渉ヲ進メテ來タノテスカ怎シテモ要求ヲ容レナケレハ廣ク一般ニ公然タル問題トシテ社會全般ノ批判ニ訴ヘテ敷金ヲ強制的ニ徵收スル等ト云フ不當ヲ排撃スルト申述ヘタノテス(ハ)怒號ナトハ致シマセン穩カニ話ヲ進メタノテス私共ハ過去數年間ニ互ツテ農民運動ヲシテ來タノテスシ色々ナ問題ニ付イテ地主等ニ對シテ數ヘ切レナイ程幾度モ交渉ニモ當リマシタ然シ一度モ怒號シタトカ脅迫シタトカ云フコトハナイノテスソノ事ニ依ツテモ此ノ度ニ限ツテソウシタ行動ヲ

執ル筈モナイシ又執ラナカツタト云フコトモオ判リニナルト思ヒマス從ツテ相手方ノ生命身體ニ危害ヲ加フヘキコトヲ暗示シテ畏怖セシメタ等ト云フコトハ全然事實ニ對スル誤ツタ認定テス(二)豫審終結決定書記載第四ノ事實ニ就イテ——債權者楨國吉ニ對スル鹿野梅太郎等ノ問題ニ於テハ私及鈴木岩吉 梁川惣五郎等ハ直接何等關リナイノテス此ノ事件ニ就イテハ專ラ福田兼次郎カ鹿野等ノ話ヲ聞イテ福田カ主ニナツテ交渉等ニ當ツテ居タモノテアリ昭和六年二月八日ニ福田等カ此ノ問題ニツイテ楨ニ對シテ交渉ノテ居タ際ニ私及鈴木等カ鈴木ノ問題(同決定書第五ノ事實)ニ付楨方ニ交渉ニ行キ偶然其處テ一緒ニナリ福田等カ楨ニ對シテ鹿野ノ問題ヲ百圓程ノ取分カアルト主張シテ居リ楨ハソナニ多イ筈ハナイト言ツテ解決シソソナ所マテ話カ進ンテ居タノテ私カテハ五十圓位ヲ決メタラ什タト云フト楨カ直チニ承知シテソウ解決シタノテアリマステスカラ此ノ問題ニ付イテ要求ニ應セサレハ毆リ付ケルソトカ其ノ他ノ惡罵ヲ浴セタ等ト云フコトハ私ノ關知シナイ所ナノテス(三)豫審終結決定書記載第五ノ事實ニ付イテ(イ)事件ノ經過——此ノ問題ノ當事者タル楨國吉ト鈴木岩吉トノ間ニ於テ金錢ノ貸借問題ヲ中心ニ數年間爭ヲ續ケテ居タモノテス楨ハ鈴木ニ對シテ千數百圓ノ受取分カアルト主張シ鈴木ハ又楨カ不法ナル手段ニ依ツテ鈴木カラ詐取シタモノテアルカラ逆ニ楨ヨリ千圓位ノ取分カアルノタト主張シテ民事及刑事訴訟等モ起シテ居タモノテスカ鈴木ハ何トモ困ルカラ私ニ仲裁シテ吳レト云フコトヲ私カ仲裁ニ入ツタモノテスソシテ昭和五年秋カラ昭和六年一月マテノ間ニ數回

ノ交渉ヲ重ネ更ニ楨方ノ使用人高橋某ノ仲裁ヲ得テ遂ニ楨及ヒ當時楨カ此ノ問題ノ一部ノ訴訟ヲ委任シテ居タ辯護士鈴木茂雄ト鈴木岩吉トノ三者ノ間ニ楨カ鈴木岩吉ニ對シテ四百圓ヲ出スコト等ノ條件ヲ以テ解決シタノテスカラ此ノ私ノ行動ハ全ク合法的範圍ヲ出ナイモノテ本問題ニ對スル交渉ヲ初メテ以來數箇月又解決後私共カ他ノ事件ニ依リ檢舉サレタ三月迄ノ間ノ二箇月警察テハ常ニ私共ノ此ノ問題ニ對スル交渉ヲ注視シ知悉シテ居ツタノニモ拘ラス一言ノ注意モ一度ノ取調ヘモ受ケナカッタト云フコトハ最モヨク私共ノ行動ノ合法的テアツタコトヲ裏書ヲシテ居ルモノテアルト云ハサルヲ得マセン(ロ)交渉ノ仕方——交渉ニ於テ「演說會ヲ開イテ惡口シテヤル」トハ誰モ申シマセン只此ノ問題ニ對スル楨ノ惡辣ナ遣方ヲ演說會等ニ依リ公然ト糾彈スルト云フ様ナコトハ言ツタカモ知レマセン然シ乍ラ法律ノ缺陷等ニ乘シテ社會正義ヲ無視シテ種々暴虐非道ナコトヲ遣ツテ居ルモノニ對シテハ斯ウシタ手段ニ依ツテ糾彈シテ行クト云フコトハ合法的ニ許サルヘキ性質ノモノテアリ又現ニ許サレテ居ルノテアリマスコレハ「惡口シテヤル」等ト言ツタ所謂名譽ヲ傷ケテヤル等ト云フコトトハ全然異ツタモノテス又ソレヲ普通一般ノ強盜恐喝漢カ兇器ヲ翳シ或ハ生命身體財產ヲ害スヘキ言動ヲ以テ相手方ヲ畏怖セシメル様ナ場合ト同斷ニ論スルコトモ許サレマセン原判決ハ又此點ニ於テ斯ル誤認ヲ爲シテ居ルト思ヒマス(四)同決定書記載第十五ノ事實ニ就テ威嚇的言辭ヲ弄シタト云フ點ニ就テ——相手方岡田泰治ハ金貸ヲ營ンテ月五分モノ高利ヲ貪ツテ貧困者ヲ苦シメテ居タモノテス其レニ

對シテ金ヲ貸スト云フコトハ良イカ併シ無法ナ高利ヲ以テシ情容赦モナク困ツテ居ル人々ニ對シテ無理無理取立テルト云フ事ハ誠ニ宜敷ナイト云フコトヲ說イタノテス靜カニ說得シタノテアツテ決シテ威嚇シタノテハアリマセン多衆ノ威力ヲ藉リトカ威嚇トカ云フ具合ニ原判決カ認定サレルノハ前述ノ大衆行動ト云フモノニ對スル誤ツタ考ヘ方カラ必然的ニ生レテ來ルモノテアツテソウシタ考ヘ方ヲ基礎トシタ此事實ニ對スル認定モ亦從ツテ誤ツタモノタラサルヲ得マセン第六、原判決ニ引用サレテ居ル證據ノ信憑力ニ就テ(一)引用サレタ證據ノ主ナルモノハ被害者タル相手方ノ豫審ニ於ケル調書テス然シ乍ラ是等ノ人々ハ何レモ地主テアリ高利貸テアリマス從ツテ彼等ハ常ニ農民組合ノ發展消長ニ重大ナル利害關係ヲ持テ常ニ其ノ發展ヲ阻止セントシテ居ルノテスカラ彼等ハ常ニ私共農民組合員タル被告人ニ對シテ不利トナル様ナコトヲ強調シテ申述ヘ出來ルタケ多クノモノヲ刑務所ニ繫キ以テ農民組合ノ壞滅ヲ計ラントシテ居ルノテスコウシタ人達ノ證言ハ決シテ充分ナル事實ノ真相ヲ現ハササルノミナラスソレヲ證據トシテ引用スルコトハ明ニ違法テアルト思ヒマス(二)共同被告人達ノ陳述ヲ證據トシテ引用シテ居ル點——此事件カ起訴サレルヤ豫審判事ハ八十五名ノ人々ヲ刑務所ニ勾留シマシタ勾留サレタ農民達ハ何レモ極ク貧農テス家族達ハ家ニアツテ働キ手ヲ失ヒ其ノ日ノ食物ニモ事缺クト云フ悲惨事カ數多ク惹キ起サレマシタ勾留サレタ農民達ハ一日モ早ク出獄シテコノ餓エタル家族達ヲ救ハネハナリマセンテシタテスカラ専ラ出獄ヲノミ希ヒ充分ニ自己ノ正シイ眞實ヲ述ヘル

コトカ出來ス相手方タル被害者達ノ言フ通りニ迎合シタモノカ多イノテアリマス從ツテコノ人達ノ陳述モ亦信憑力ノ不充分ナルコト明テアリマス原判決カ是等ノ證言ニ其ノ證據ヲ求メテ居ルト言フ事ハ事實ノ正當ナル理解ヲ妨ケテ居ルコト非常ニ多イノテス第七、本事件檢舉ノ動機カ警察當局ノ農民組合破壊ト云フ政治的意圖ニアツタモノテアルカ故ニ審理ノ基礎トナツタ警察調書及豫審調書ニ於テ事實カ著シク被告人ニ不利ニ歪メラレテ居ルコト——此點ニ就テ申述ヘタイ事ハ此事件ノ檢舉ノ動機カ當時ノ全國農民組合山形縣聯合會カ非常ナ勢ヲ發展シテ居タノテ何トカシテ警察當局カ其レヲ破壊シヨウトシテ居タノテアリマスカ遂ニ其ノ意圖カ此事件ノ檢舉トナツテ現ハレタノテアルト云フ點テアリマス此事件ノ龐大ナル記録ニ依ツテ既ニ御承知ノ如ク本事件ハ昭和五年十月頃カラ翌六年三月初マテ繰返ヘシ反覆サレテ居タモノテアリ然カモ其ノ事ハ警察當局ニ於テモ充分知悉シテ居タモノテアリマスカラ若シモ其レ等ノ事件ニ於テ原判決ニ記載ノ如ク明ナル恐喝事實カ其處ニ存在シテ居ルモノトシタナラハモットモット早く檢舉ヲ見ナケレハナラナカッタノテアリマス斯ル明ナ犯罪事實カ今日ノ完備シタ警察制度下ニ於テ檢舉ヲ見スシテ何故數箇月ニ亙ツテ反覆サレタノテセウ御審理ノ疑點ヲ此點ニ向ケテ頂キ度イノテアリマス此事ハ少クトモ本件事實カ原判決ニ記載サレテ居ルカ如キ其ノ儘ノ犯罪事實テハナカッタコトヲ最良ク裏書シテ居ルト思ヒマス本件ノ檢舉カ全農ノ組織ヲ破壊セントスル政治的意圖カラシテ爲サレタモノナルカ故ニ又警察調書及其レヲ基礎トシテ作ラレタ豫審調書竝

原判決ニ於テハ此意圖カラシテ事實カ著シク歪メラレテ認定サレテ居ル事ニ思ヒヲ致シテ頂キ度イノテアリマス第八、適用法律ノ錯誤ニ付テ——以上ノ諸點カラシテ適用法律カ誤ラレ暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反トシテ取扱ルヘキモノカ恐喝ト云フ苛酷ナル法律ニ依ツテ處斷セラレテ居ルノテアリマス元來暴力行爲等處罰ニ關スル法律ハ本件ノ如キ大衆的ナ社會運動カ相手方ヲ種々壓迫スル結果トナル故ニ其レカ相手方ノ生命、身體、財産、名譽等ヲ害スル様ナ矯激ナ點ニ互ラントスル場合其レヲ阻止セントシテ出來タモノテアリマス私共ノ場合ニ於テ豫審決定書及原判決ニハ常ニ多衆ノ威力ヲ以テ云々ノ言葉カ用ヒラレテ居ルノテアリマスカコレハ多衆ノ威力ヲ示シテ財産上不正ノ利益ヲ得又ハ得セシメントシタルモノトシテ明ニ暴力行爲等處罰ニ關スル法律第二條ヲ適用セラルヘキモノト考ヘラレマス單ニ財産上不正ナル利益ヲ目的トシテ強談威迫ヲ爲シタル場合即チ其レカ生命、身體等々ニ危害ヲ及ホス迄ニ至ラサル場合ニノミ暴力行爲等取締法ヲ適用サレルモノト思ヒマス私共ノ行爲モ亦以上ニ述ヘタ原判決ノ錯誤ヲ訂正スル時ニ於テハ同法ニヨリ裁判セラルヘキモノト思ヒマス何故ナラハ豫審終結決定書記載ノ第五ノ事實ニ就テノ原判決ニ於テハ「金ヲ出ス氣カ出サヌ氣カ」トカ「演說會ヲ開イテ糺彈スヘシ」等ト「威嚇的言辭ヲ弄シ云々」トアリ同第十三ノ事實ニ就テ原判決ハ「言ヒ出シタカラニハ後ヘハ引カヌ何回テモ押シカケテ來ル金鶏勳章ヤ恩給ヲ貰ヒ乍ラ高利貸ヲヤルトハ何事タ」ト「威嚇シ云々」トアリマスカコレハ暴力行爲等處罰ニ關スル法律第二條ノ「強談威迫ノ行爲」ト思

ハレマス又同決定書記載ノ第一ノ事實ニ就イテハ「爭議ヲ起スヘシ多衆ニテ押掛クヘシ」ト「生命、身體ニ危害ヲ加フヘキコトヲ暗示シ……云々」ト原判決ハ記載シテアルノテアリマス「爭議ヲ起スヘシ」多數ニテ押掛クヘシ」等ノ言葉ハ何ニモ直接的ニ生命身體ニ危害ヲ加フヘキコトヲ暗示スルコトニハナラナイト思ヒマステ私共ハ本事件ノ相手方タル奥山八藏ノ居住スル山形縣北村山郡小田島村ニ於テ昭和三年以來絶エス小作爭議ヲ繰リ返ヘシテ來テ居ルノテアリマスカラ奥山ハ爭議トハ如何ナルモノテアリ組合カ相手方ニ對シテ危害ヲ加ヘタリスルコトヲ常ニヤツテ居ルモノテナイコトハ充分知悉シテ居ル筈ナノテス故ニ私共カ假リニ「爭議ヲ起スヘシ」多衆ニテ押掛クヘシ」等ト云フコトヲ其ノ儘ニ言ツタトシテモソレカ直チニ直接相手方ノ生命、身體ニ直接危害ヲ加フヘキコトニハ決シテナラナイト思ヒマス（此點第五ノ個々ノ事實ニ關スル項ヲ御想起下サイ）又同決定書記載第四ノ事實ニ關シテハ私ノ關係ハ前述ノ通りテアリマス故ニ是等ノ私ノ關係シタ事件ニ就イテハ全部暴力行為等處罰ニ關スル法律ヲ以テ適用サルヘキモノト考ヘラレルノテアリマス以上申述ヘタ通りテアリマスカ私ハ私ト同様に告シテキル人達ニ對シテモ充分責任ヲ感シマスノテ私ノ正シイト思フ點ニ付刑事訴訟法第四百十四條ニ依リ充分上告理由カ存スルト信シ上告趣意書トシテ以上ノ如ク申述ヘタ次第テアリマスト云フニ在レトモ

債務ノ減免即論旨所謂借金棒引ハ債務者カ權利トシテ主張シ得サルコト敢テ説明ヲ俟タス互讓協調ヲ

旨トシ社會情勢ニ妥當スル請求ナルニ於テハ不法ヲ以テ目スヘキニ非ス若夫レ暴行脅迫ヲ手段トシ之ヲ強要スルカ如キニ至リテハ犯罪ヲ構成ス原判決カ證據ヲ擧ケテ認定スルトコロハ全國農民組合山形縣聯合會ハ昭和四年五月中從來組織セラレ居タル日本農民組合山形縣聯合會ヲ解消シ新ニ結成セラレタル結社ニシテ其ノ本部事務所ヲ同縣西村山郡谷地町ニ設置シ其ノ會員數六百ト稱セラレ創設當初ヨリ土地取上反對小作料減免等ノスローガンノ下ニ大衆的行動ニ依ル資本家地主ニ對スル徹底的闘争ヲ主眼トスル農民運動ニ從事シ來リタルカ漸次該運動ノ尖鋭化ニ伴ヒ遂ニ昭和五年七月ニ至リ要求貫徹ノ爲東村山郡長崎町地主柏倉文藏ヲ襲撃シテ所謂長崎事件ヲ勃發セシメ闘争ノ爲ニハ暴力モ敢テ辭セサルコトヲ如實ニ示スニ至レリ然ルニ同年十一月同會執行委員會ハ刻下農村ノ不況ニ基ク貧農ノ極端ナル窮乏ノ救済策ヲ協議シ其ノ結果豫テ全國農民組合ノ掲ケ來リタル借金棒引ノスローガンヲ採擇シ之ニ依リ負債ノ重壓下ニ在ル農民ヲ救済シ一面組合ノ擴大強化ヲ圖ランコトヲ決定シ偶長崎事件以來地主階級カ前記聯合會ノ暴力ヲ畏怖シ居ルニ乘シ之ヲ利用シテ山形縣下ニ於テ恐喝行為ニ出ツルニ至レリ被告人次良ハ右聯合會ノ執行委員長ニシテ（一）他數名ノ者ト共謀シ北村山郡小田島村居住奥山八藏カ從來浪波佐助ニ小作セシメ居タル田畑ニ對シ昭和二年七月敷金五十圓ヲ徴シタルハ不當ナリトシ同人ヲ恐喝シテ金員ヲ喝取センコトヲ企テ昭和五年十二月十日頃ヨリ同月二十一日頃迄ノ間五回ニ互リ共ニ八藏方ニ押掛ケ同人又ハ其ノ妻ツヤニ對シ前記組合ノ勢威ヲ示シ交々故ナク敷金ノ返還ヲ

多衆ノ威カヲ示シタル恐喝罪ノ擬律

迫リ且ツヤニ對シ要求ニ應セサレハ飽ク迄多衆ニテ押掛クヘシ赤旗ヲ樹テ爭議ヲ起スヘシ杯ト威迫シ
 ツヤヲシテ不安困惑ニ陥ラシメタル上同月二十五日同村阿部富藏方ニ於テ芦野彌市外二名ノ手ヲ經テ
 右ツヤヨリ浪波佐助ニ對シ敷金元利金返還名義ノ下ニ金六十圓ヲ交付セシメ(原判示第一事實)(二)被
 告人鈴木岩吉等數名ノ者カ共謀シ西村山郡谷地町居住檜國吉ヲ恐喝シ鹿野梅太郎 齋藤榮太郎 輕部作
 之助ノ各父ノ負擔セル債務ノ免脱ヲ得且同人ヨリ金員ヲ喝取センコトヲ企テ國吉方ニ押掛ケ同人ニ對
 シ前記組合ノ勢威ヲ示シ國吉カ曩ニ鹿野梅太郎ヨリ買受ケタル土地ヲ轉賣シ利益ヲ得タルニ對シ右ハ
 國吉ニ於テ兩者間ニ存セシ賣戻約定ヲ無視シタルニ依ルモノナル旨ノ口實ヲ構ヘテ之ヲ難詰シ其ノ利
 益ノ交付ヲ來メ且梅太郎ノ負擔セル金二百圓ノ元利金債務及昭和五年度年貢米一俵一斗九升大豆一俵
 三斗ノ債務ノ免除ヲ強要シ次ニ齋藤榮太郎ノ父庄八ノ負擔セル金百圓輕部作之助ノ父作助ノ負擔セル
 金五十圓ノ各元利金債務ニ付之カ免除ヲ強要シ尙同人ニ對シ馬鹿野郎惡高利貸詐欺漢杯ト罵詈譏謗シ
 不穩ナル勢威ヲ示シテ同人ヲ威嚇シタルカ被告人次良ハ新ニ右計畫ニ共同加擔シ同月八日鈴木岩吉等
 數名ノ者ト共ニ國吉方ニ押掛ケ數時間ニ互リ執拗ニ前記要求ヲ繰返シ國吉カ要求ノ一部ヲ拒否スルヤ
 今迄待タセテ勿ネ付クルトハ何事タ俺達ハ要求カ通ル迄頑張テ居ル此ノ馬鹿野郎杯ト威迫シ遂ニ同人
 ヲシテ前示債務ノ各免除ヲ承諾セシメ且涙金名義ノ下ニ鹿野梅太郎ニ對シ金五十圓ヲ交付セシメ(原
 判示第三事實)(三) 被告鈴木岩吉外數名ノ者ト共謀シ前記檜國吉カ畏怖シ居ルニ乘シ再ヒ同人ヲ恐

喝シ同人ト鈴木岩吉間ノ貸借上ノ精算問題ニ藉口シ同人ヨリ金員ヲ喝取シ尙國吉カ競賣ニ依リ正當ニ
 取得セシ元梁川惣五郎ノ所有地タル西村山郡北谷地村大字吉田字吉田五十八番地百二十二坪ヲ同人ニ
 返還セシメムコトヲ企テ昭和六年二月十一日及同月十三日ノ二回ニ互リ右共謀者ノ一部又ハ全部ノ者
 ト共ニ國吉方ニ押掛ケ同人ニ對シ故ナク右計畫セシ如キ金員及土地ノ返還ヲ強要シ且交々此ノ問題ハ
 梁川ニ宅地ヲ交付シ鈴木ニ金ヲ出サネハ解決出來ヌ金ヲ出スカ出サヌ氣カ飽ク迄モ金ヲ出サネハ演說
 會ヲ開キ惡口ヲ云フテ遺ル杯ト威嚇的言辭ヲ弄シ同人ヲ畏怖セシメ遂ニ同月十五日被告人次良單獨國
 吉方ニ於テ同人ヲシテ梁川惣五郎ニ對シ宅地ノ交付ヲ鈴木岩吉ニ對シ涙金名義ノ下ニ金四百圓ノ出金
 ヲ承諾セシメ更ニ翌十六日右金員ノ交付ヲ爲サシメ(原判示第四事實)(四) 被告人菊地安吉外十數名
 ノ者ト共謀シ西村山郡谷地町居住岡田泰治ヲ恐喝シ共謀者ノ一部其ノ他ノ者ノ負擔セル債務ヲ免脱セ
 シメンコトヲ企テ昭和六年二月十八日大舉シテ泰治方ニ押掛ケ前記組合並多衆ノ勢威ヲ示シテ同人ニ
 對シ井澤元治ノ元金二十五圓芦野長助ノ元金二十圓安達慶次郎ノ元金二十圓鹿野朝藏ノ元金二口合計
 百五十圓飛澤龜藏ノ元金二口合計九十圓輕部作之助ノ元金二口合計四十圓後藤彌三郎ノ元金三十圓檜
 芳太郎ノ元金六十圓小林勘吉ノ元金十圓渡邊惣吉ノ元金二口合計百五十圓伍島文彌ノ元金二口合計三
 十圓木鳥喜市ノ元金十圓高橋西藏ノ元金六十圓青木松治ノ元金十圓芳賀惣之助ノ元金二十圓竹川政吉
 ノ元金二十圓門脇岡藏ノ元金二十圓奥山勇太郎ノ元金三十圓奥山留藏ノ元金六十圓奥山寅治ノ元金五

十圓以上總計九百五圓及之ニ對スル各利息債務ノ免除ヲ強要シ同時ニ同人カ貸借ノ際天引シタル手數料ノ返還ヲモ強要シ且貧乏者ノ百姓ヲ苛メ付ケ腹ヲ肥シテ居ルオ前タ全部借金ヲ棒引シタ上一割ノ金ヲ水引掛ケテ出セ組合テハ云ヒ出シタ以上後ハ退カヌ何回ニテモ大勢ヲ押掛ケテ來ル金鷄勳章ヤ恩給ヲ貰ヒ乍ラ高利貸ヲ爲ストハ何事タ抔ト威嚇シ不穩ナル動向ヲ示シテ同人ヲ畏怖セシメタル上同人ヲシテ敍上ノ總計金九百五圓ノ元利金債務ノ免除竝出金ヲ承諾セシメ翌十九日谷地町細谷石丸方ニ於テ岡田才治ヲ通シ元金九百五圓ノ一割ニ相當スル金九十圓五十錢ノ交付ヲ受ケ以テ前示債務者等ヲシテ財産上不法ノ利益ヲ得シムルト共ニ右金員ノ喝取ヲ爲シタリ(原判示第十二事實)ト云フニ在ルヲ以テ前顯判示事實中所謂借金棒引ハ脅迫ヲ手段トシ之ヲ強要シタルモノニシテ其ノ行爲ハ刑法第二百四十九條ノ恐喝罪ヲ構成シ爾餘ノ行爲亦同罪ヲ構成スルコト多言ヲ須ヒス而シテ暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項ノ方法ニ依リ刑法第二百四十九條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ付テハ同法律ニ處罰規定存セサルヲ以テ單ニ右刑法ノ法條ヲ適用處斷シ前記法律ヲ以テ問擬スヘキモノニ非ス故ニ原判決カ判示事實ニ付刑法第二百四十九條ヲ適用シタルハ正當ナリ記錄ヲ精査スルニ原判決ノ事實認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトナク原審ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨判斷ヲ攻撃スルハ上告適法ノ理由ト爲ラス論旨ハ毫モ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

【要旨】

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事 樫田忠美關與

○市會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和九年(レ)第六八二號
 同年十月八月第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 田中新七 辯護人 (高山義三
 外一名 濱田國三 松三
 【第一審】 京都區裁判所 【第二審】 京都地方裁判所

○判示事項

衆議院議員選舉法第九十八條ノ個々面接行爲

○判決要旨

個別的ニ應接スル意圖ヲ以テ各個ニ認識シタル特定多數ノ選舉人

衆議院議員選舉法第九十八條ノ個々面接行爲